守りたい
加茂の豊かな自然

守りたい加茂の豊かな自然 編集委員会

守りたい加茂の豊かな自然

目　次

発刊のご挨拶 …… 3
まえがき …… 7

Ⅰ．加茂の自然

1．大地と大気
⑴　地形 …… 12
⑵　地質 …… 18
⑶　気象（大気） …… 25

2．動植物
⑴　植物 …… 42
①植生 …… 42
②植物相 …… 51
⑵　哺乳類 …… 83
①哺乳類相 …… 83
②特徴的な哺乳類 …… 84
⑶　鳥類 …… 87
①鳥類相 …… 87
②特徴的な鳥類 …… 89
⑷　爬虫類 …… 95
①爬虫類相 …… 95
②特徴的な爬虫類 …… 96
⑸　両生類 …… 98
①両生類相 …… 98
②特徴的な両生類 …… 99
⑹　魚類 …… 101
①魚類相 …… 101
②特徴的な魚類 …… 103
⑺　昆虫類 …… 107
①昆虫類相 …… 107
②特徴的な昆虫類 …… 108
⑻　十脚甲殻類 …… 156
①十脚甲殻類相 …… 156
②特徴的な十脚甲殻類 …… 157
⑼　淡水貝類 …… 158

Ⅱ．貴重な地形・地質

１．特徴的な地形・地質 ……162
(1)　地形 ……162
(2)　地質 ……167
２．保護・保存する地形・地質 ……171
(1)　地形 ……171
(2)　地質 ……173

Ⅲ．貴重な動植物種

１．総論 ……180
(1)　貴重な動植物種の選定方法 ……180
(2)　選定結果概要 ……183
２．各論 ……184
(1)　植物 ……184
(2)　哺乳類 ……219
(3)　鳥類 ……222
(4)　爬虫類 ……228
(5)　両生類 ……230
(6)　魚類 ……234
(7)　昆虫類 ……242
(8)　十脚甲殻類 ……256
(9)　淡水貝類 ……257

Ⅳ．外来種

１．総論 ……260
(1)　外来種の定義とリストの目的 ……260
(2)　加茂地区の外来種の概要 ……263
２．各論 ……264
(1)　植物 ……264
(2)　哺乳類 ……290
(3)　鳥類 ……293
(4)　爬虫類 ……295
(5)　両生類 ……297
(6)　魚類 ……298
(7)　昆虫類 ……303
(8)　十脚甲殻類 ……316
(9)　淡水貝類 ……317

執筆者・協力者 ……319
あとがき ……321

Ⅲ．貴重な動植物種

１．総論

（１）貴重な動植物種の選定方法

①選定の目的

加茂地区には木曽川・飛騨川といった大きな川が流れ、美濃山地や美濃加茂盆地といった多様な自然環境を有することで、様々な動植物が生息している。伝統的な農業・林業といった人々の営みによってできた里山も、野生の哺乳類や鳥類、爬虫類、両生類、淡水魚、昆虫、植物などが人とともに暮らす環境として、豊かな自然を形成してきた。しかし、近年の大規模な開発行為、農業や林業の衰退に伴う里山の放棄、外来種の侵入、地球規模での気候変動等によって自然が失われつつあり、加茂地区内でも多くの動植物が姿を消しつつある。

失われつつある自然環境を保全するためには、具体的にどのような生物種が減少し、絶滅のおそれがあるのか（あるいはすでに絶滅したのか）を明らかにする必要がある。国際的には、1966年に国際自然保護連合（IUCN）が最初のレッドリスト（絶滅のおそれのある種のリスト）を作成し、公表した。その後、すでにレッドリストに選定された種の生息状況が変化するとともに、それまで評価対象でなかった動植物種も含めた生物学的知見の蓄積、分類学的な進展、絶滅リスクの評価手法の進歩などもあって、IUCN版レッドリストは繰り返し改訂され、世界における保全活動のための科学的な情報源とされている。

日本においても1991年に環境庁（当時）によるレッドリストが作成され、その後は各都道府県版のレッドリストも作成されている。岐阜県では2001年に「岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物―岐阜県レッドデータブック―」を発行し、2010年に動物編、2014年に植物編の改訂版レッドデータブックを発行（ウェブ版のみ）している。県内の他の市町村では、御嵩町（2005年初版、2013年改訂版）と岐阜市（2015年）が作成している。

これらの様々なスケールでのレッドリストの作成は、地域ごとに自然環境の保全を行う上で重要である。IUCN版レッドリストにおいては、その種全体の絶滅リスクを評価するため、複数の国や地域にまたがって分布する種の場合、一部の国や地域においてその種が確実に存続できるならば、それ以外の国や地域で絶滅する可能性が高くとも絶滅危惧種にはならない。日本版レッドリストにおいても同様であり、日本全体でのその種の絶滅リスクを評価した場合、個々の都道府県や市町村では、その種が激減もしくは絶滅したとしても、その情報は反映されない可能性がある。したがって、郷土の自然環境を保全する場合、その地域における自然環境の現状を調査し、評価する必要がある。

加茂地区における「貴重な動植物種」の選定は、郷土の自然環境を保全し、将来世代へと引き継いでいくための基礎資料としての加茂地区レッドリストであり、市町村や市民の活動のための情報源として活用されることを目的としている。

②選定体制

加茂地区の貴重な動植物種（以下、加茂地区レッドリスト）の選定は、みのかも定住自立圏事業として実施された自然環境多様性基礎調査に基づいて、加茂地区レッドリスト選定委員会（表1）によって評価方法を検討し、種の選定を行った。

表１　加茂地区レッドリスト選定委員会　　◎委員長

担当分類群	氏　　名	所　　属
種子植物	◎安藤志郎	美濃加茂自然史研究会
シダ植物	村瀬正成	美濃加茂自然史研究会
哺乳類	梶浦敬一	ぎふ哺乳動物研究会
鳥類	荒井　浩	日本野鳥の会岐阜
爬虫類・両生類	高木雅紀	岐阜県立岐阜高等学校　教諭
魚類・十脚甲殻類	向井貴彦	岐阜大学地域科学部　准教授
昆虫	髙井　泰	岐阜県立加茂農林高等学校　教諭
淡水貝類	栗山圀彦	川辺自然を守る会

③選定対象分類群・対象種

加茂地区レッドリストの選定対象とした分類群は、自然環境基礎調査によって地区内での生息状況等が判断できる情報が得られた「植物（シダ植物・種子植物）」「哺乳類」「鳥類」「爬虫類」「両生類」「魚類」「昆虫」「十脚甲殻類」「淡水貝類」の9分類群とした。

各分類群における選定対象種は、加茂地区に自然分布していた在来種のみとした。また、近世以前に絶滅した種は対象としなかった。他の地域から偶発的に飛来した動植物種については原則的に対象外としたが、トキのように明治時代に狩猟によって激減したことで、充分な記録が残される前に絶滅寸前となったと考えられるものについては、対象種とした。一方、ニホンカワウソのように加茂地区に生息していたことが伝聞としては残されていても、具体的な写真や標本が皆無の場合は対象外とした。

④レッドリストカテゴリーの定義

加茂地区レッドリストのカテゴリー定義については、「環境省レッドリストカテゴリーと判定基準（2018）」、「岐阜県レッドリスト（動物編）改訂版」（2009年）、「岐阜県レッドリスト（植物編）改訂版」（2013年）、「岐阜市版レッドリスト」（2015年）を参考に、表2のとおり定性的要件によって定義した。

加茂地区における動植物の個体数や生息面積等の変化についての定量的データは充分ではないため、IUCNや環境省のレッドリストにおいて採用されている定量的要件はカテゴリー定義に用いなかったが、個体群の減少について「過去10年もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて70％以上の減少」を絶滅危惧I類、「過去10年もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて50％以上の減少」を絶滅危惧II類とする定量的要件は、加茂地区で個体数や生息地の減少が生じている種のカテゴリーを判定する上での参考とした。

表２　加茂地区レッドリストカテゴリー定義

カテゴリー	基本理念	定性的要件
絶滅 Regionally Extinct (RE)	加茂地区ではすでに絶滅したと考えられる種（IUCNの指針における「地域絶滅」）	過去に加茂地区内に生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、地区内ではすでに絶滅したと考えられる種。具体的には、次のいずれかの事項を満たすもの。 ①信頼できる調査や記録により、すでに野生で絶滅したことが確認されている。 ②信頼できる複数の調査によっても、生息が確認できなかった。 ③過去の長期間にわたり（例えば50年間前後）、信頼できる生息の情報が得られていない。
野生絶滅 Extinct in the Wild (EW)	加茂地区において飼育・栽培下でのみ存続している種。	過去に加茂地区内に生息したことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、地区内の本来の自然の生息地ではすでに絶滅したと考えられる種。(具体的要件は「絶滅」と同じ)
絶滅危惧I類 （環境省レッドリストにおける絶滅危惧IA類とIB類に相当） Critically Endangered +Endangered (CR+EN)	加茂地区において絶滅の危機に瀕している種。 現在の状態をもたらした圧迫的要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。	加茂地区内において、次のいずれかに該当する種。 ①既知のすべての個体群で、危機的水準にまで減少している。 ②既知のすべての生息地で、生息条件が著しく悪化している。 ③既知のすべての個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種が侵入している。 ⑤それほど遠くない過去(30年～50年)の生息記録以後確認情報がなく、その後信頼すべき調査が行われていないため、絶滅したかどうかの判断が困難なもの。
絶滅危惧II類 Vulnerable (VU)	加茂地区において絶滅の危険が増大している種。 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ｉ類」のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの。	加茂地区内において、次のいずれかに該当する種。 ①大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。 ②大部分の生息地で生息条件が明らかに悪化しつつある。 ③大部分の個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④分布域の相当部分に交雑可能な別種が侵入している。
準絶滅危惧 Near Threatened (NT)	加茂地区において存続基盤が脆弱な種。 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位カテゴリーに移行する要素を有するもの。	加茂地区内において、次に該当する種。 生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。具体的には、分布域の一部において、次のいずれかの傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。 ａ)個体数が減少している。 ｂ)生息条件が悪化している。 ｃ)過度の捕獲・採取圧による圧迫を受けている。 ｄ)交雑可能な別種が侵入している。
情報不足 Data Deficient (DD)	加茂地区において絶滅のおそれがあると考えられるが、カテゴリーを判定するだけの情報が不足している種。	加茂地区内において、次に該当する種。 環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性（具体的には、次のいずれかの要素）を有しているが、生息状況をはじめとして、カテゴリーを判定するに足る情報が得られていない種。 a)どの生息地においても生息密度が低く希少である。 b)生息地が局限されている。 c)生物地理上、孤立した分布特性を有する（分布域がごく限られた固有種等）。 d)生活史の一部又は全部で特殊な環境条件を必要としている。

⑤地域レッドリストにおける評価方針

レッドリストの作成において、対象とする地域の地理的範囲は重要である。対象とする生物種の分布域全体を含む広域的なレッドリスト評価では、その種全体の絶滅リスクを評価することになる。しかし、分布域の一部しか含まない地域版レッドリストでは、周辺地域からの個体の移入の状況によって地域的な絶滅のリスクは変化する。IUCN種の保存委員会作成の「IUCNレッドリスト基準を地域・国レベルで適用するための指針」(https://www.iucnredlist.org/resources/regionalguidelines)では、地域版におけるカテゴリーランクの評価結果の調整のための指針が提案されており、加茂地区レッドリストでは2010年の「IUCNレッドリスト基準を地域・国レベルで適用するための指針4.0版」を参考に選定種のカテゴリーを調整し、決定した。

(2) 選定結果概要

自然環境基礎調査によって、維管束植物1416種(シダ206種、種子植物1210種)、哺乳類32種、鳥類199種、爬虫類14種、両生類18種、魚類42種、昆虫3304種、十脚甲殻類4種、淡水貝類14種が在来種として分布することが確認されている。今回の加茂地区レッドリストでは全体の4.5%にあたる80種をレッドリストに選定した(表3)。レッドリスト選定種の割合が多いのは両生類(55.6%)、魚類(35.7%)、淡水貝類(35.7%)であり、河川や水田地帯に生息する種が多く選定される傾向にあった。すでに絶滅したと判断されたのは、大正時代に七宗町で捕獲されたことのあるトキである。デンジソウについても野外では絶滅しているため、野生絶滅とされた。

表3　加茂地区レッドリストにおける分類群別・カテゴリー別種数

分類群	絶滅	野生絶滅	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	準絶滅危惧	情報不足	合計	在来種数に対する%
シダ植物	0	1	7	12	5	2	27	13.1
種子植物	0	0	21	22	44	8	95	7.9
哺乳類	0	0	0	0	3	3	6	15.6
鳥類	1	0	3	4	10	0	18	9.0
爬虫類	0	0	0	1	1	2	4	28.5
両生類	0	0	1	3	4	2	10	55.6
魚類	0	0	4	4	3	4	15	35.7
昆虫	0	0	10	10	19	9	48	1.5
十脚甲殻類	0	0	0	0	1	0	1	25.0
淡水貝類	0	0	0	3	1	1	5	35.7
合計	1	1	46	59	91	31	229	4.5

執筆：向井貴彦

2．各論

（1）植物

加茂地区の植物（シダ植物・種子植物）のレッドリスト選定種として、シダ植物27種、種子植物95種、合わせて112種を選定した。これらの種数は過去に採集された標本や今回の調査によって確認された在来植物1,416種のうち7.9％にあたる。

選定にあたっては、各植物種の生育環境を検討し、森林の現状や開発行為、営利目的の採取などの判定基準にしたがってカテゴリーを決定した。それらに加え、「岐阜県希少野生生物保護条例」（平成15年，条例第22号）や「環境影響評価のためのレッドデータブック」（岐阜県，平成11年）に記載されている植物の分布状況なども把握することに努めた。加茂地域は南から暖帯性植物が河川沿いに北上し、北からは寒帯性植物が南下している接点でもある。東海丘陵要素植物群の北の端であり、色々な要素を持った植物相が絡み合った生物種の交差点になっている。これらの要素を考慮し、この地域における絶滅危惧種を選定した。

絶滅危惧種をカテゴリー別に見ると、野生絶滅としてシダ植物のデンジソウが挙げられる。かつてデンジソウが生育していた美濃加茂市の稲辺の池は、ヌマガイも多く、豊かな生物相が見られたが、周辺の開発、池の改修などにより多くの種が絶滅したと考えられている。

絶滅危惧Ⅰ類はトキワシダ、ミズニラなどシダ植物7種、イワチドリ、エビネ、クマガイソウ、サギソウ、イヌノフグリなど種子植物21種、合わせて28種を選定した。エビネ、クマガイソウ、サギソウなどラン科植物は1 ～ 2 ヶ所でしか確認されておらず、絶滅が危惧される。ヒメビシ、ミノコバイモ、ジュンサイなども生育確認されているが、ともに採取圧や土地の改変があれば絶滅する。

絶滅危惧Ⅱ類はイワオモダカ、イワヒバなどシダ植物12種、カワラナデシコ、カワラハハコ、キイイトラッキョウ、キキョウ、マツムシソウなど種子植物22種、合わせて34種を選定した。河川の岩場に多いイワヒバやキイイトラッキョウは愛好家により採取されることが多く個体数は減少している。また河川環境はダムの影響で河原の土砂の運搬が変化し、カワラハハコやカワラナデシコの生育環境が失われ消滅の危機にある。かつてはオキナグサが河原に生育していたと言われているが、確認はされていない。山間部の陽当たりの良い草地にはマツムシソウが生育しているが、現在確認できているマツムシソウの生育する草地は、草刈が施されておらず荒れているため、絶滅の恐れがある。また、レンゲツツジの生育地はオオミズゴケの繁茂する湿地が改変され、生育環境が損なわれている。

準絶滅危惧はビロードシダ、コケシノブなどシダ植物5種、ツメレンゲ、ドロニガナ、ブナなど44種の種子植物を合わせて49種を選定した。木曽川や飛騨川の冠水する岩場には渓流に適応した植物が多く見られ、ドロニガナ、アオヤギバナ、センボンギク、キハギの渓流適応タイプの貴重な種が生育している。キハギなど幾つかの種についてはさらに詳細な調査が必要である。ブナは岐阜県では標高1,000m前後で出現するが、加茂地区のブナは伐採されヒノキ植林地に置き換わり、ほぼ絶滅に近い状態であるため選定した。

情報不足としてシダ植物でウスバシケシダ、ミヤコヤブソテツの2種、種子植物がアサザ、オナモミ、スダジイなど8種、合わせて10種を選定した。ウスバシケシダについては詳しい調査がされていないこと、アサザに関しては持ち込まれた可能性があること、スダジイに関しては1ヶ所のみで、しかも人為的に植栽された可能性もあり評価出来ないため、今後の調査を待つこととする。

シダ植物選定種一覧

加茂地区カテゴリー	種　名	学　名	岐阜県カテゴリー	環境省カテゴリー
野生絶滅	デンジソウ	*Marsilea quadrifolia*	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類
絶滅危惧Ⅰ類	トキワシダ	*Asplenium yoshinagae*	絶滅危惧Ⅰ類	—
	オクタマシダ	*Asplenium pseudowilfordii*	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
	アオネカズラ	*Goniophlebium niponicum*	絶滅危惧Ⅱ類	—
	ミズニラ	*Isoetes japonica*	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧
	トキワトラノオ	*Asplenium pekinense*	絶滅危惧Ⅰ類	—
	ヒロハナライシダ	*Arachniodes quadripinnata* subsp. *fimbriata*	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧IB類
	オワセベニシダ	*Dryopteris ryo-itoana*	絶滅危惧Ⅱ類	—
絶滅危惧Ⅱ類	イヌチャセンシダ	*Asplenium tripteropus*	準絶滅危惧	—
	オオクボシダ	*Micropolypodium okuboi*	絶滅危惧Ⅱ類	—
	ヤノネシダ	*Lepidomicrosorium buergerianum*	絶滅危惧Ⅱ類	—
	イワオモダカ	*Pyrrosia hastata*	—	—
	ナカミシシラン	*Haplopteris fudzinoi*	絶滅危惧Ⅱ類	—
	タカサゴキジノオ	*Plagiogyria adnata* var. *adnata*	絶滅危惧Ⅱ類	—
	ミドリカナワラビ	*Arachniodes nipponica*	絶滅危惧Ⅱ類	—
	ハコネシダ	*Adiantum monochlamys*	絶滅危惧Ⅱ類	—
	ヒメサジラン	*Loxogramme grammitoides*	—	—
	イワヒバ	*Selaginella tamariscina*	—	—
	ナガホノナツノハナワラビ	*Botrychium strictum*	準絶滅危惧	—
	ナチクジャク	*Dryopteris decipiens*	準絶滅危惧	—
準絶滅危惧	ビロードシダ	*Pyrrosia linearifolia*	—	—
	コケシノブ	*Hymenophyllum wrightii*	—	—
	ミズスギ	*Lycopodiella cernua*	—	—
	コヒロハハナヤスリ	*Ophioglossum petiolatum*	—	—
	オオコケシノブ	*Hymenophyllum badium*	—	—
情報不足	ウスバシケシダ	*Deparia longipes*	—	絶滅危惧Ⅱ類
	ミヤコヤブソテツ	*Cyrtomium yamamotoi*	—	—

デンジソウ
Marsilea quadrifolia　　デンジソウ科

加茂地区：野生絶滅
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅰ類
環 境 省：絶滅危惧Ⅱ類

種の概要：水生シダ植物で、水中では浮葉状態で水に浮き、水が枯れ抽水状態になると葉茎が立つ。葉は二形で栄養葉は四葉のクローバーに似ている。根茎は地中を長く匍匐し、絡み合って葉茎を出すため生育場所は群生状態になる。

生育状況と存続を脅かす要因：かつては、水田雑草と言われるほど何処にでも見ることができたが、湿田が乾田へと変化することにより水辺の生育環境が狭まり、農薬にも弱いことから全国的に生育地が減少した。絶滅したと考えられている県もあるほどである。

分布：地区内　かつて美濃加茂市に生育地があり標本も残されているが、現在は絶滅。
県　内　県南部の1地域にのみ生育地がある。

トキワシダ
Asplenium yoshinagae　　チャセンシダ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅰ類
環 境 省：－

種の概要：樹木や岩場に着生する常緑性シダで、柄を持った細長い披針形。葉軸上に無性芽ができる。切れ込みは1回羽状複生～2回羽状中裂。3回羽状深裂になるオクタマシダや3回羽状複生になるアオガネシダによく似ている。

生育状況と存続を脅かす要因：岐阜県では生育していないと考えられていたが、近年加茂地区の岩場で生育が確認された。生育地は太平洋側に片寄っており、内陸県としては関東の一部と岐阜県のみで、中部地方以西では北限に位置する。生育地が少ないうえ、開発工事による生育地の消失と人為的採取により個体数が急減している。

分布：地区内　生育地は2ヶ所のみで、個体数も極めて少ない。
県　内　生育地は加茂地区のみである。

オクタマシダ
Asplenium pseudowilfordii　　チャセンシダ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：絶滅危惧Ⅱ類

種の概要：樹木や岩場に着生する常緑性シダで、柄を持った細長い披針形。切れ込みは2回羽状深裂～ 3回羽状深裂。切れ込みの少ないトキワシダや3回羽状複生になるアオガネシダによく似ている。

生育状況と存続を脅かす要因：林道沿いの岩場に生育している。対馬以外の日本海側に生育地はなく、本州の福島県以西と、四国に生育している。中部地方以西では北限に位置している。生育地が少ないうえ、開発工事による生育地の消失と人為的採取により個体数が急減している。

分布：地区内　生育地は数ヶ所知られているが、個体数は極めて少ない。
県　内　県南部の丘陵地に生育地がある。

アオネカズラ
Goniophlebium niponicum　　ウラボシ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：－

種の概要：樹木や岩場に着生する冬緑性シダで、緑色の根茎がツタのように長く匍匐し絡み合って伸びる。全体の形は柄を持った広披針形から卵状長楕円形で両側に深く切れ込む。両面に短い開出毛がありビロードのように柔らかい。

生育状況と存続を脅かす要因：林内の岩場に生育している。暖帯性のシダで関東以西に分布している。隠岐の島と富山県に飛び離れた生育地があるが、その2地点を除くと岐阜県の生育地は日本のほぼ北限に位置している。生育場所が限定されているうえ、岩場の崩落による生育地の消失と人為的採取により個体数が急減している。

分布：地区内　生育地は凝灰質岩の岩場に限られており、生育地は2ヶ所、個体数も極めて少ない。
県　内　生育地は少なく、県南部の石灰岩、凝灰岩の岩場に限られる。

ミズニラ
Isoetes japonica　　ミズニラ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅰ類
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：夏緑性水生シダ植物で、沈水状態では水中で開出して漂い、水の引いた抽水状態になると葉が立つ。塊状の茎から柔らかい円柱形の葉が放射状に広がる。

生育状況と存続を脅かす要因：林縁部の湿地に生育している。栄養価の乏しい山間の湿地やため池で生育地を確認することが多い。水質の悪化が主要因であるが、河川、水路の改修により生育環境が狭められ全国的に生育地が減少している。

分布：地区内　生育地は２ヶ所のみで、個体数も極めて少ない。
県　内　県南部の湿地、ため池、放棄水田等に限られる。

トキワトラノオ
Asplenium pekinense　　チャセンシダ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅰ類
環 境 省：－

種の概要：日当たりや風通しの良い路傍などの岩場や石垣に生育する常緑性シダで、全体の形は柄を持った広披針形。切れ込みは2回羽状深裂～全裂。最下羽片は短く、掌状に広がる。最下羽片が伸びるコバノヒノキシダに似ているが、葉は深緑色で光沢がありやや厚く硬い。

生育状況と存続を脅かす要因：道路沿いの石垣に生育している。生育する路傍の岩場や石垣は改修や拡張による改変が多く、周辺の山林が放置され日照条件が悪化することも減少の要因となる。

分布：地区内　生育地は木曽川左岸の石垣１ヶ所のみで、個体数も少ない。
県　内　生育地は加茂地区の１ヶ所のみである。

ヒロハナライシダ
Arachniodes quadripinnata subsp. *fimbriata*　　オシダ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅰ類
環 境 省：絶滅危惧ⅠB類

種の概要：山地の林床に生育する常緑性シダ。全体の形は長い柄を持った五角形で4回羽状複生。かつては、九州と奈良県にのみ生育するとされていたが、三重県北部と岐阜県加茂地区で飛び離れて隔離分布しているのが確認された。加茂地区での生育地は、日本の北限であり東限でもある。

生育状況と存続を脅かす要因：林道沿いの山林林床に生育している。生育地が一ヶ所であることと、林道の改修や山林放置による日照条件の悪化により生育環境が急変し個体群が衰退する恐れがある。

分布：地区内　生育地は林道沿い林縁部の1 ヶ所のみである。
県　内　生育地は加茂地区の1 ヶ所のみである。

オワセベニシダ
Dryopteris ryo-itoana　　オシダ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：－

種の概要：山林内崖地下部のガレ地に生育することの多い常緑性シダ。全体の形は卵状三角形で、2回羽状複生。最下羽片の下向き第一小羽片が八の字形に広がるのが、他のベニシダ類と大きく異なる点である。

生育状況と存続を脅かす要因：林内のガレ場に生育している。もともと生育地の少ないシダで、群生することもほとんどない。岐阜県の生育地は、日本の北限と東限になっている。採集による被害はないが、林内が伐採されたりすると強い陽光にさらされたり、乾燥化が進んだりして消滅することが多い。

分布：地区内　生育地は1地区のみである。
県　内　県南部に生育地が数ヶ所点在している

イヌチャセンシダ
Asplenium tripteropus　　チャセンシダ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：岩上に生育する常緑性シダ。根茎は塊状、枯れた葉の葉柄と葉を多数叢生する。全体の形は細長く伸びた単羽状。葉柄は紫褐色で光沢があり、中軸の中央には翼がある。よく似たチャセンシダにはこの翼がない。

生育状況と存続を脅かす要因：木曽川沿いの岩場に生育している。もともと個体数が少ないうえ、岩場の崩落による生育地消失の危険性もある。最も緊急な課題は、丸山ダムかさ上げ時には水没予定地となっていることである。周辺の同様な環境の岩場を調査する必要がある。

分布：地区内　丸山ダム上流部、木曽川右岸の岩場1ヶ所のみである。
県　内　県中央部の石灰岩山地と加茂地区の崖地。

オオクボシダ
Micropolypodium okuboi　　ウラボシ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：－

（撮影　村長昭義）

種の概要：山地の岩上、樹上でコケに混じって生育する小型の常緑性シダ。葉は短い根茎から叢生し、狭披針形から線形で羽状に深裂する。葉の両面に堅い赤褐色の毛をつける。採集圧が極めて高いシダで、15㎝以上になるものはほとんど見られない。数㎝の大きさで胞子嚢群を着ける個体もある。

生育状況と存続を脅かす要因：岩上でコケに混じって生育している。生育地が少ないことと、目に付けば山野草愛好家によって採取されてしまう。

分布：地区内　生育地は1ヶ所のみである。
県　内　県南部から中央部の山地に生育地が点在している。加茂地区の生育地は南端に位置している。

ヤノネシダ
Lepidomicrosorium buergerianum　　ウラボシ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：－

種の概要：地上、岩上、樹幹に生育する常緑性シダ。根茎は長く匍匐し絡み合って伸びる。全体の形は、胞子嚢の着かない三角形の栄養葉から細長い胞子葉までさまざま。

生育状況と存続を脅かす要因：林縁部の地上から岩上に広がって生育している。林道の改修や山林放置による日照条件の悪化により生育環境が急変する恐れがある。また石付けされた盆栽を見ることがあり、山野草愛好家による採取の可能性も否定できない。

分布：地区内　生育地は2地区の林縁部のみで、個体数も少ない。
県　内　加茂地区以外では県中央部の河川沿い崖地に小群生している。

イワオモダカ
Pyrrosia hastata　　ウラボシ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：石灰岩や凝灰岩のようなアルカリ質の岩場に生育する常緑性シダ。短く横走する根茎から、鉾形で3～5裂し葉身と同じ長さの柄をもつ葉がこみ合って着く。葉は無毛で厚い。

生育状況と存続を脅かす要因：凝灰岩上に生育しているが個体数は少ない。生育環境の地質がアルカリ性土壌に限定されるため生育に適した場所が少ない。また、イワヒバのように古くから園芸品として好まれている植物で、山野草愛好家による採取圧がきわめて高い。

分布：地区内　生育地は1地区のみである。
県　内　県中央部と南部の石灰岩や凝灰質岩が露出した地区に点在している。

ナカミシシラン
Haplopteris fudzinoi　　イノモトソウ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：－

種の概要：空中湿度の高い崖地、岩上、樹幹に着生して垂れ下がる常緑性シダ。全体の形は線形で、シシランに似ているが胞子嚢群のつき方が異なる。

生育状況と存続を脅かす要因：林内の崖地に着生し長く垂れ下がっている。シシランは平野部でも生育しているが、ナカミシシランは山地性で加茂地区の生育地は岐阜県ではもっとも南に位置している。生育場所が限定されているうえ、他地区では道路拡張と岩場の崩落による生育地の消失や、樹木の伐採による山林の乾燥化により生育地が消滅した事例がある。

分布：地区内　生育地は１ヶ所のみである。
県　内　県中央部の山林内崖地に生育地が多い。

タカサゴキジノオ
Plagiogyria adnata var. *adnata*　　キジノオシダ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：－

種の概要：山地の林床に生育する常緑性シダ。葉は線形の胞子葉と単羽状の栄養葉の二形となり根茎から叢生する。キジノオシダによく似ているが、葉柄の断面が台形であること、羽片が鎌形に曲がること、頂羽片がはっきりしないことなどが異なる。

生育状況と存続を脅かす要因：植林地の林床に生育しているが個体数は少ない。南方系のシダで、加茂地区の生育地は日本のほぼ北限に位置している。林道の改修や山林放置による日照条件の悪化により生育環境が急変する恐れがある。

分布：地区内　生育地は数ヶ所あるが個体数は少ない。
県　内　県南部の低地山林内に生育地が点在している。

ミドリカナワラビ
Arachniodes nipponica　　オシダ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：－

種の概要：山地の林床に生育する常緑性シダ。葉は長卵形で3回羽状深裂から複生、下部が紅紫色をおびた長い柄を持つ。光沢のある鮮緑色でやや厚ぼったく、全形が1mになるものもある。

生育状況と存続を脅かす要因：林内の林床に生育している。もともと生育地の少ないシダで、根茎は横走するが群生することは少ない。岐阜県の生育地は日本の北限になっている。大型のシダで採集による被害はほとんどないが、林内が伐採されたりすると強い陽光にさらされたり、乾燥化が進んだりして消滅することが多い。

分布：地区内　生育地は1地区の２ヶ所のみである。
県　内　県南部の加茂地区周辺にのみ生育地が点在している。

ハコネシダ
Adiantum monochlamys　　イノモトソウ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：－

種の概要：岩上や崖斜面下部に生育する常緑性シダ。葉柄は堅く紫色から赤褐色。全体の形は卵状長三角形で、3回羽状に分かれ三角形の小葉をつける。

生育状況と存続を脅かす要因：崖斜面下部に生育している。美しいシダで、山野草愛好家による採取の可能性が高い。また山林が放置されることにより日照条件が悪化し個体が縮小したり消滅したりすることも多い。

分布：地区内　生育地は１ヶ所のみである。
県　内　県南部に生育地が点在しているが、加茂地区はほぼ東端に位置している。

ヒメサジラン
Loxogramme grammitoides　ウラボシ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：岩上、樹幹でコケに混じって生育する常緑性シダ。全長10㎝程度と小さく、倒卵形で全縁、先端に近い所に最大幅がある。

生育状況と存続を脅かす要因：岩上でコケに混じって生育している。生育地が少ないことと、群生することがないため十分認識されないまま生育環境が破壊されていることが多い。また、目に付けば山野草愛好家による採取の可能性が高い。周辺樹木の伐採により山林が乾燥化し生育環境が悪化することも懸念される。

分布：地区内　生育地は数ヶ所あるが個体数は少ない。
県　内　県中央部の山地に生育地が点在している。加茂地区の生育地は南端に位置している。

イワヒバ
Selaginella involvens　イワヒバ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：岩上に生育する常緑性シダ。根が絡まって幹のように伸び枝分かれしながら20㎝にもなることがある。頂部にはヒノキに似たような卵形の葉が放射状に重ね合わさってつく。

生育状況と存続を脅かす要因：人の近寄れない河川沿いの岩場に生育しているが、庭先の栽培品から胞子が飛び人家の石垣に生育しているものもある。かつてはどこででも見られたシダだが、江戸時代から栽培や品種改良が行われており愛好家が多く生育地が少なくなっている。目に付けば採取の可能性がもっとも高いシダである。

分布：地区内　生育地は数ヶ所あるが採集不可能な場所ばかりである。
県　内　県北部の高地を除き県内のほぼ全域に生育地が点在している。

ナガホノナツノハナワラビ
Botrychium strictum　ハナヤスリ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：林床に生育する夏緑性シダ。根茎から20㎝前後の担葉体が立ち、2～3回羽状に深裂する葉が平面的に広がり、その中心から穂状の胞子葉がまっすぐ立ち上がる。全形は40～70㎝になる。

生育状況と存続を脅かす要因：生育地が少ないうえ群生する植物ではない。山林の伐採や放置による日照条件の悪化、生育地の乾燥化等により生育環境が急変し消滅する危険に絶えずさらされている。

（撮影　村長昭義）

分布：地区内　生育地は一地区のみである。
県　内　県北部から南部までほぼ全域に広く点在する。

ナチクジャク
Dryopteris decipiens　オシダ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：山林内の林床や崖地下部のガレ地に生育することの多い常緑性シダ。根茎から長楕円状披針形で辺縁がやや切れ込んだ単羽状の葉を叢生させる。無融合生殖種のイヌナチクジャクによく似ており、辺縁の切れ込みが大きい中間的なものは同定に迷うほどである。

生育状況と存続を脅かす要因：林内のガレ場に生育している。太平洋沿岸部に生育地が集中しており、岐阜県の生育地は、日本の北限になっている。採集による被害はないが、林内が伐採されたりすると強い陽光にさらされたり、乾燥化が進んだりして消滅することが多い。

分布：地区内　生育地は2地区のみである。
県　内　可児、加茂地区にのみ生育地がある。

ビロードシダ
Pyrrosia linearifolia　　ウラボシ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：ー
環 境 省：ー

種の概要：岩上に着生する常緑性シダ。まれに樹幹に着生することもある。密に鱗片をつけ横走する根茎から、線形で褐色の星状毛に覆われた葉がこみ合って着く。

生育状況と存続を脅かす要因：比較的明るい林内の岩壁に着生している。北海道から沖縄まで全国に生育するシダであるが、園芸品として好まれている植物で、山野草愛好家による採取圧がきわめて高い。岩場から引き剥がすように取り去るため、1度で壁面ほとんどが消失することもある。

（撮影　大塚英樹）

分布：地区内　生育地は数地区あるが減少傾向が強い。
県　内　県北部の山岳地域を除くほぼ全域に分布している。

コケシノブ
Hymenophyllum wrightii　　コケシノブ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：ー
環 境 省：ー

種の概要：岩上、樹上に着生する常緑性シダ。根茎が長く絡み合ってマット状になることが多い。葉身は2 ～ 3回羽状に分岐し卵状楕円形。コケシノブの仲間では軸に対する裂片の角度がもっとも狭く30 ～ 45度の角度でつく。

生育状況と存続を脅かす要因：崖地の岩上に着生している。本来は標高の高い地域に生育するシダで、加茂地区の生育地は標高が低く岐阜県では南限に位置している。温暖化の影響により生育環境が悪化し個体数が減少するか消滅する恐れがある。

分布：地区内　生育地は1地区のみである。
県　内　県南部の平野部を除く冷涼な山地に生育している。

ミズスギ
Lycopodiella cernua　　ヒカゲノカズラ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：ー
環 境 省：ー

種の概要：湿潤で日当たりの良い場所に生育する常緑性ダ。匍匐する地上茎は長くはい、分岐して所々で樹木のような茎と小枝を出す。小枝の葉は線状披針形で、先端に卵形の胞子嚢穂を1-2個つける。

生育状況と存続を脅かす要因：丘陵林縁部の日当たりの良い湿潤な場所に生育している。開発による生育適地の減少と、森林の伐採や放置により、林内や林縁部に明るく開かれた湿潤な環境が減少している。

分布：地区内　生育地は1地区のみである。
県　内　県南部の丘陵地ほぼ全域に生育している。

コヒロハハナヤスリ
Ophioglossum petiolatum　　ハナヤスリ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：ー
環 境 省：ー

種の概要：山野の路傍や草地に生育する夏緑性シダ。短い塊状の根茎から栄養葉と胞子葉を出す。栄養葉は長楕円形から卵形。胞子葉は長く伸び先端に網目模様の胞子嚢穂をつける。

生育状況と存続を脅かす要因：山林周辺の草地に生育している。もともと生育地が少ないことと、生育に適した草丈の低い草原が放置されることにより植生が変化し、日照条件が悪化して自生地が消滅している。

分布：地区内　生育地は1地区のみである。
県　内　県南部のほぼ全域に生育しているが、県中央部と県北部の一部にも生育地がある。

オオコケシノブ
Hymenophyllum badium　　コケシノブ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：ー
環 境 省：ー

種の概要：岩上、樹幹に着生し下垂する常緑性シダ。根茎が長く絡み合って群生することが多い。葉柄には翼があり10cm前後、葉身は変異が多く線状披針形で細長いものから広披針形で幅8cm長さ20cmになるものもある。葉は2 ～ 3回羽状に分岐し、全縁で裂片の先端は円形。

生育状況と存続を脅かす要因：空中湿度の高い崖地の岩上に着生している。栽培が難しいため採集による被害はないが、林内が伐採されたりすると強い陽光にさらされたり、乾燥化が進んだりして消滅することが多い。

分布：地区内　生育地は渓流沿いの2地区のみである。
県　内　暖帯性のシダで、内陸の岐阜県は日本の北限になる。県南中部から南東部に生育地が集まっており県北部にはない。

ウスバシケシダ
Deparia longipes　　メシダ科

加茂地区：情報不足
岐 阜 県：ー
環 境 省：絶滅危惧Ⅱ類

種の概要：最近になり認識されるようになった夏緑性のシダで、林床や水田の畔などに生育する。全体の形は柄をもった卵状広披針形で2回羽状深裂。シケシダによく似ているが、羽片が羽軸に対し直角に近い角度で出ることと、生育下では最下羽片が手前に突き出ることが特徴である。

生育状況と存続を脅かす要因：道路沿いの水田脇草地に生育している。研究者の間でもあまり認識されていない種で、全国的に生育地は少ないが、今後の調査で確認地点と個体数が増加すると考えられる。生育環境が人の生息環境に隣接しており、環境の急激な改変が予想される。

分布：地区内　生育地は1ヶ所のみであるが、近年周辺地区でも確認されている。
県　内　生育地は加茂地区の1カ所のみとされていたが、近年、県南部で点々と生育地が確認されている。

ミヤコヤブソテツ
Cyrtomium yamamotoi　　オシダ科

加茂地区：情報不足
岐 阜 県：ー
環 境 省：ー

種の概要：山林の林床や林縁部に生育する常緑性シダ。塊状の根茎から単羽状の葉を叢生する。10 ～ 30cmの葉柄に単羽状複生の葉がつく。羽片は10 ～ 15対、三角状長楕円形。ヤブソテツ類はどの種もよく似ているが、本種は包幕の中心が黒褐色で周辺が灰白色の2色、縁は波打つ。

生育状況と存続を脅かす要因：山林の林床に生育している。関東以西、四国、九州に産する。岐阜県での生育地は少ないが幅広く点在している。ヤブソテツ類は無融合生殖をするため個体変異が大きく同定の難しいシダであり、県内で分布域の調査が十分になされているとは言えない。

分布：地区内　生育地は1ヶ所のみである。
県　内　県内のほぼ全域に点在しているが、分布域がまだ十分に把握されていない。

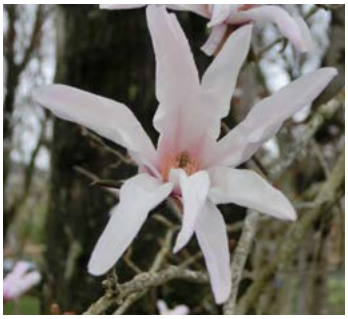
種子植物選定種一覧

加茂地区カテゴリー	種　名	学　名	岐阜県カテゴリー	環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅰ類	シデコブシ	*Magnolia stellata*	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
	セツブンソウ	*Eranthis pinnatifida*	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
	ヒメコウホネ	*Nuphar subintegerrima*	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類
	ハナノキ	*Acer pycnanthum*	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
	ヒメビシ	*Trapa incisac*	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類
	ホンシャクナゲ	*Rhododendron japonoheptamerum* var. *hondoense*	—	—
	イヌセンブリ	*Swertia tosaensis*	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類
	イヌノフグリ	*Veronica polita* var. *lilacina*	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
	イヌタヌキモ	*Utricularia australis*	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧
	オミナエシ	*Patrinia scabiosifolia*	準絶滅危惧	—
	スブタ	*Blyxa echinosperma*	絶滅危惧Ⅰ類	—
	ミズオオバコ	*Ottelia alismoides*	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類
	ヒロハノアマナ	*Amana erythronioides*	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類
	ミノコバイモ	*Fritillaria japonica*	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類
	ヤマユリ	*Lilium auratum*	絶滅危惧Ⅰ類	—
	サクライソウ	*Petrosavia sakuraii*	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類 B
	ミカワバイケイソウ	*Veratrum stamineum* var. *micranthum*	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
	イワチドリ	*Amitostigma keiskei*	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類 B
	エビネ	*Calanthe discolor*	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
	クマガイソウ	*Cypripedium japonicum*	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類
	サギソウ	*Pecteilis radiata*	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧
絶滅危惧Ⅱ類	サクラバハンノキ	*Alnus trabeculosa*	準絶滅危惧	準絶滅危惧
	カワラナデシコ	*Dianthus superbus* var. *longicalycinus*	—	—
	カザグルマ	*Clematis patens*	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
	ヘビノボラズ	*Berberis sieboldii*	絶滅危惧Ⅱ類	—
	トウカイコモウセンゴケ	*Drosera tokaiensis*	準絶滅危惧	—
	シラヒゲソウ	*Parnassia foliosa* var. *nummularia*	絶滅危惧Ⅱ類	—
	レンゲツツジ	*Rhododendron molle* subsp. *japonicum*	—	—
	アイナエ	*Mitrasacme pygmaea*	絶滅危惧Ⅱ類	—
	ホタルカズラ	*Lithospermum zollingeri*	準絶滅危惧	—
	マツムシソウ	*Scabiosa japonica* var. *japonica*	準絶滅危惧	—
	キキョウ	*Platycodon grandiflorus*	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
	カワラハハコ	*Anaphalis margaritacea*	—	—
	センボンギク	*Aster microcephalus*	絶滅危惧Ⅰ類	—
	オカオグルマ	*Tephroseris integrifolia*	絶滅危惧Ⅱ類	—
	イトモ	*Potamogeton berchtoldii*	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
	ヒルムシロ	*Potamogeton distinctus*	絶滅危惧Ⅰ類	—
	ソクシンラン	*Aletris spicata*	絶滅危惧Ⅱ類	—
	キイイトラッキョウ	*Allium kiiense*	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
	マツカサススキ	*Scirpus mitsukurianus*	絶滅危惧Ⅱ類	—
	キンラン	*Cephalanthera falcata*	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
	セッコク	*Dendrobium moniliforme*	絶滅危惧Ⅰ類	—
	クモラン	*Taeniophyllum glandulosum*	絶滅危惧Ⅰ類	—
準絶滅危惧	ブナ	*Fagus crenata*	—	—
	イチイガシ	*Quercus gilva*	—	—
	サンショウソウ	*Pellionia minima*	絶滅危惧Ⅱ類	—
	カゴノキ	*Litsea coreana*	—	—
	ジュンサイ	*Brasenia schrebneri*	—	—
	ヒメオトギリ	*Hypericum japonicum*	絶滅危惧Ⅱ類	—
	モウセンゴケ	*Drosera rotundifolia*	—	—
	ツメレンゲ	*Orostachys japonica*	準絶滅危惧	準絶滅危惧
	タヌキマメ	*Crotalaria sessiliflora*	—	—
	イヌハギ	*Lespedeza tomentosa*	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
	マキエハギ	*Lespedeza virgata*	準絶滅危惧	—
	ミヤマウメモドキ	*Ilex nipponica*	—	—
	ミズユキノシタ	*Ludwigia ovalis*	準絶滅危惧	—
	トチバニンジン	*Panax japonicus*	—	—
	ナンカイヒメイワカガミ	*Schizocodon ilicifolius* var. *nankaiensis*	絶滅危惧Ⅱ類	—

加茂地区カテゴリー	種　名	学　名	岐阜県カテゴリー	環境省カテゴリー
準絶滅危惧	サツキ	*Rhododendron indicum*	—	—
	アカヤシオ	*Rhododendron pentaphyllum* var. *nikoense*	—	—
	カラタチバナ	*Ardisia crispa*	準絶滅危惧	—
	クロミノニシゴリ	*Symplocos paniculata*	—	—
	ハルリンドウ	*Gentiana thunbergii*	—	—
	スズサイコ	*Vincetoxicum pycnostelma*	準絶滅危惧	準絶滅危惧
	セキヤノアキチョウジ	*Isodon effusus*	絶滅危惧Ⅱ類	—
	シソクサ	*Limnophila chinensis*	準絶滅危惧	—
	ナンバンギセル	*Aeginetia indica*	—	—
	ミミカキグサ	*Utricularia bifida*	—	—
	ホサキノミミカキグサ	*Utricularia caerulea*	—	—
	ヒダアザミ	*Cirsium tashiroi* var. *hidaense*	—	絶滅危惧Ⅱ類
	フジバカマ	*Eupatorium japonicum*	準絶滅危惧	準絶滅危惧
	ドロニガナ	*Ixeridium dentatum*	—	絶滅危惧Ⅱ類
	アギナシ	*Sagittaria aginashi*	—	準絶滅危惧
	ホッスモ	*Najas graminea*	—	—
	コオニユリ	*Lilium lancifolium*	準絶滅危惧	—
	ユウスゲ	*Hemerocallis citrina* var. *vespertina*	準絶滅危惧	—
	ヒメコヌカグサ	*Agrostis valvata*	準絶滅危惧	準絶滅危惧
	ナガエミクリ	*Sparganium japonicum*	—	準絶滅危惧
	ウキヤガラ	*Bolboschoenus fluviatilis*	絶滅危惧Ⅱ類	—
	ミカズキグサ	*Rhynchospora alba*	—	—
	シズイ	*Schoenoplectus nipponicus*	絶滅危惧Ⅱ類	—
	マメヅタラン	*Bulbophyllum drymoglossum*	準絶滅危惧	準絶滅危惧
	ムギラン	*Bulbophyllum inconspicuum*	準絶滅危惧	準絶滅危惧
	ギンラン	*Cephalanthera erecta*	準絶滅危惧	—
	ツチアケビ	*Cyrtosia septentrionalis*	準絶滅危惧	—
	イチヨウラン	*Dactylostalix ringens*	準絶滅危惧	—
	カキラン	*Epipactis thunbergii*	準絶滅危惧	—
情報不足	スダジイ	*Castanopsis sieboldii*	—	—
	コショウノキ	*Daphne kiusiana*	絶滅危惧Ⅱ類	—
	アサザ	*Nymphoides peltata*	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧
	オオヒキヨモギ	*Siphonostegia laeta*	情報不足	絶滅危惧Ⅱ類
	オナモミ	*Xanthium strumarium*	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類
	ヒメシャガ	*Iris gracilipes*	準絶滅危惧	準絶滅危惧
	オオアオスゲ	*Carex lonchophora*	絶滅危惧Ⅱ類	—
	サイハイラン	*Cremastra appendiculata*	—	—

シデコブシ
Magnolia stellata　　モクレン科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：準絶滅危惧



種の概要：東海丘陵の湿地やその周辺の湿潤な場所に生育する落葉小高木で、伐採されるため根元から数本でている株が多い。花期は３～４月で淡紅色または白色の花をつける。葉の展開前に開花し、花の径 は7～10cm。花被片は 12～18 枚あり、萼と花弁の区別は無い。

生育状況と存続を脅かす要因：かつては美濃加茂市にも記録（太田新田開拓史）があるが、現在は工場や住宅地になっている。残された生育地も周辺の開発工事により消滅の恐れがある。坂祝の個体群については山林管理不足から周囲の樹木が徒長し、生育環境が損なわれている。

分布：地区内　坂祝町、富加町
県　内　県東部、中部

セツブンソウ
Eranthis pinnatifida　　キンポウゲ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：陽当たりの良い林縁の斜面に生育する。加茂地区での花期は2月下旬～3月上旬。花は茎先に単生し、白色で径2～2.5cmになる。花柄は茎葉から出て長さ0.5～1cmになり、花弁に見えるのは花弁状の萼片で、ふつう5個あり、白色である。

生育状況と存続を脅かす要因:山野草として愛好され、園芸店などでも売られている。盗掘されることが多い山野草である。陽当たりの良い斜面の草地を好むが、木が生い茂ったり、草刈りがなされず放置されると生育できなくなり個体数は減少する。加茂地区では一ヶ所で確認されているだけである。

分布：地区内　七宗町
県　内　県中部

ヒメコウホネ
Nuphar subintegerrima　　スイレン科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅰ類
環 境 省：絶滅危惧Ⅱ類

種の概要：ため池、河川の淀みなどに生育する多年生の浮葉植物。沈水葉は広卵形で薄い膜質。浮葉と抽水葉は広卵形～円心形で革質。花期は６～10月、花は径2.5～4cm で黄色。花弁と思われるものは萼であり、花弁はその内側の萼状のものである。

生育状況と存続を脅かす要因：加茂地区内では1箇所にしか生育は確認できていない。その生育場所も、開発等の影響もあり消失の危機に直面している。湿地や湿地に接する溜池の多くは工場用地やゴルフ場などで改変されている。

分布：地区内　富加町
県　内　県中部

ハナノキ
Acer pycnanthum　　カエデ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：絶滅危惧Ⅱ類

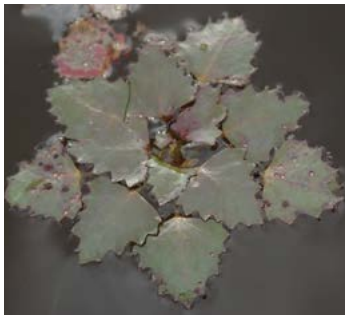
種の概要：山間の湿地に生育する落葉高木。雄木と雌木があり樹高は 30m に達する。葉は対生し、長さ 2.5～8cm、幅 2～10cm、掌状 3 脈があり、先は浅く 3 裂する。葉の裏面は粉白色で、よく目立つ。葉柄は長く葉身の 0.5～1.3 倍程度。4 月上旬紅色の花を葉の展開に先立って付けるので遠方からでも確認できる。日本固有種。

生育状況と存続を脅かす要因：東白川村にハナノキの北限地があり国の天然記念物になっている。一部のハナノキは開発のため伐採され、絶滅の恐れがある。雌雄異株でもあり、個体数の減少により発芽更新も困難になってきている。

分布：地区内　八百津町、白川町、東白川村
県　内　東濃

ヒメビシ
Trapa incisa　　ヒシ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅰ類
環 境 省：絶滅危惧Ⅱ類



種の概要：池に生育する一年生の水生植物。浮葉は水面に浮かび、三角状菱形。縁には粗い鋸歯があり、径 1.5 ～3.5cm、葉柄は長く、中央部が膨らむ。花期は 8 ～ 9 月。花は白または淡い紅色径 7㎜ 程度。果実は堅く、やや平らな倒三角形で、4本の棘を持ちヒシの仲間では最も小さい。

生育状況と存続を脅かす要因：加茂地区では山際の古くからあるため池に生育している。山からの貧栄養な水が注いでいるが池に隣接する湿地は埋め立てられ、危機的な状況にある。池の水質が悪化すれば他の植物の繁茂を助長し、ヒメビシは絶滅の恐れがある。

分布：地区内　八百津町
県　内　県西部、東部

ホンシャクナゲ
Rhododendron japonoheptamerum var. *hondoense*　　ツツジ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：樹高は1.5 ～7mになる常緑のツツジ。葉は互生し、厚く、枝先に集まってつく。葉の表面は無毛で光沢があり、裏面には褐色の軟毛が薄く一面に生える。花期は4 ～ 6月。枝先に総状花序の花を横向きに付ける。花の色は紅紫色から淡紅紫色で、花弁はロート状で直径5㎝程度。

生育状況と存続を脅かす要因：加茂地区では渓谷や湿潤な岩場に生育している。山野草として愛好され庭木などにも用いられている。採取可能な場所の個体はほとんど採取され、生育個体は激減している。急峻な場所にわずかに残っている。

分布：地区内　七宗町、白川町
県　内　県北部、西部、中部、東部

イヌセンブリ
Swertia tosaensis　　リンドウ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅰ類
環 境 省：絶滅危惧Ⅱ類

種の概要：山野のやや湿った陽地に生育する一年草～越年草で、高さ 5 ～ 30cm。葉は倒披針形で長さ2 ～ 5cm。花期は 9 ～10 月。花冠の内側（上面）は白色で、主脈沿いは淡暗紫色になる。全草には苦味が無く、センブリのように薬に用いられることは無い。

生育状況と存続を脅かす要因：このあたりでは山際の溜池をせき止めている土手などによく生育している。よく手入れされた土手などの草地にはスズサイコなどと共に見ることが出来る。そのような草地が管理されず植生が変化し消滅していると考えられる。

分布：地区内　美濃加茂市
県　内　美濃、中濃、東濃地方

イヌノフグリ
Veronica polita　　オオバコ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：絶滅危惧Ⅱ類

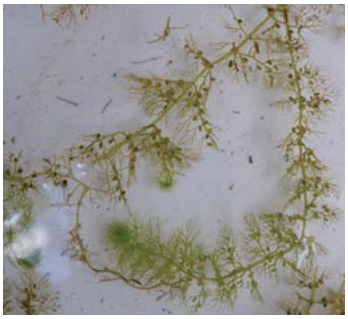
種の概要：道端や草地、庭などでも生育する越年草。茎は基部で分枝し、横に広がり長さ10 ～25cm。葉はオオイヌノフグリに比べて小さく艶がある。花期は3 ～ 4 月。茎の上部の葉腋ごとに 1 花を付ける。花はオオイヌノフグリより小さく、淡紅白色で紅紫色の条がある。

生育状況と存続を脅かす要因：外来種オオイヌノフグリ等の侵入により置き換わったことも要因かも知れないが、人家周辺の道路整備や除草剤の使用も大きく影響していると考えられる。加茂地区でも庭先で見られていた個体が除草剤などによって消滅している。

分布：地区内　美濃加茂市、白川町
県　内　県北部、中部、東部、南部

イヌタヌキモ
Utricularia australis　　タヌキモ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅰ類
環 境 省：準絶滅危惧



種の概要：低地のため池に生育する多年生の浮遊植物。捕虫嚢を持ち、プランクトンなどを捕食し栄養源とするいわゆる食虫植物である。茎は細く長さ1m に達する。花期は7 ～ 9 月。花茎は長さ10 ～ 30cm で水上に3 ～ 10 個の黄色い花を付ける。

生育状況と存続を脅かす要因：山裾の比較的澄んだ水の池が放置され、定期的に水が抜かれたり植物が刈り取られたりすることがなくなった。池が富栄養化し、別の植物が繁茂したり、残土の捨て場になったりして生育環境が悪化している。また、開発等によって多くの池が消滅している。

分布：地区内　富加町
県　内　県北部、中部、東部

オミナエシ
Patrinia scabiosifolia　　オミナエシ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

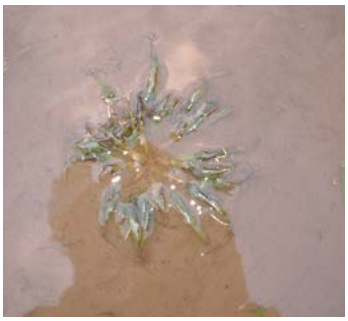
種の概要：日当たりのよい山野の草地に生える。高さ0.6～1m。葉は対生し、羽状に裂ける。茎の上部はよく分枝し、黄色の花を散房状に多数つける。花期は8～10月。秋の七草の一つで、切り花用に栽培もされている。

生育状況と存続を脅かす要因：耕作地の法面や草地などにもよく見られ、秋の七草としても親しまれたが、草刈などの管理が行われなくなり、生育環境が失われている。個体数は減少傾向にある。

分布：地区内　八百津町
県　内　県北部、西部、中部、東部

スブタ
Blyxa echinosperma　　トチカガミ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅰ類
環 境 省：－



種の概要：水田、流れの緩やかな用水路、溜池などで沈水状態で生育する1年生の沈水植物。茎はきわめて短く、葉はほぼ根生する。葉は長さ10 ～ 30cm、幅5 ～ 8mm、先は次第に細くなり、縁に細かい鋸歯がある。花期は 8 ～ 10月、3枚の細い白色の花弁を持つ花を付ける。

生育状況と存続を脅かす要因：かつては何処の水田にでも見られたが、山間部の湿田や溜池等で希に確認できる程度に減少している。農薬の使用や乾田化や夏季の水落としなど、水田の管理形態の変化による影響が考えられている。

分布：地区内　七宗町
県　内　県中部、東部

ミズオオバコ
Ottelia alismoides　　トチカガミ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅰ類
環 境 省：絶滅危惧Ⅱ類

種の概要：水路、水田などに生える一年生の沈水植物。田に生育する個体と用水路など水深がある場所に生育する個体とではサイズと葉形は大きく変化する。草丈は10 ～ 30cm。葉は有柄で根生し、長さは9 ～ 25cm。葉身は披針形～広卵形または円心形。膜質で、微細な鋸歯がある。花期は 8 ～ 10月で、花茎の先端に3弁で桃白色の花が水面上で開く。

生育状況と存続を脅かす要因：加茂地区の用水路や水田でもよく見ることが出来たが、水田の乾田化による植生環境変化や除草剤の使用によって、水田雑草と言われたミズオオバは、ほとんど見られなくなった。

分布：地区内　美濃加茂市
県　内　県北部、中部、東部

ヒロハノアマナ
Amana erythronioides　ユリ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅰ類
環 境 省：絶滅危惧Ⅱ類

種の概要：日当たりのよい草地や林床などに生える多年草。丸い鱗茎があり、地表で2枚の葉を出す。

葉は長さ15～20㎝、幅7～15㎜の線形で、中脈沿いに幅広の白い帯がある。3月の下旬頃、葉の間から直立する花茎の先に、白い6弁花を1個つける

生育状況と存続を脅かす要因：里山の放棄による明るい林床の消失や定期的な草刈りなどの管理不足が生育地の消失につながっている。現在の生息地のひとつは、定期的な草刈りや樹木の間伐が行われ個体数を維持している。

（撮影：今瀬美根子）

分布：地区内　七宗町、白川町
県　内　県北部、西部、中部、東部

ミノコバイモ
Fritillaria japonica　ユリ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅰ類
環 境 省：絶滅危惧Ⅱ類

種の概要：比較的明るい落葉樹林下の林床や林縁に生育する。草丈は10～15㎝程度の多年草で、地下の鱗茎で増えるが、種子での繁殖はカタクリと同じように花が咲くまでに数年かかる。花期は3月下旬から4月上旬。花は広鐘形で茎先に下向きに咲く。葉は下部では対生し、上部では3輪生する。

生育状況と存続を脅かす要因：本種は山野草として非常に人気が高く、採取により急激に減少してしまった。生育場所も限られているため、多くの場所で絶滅している。比較的身近な場所に生育しているため、開発の影響も受けやすい。

（撮影：北村博司）

分布：地区内　七宗町
県　内　県中部、東部

ヤマユリ
Lilium auratum　ユリ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅰ類
環 境 省：—

種の概要：近畿地方以北に分布する日本固有種で、草丈は1.5mにも及ぶ。7月頃、茎の先に20㎝近い大きな花を10個近く咲かせる。花弁が花の大きさは直径20cm以上でユリ科の中でも最大級で､強い香りがある。鱗茎は食用となり栽培されていた。園芸種カサブランカの母種でもある。

生育状況と存続を脅かす要因：美濃加茂市、八百津町で野性と思われる個体が確認出来た。花期が7月中頃のため､草木に隠れてヤマユリはあまり目立たなかったが、近年、里山の整備が行われるようになり、多くの花を付けた個体が林縁に見られるようになった。しかし、園芸用の採取や、里山の放置により植生が遷移し消失する恐れがある。

分布：地区内　美濃加茂市、八百津町
県　内　県東部

サクライソウ
Petrosavia sakuraii　ユリ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅰ類
環 境 省：絶滅危惧ⅠＡ類

種の概要：樹林の下にまれにはえるユリ科の多年草で高さ7～20cmの多年生草。葉緑体をもたず落葉など腐植土を栄養分とする腐生植物で、葉緑体を欠く。菌と共生し、菌が地中の腐葉などを分解し，栄養を供給する。7月ころに高さ10～20cmになる数本の直立する花茎を出し、淡黄色の花を付ける。

生育状況と存続を脅かす要因：最近になり中濃でも確認されるようになったが、この地方での分布は東濃から長野県に限られているようである。もともと生育確認場所が少なく減少要因は不明であるが、菌との共生があるため、生育環境の変化に伴って消失すると考えられる。広葉樹林下に生育するため、伐採等により生育環境が悪化する。

（撮影：高橋弘）

分布：地区内　東白川村
県　内　県東部、北部

ミカワバイケイソウ
Veratrum stamineum　　ユリ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：絶滅危惧Ⅱ類

種の概要：コバイケイソウの変種で、東海丘陵要素植物群を特徴付ける種である。湧水湿地に成育する氷河時代の遺存種とされている。草丈は60 ～120㎝程度の多年草。葉は互生し、葉は長さ20～35㎝で長楕円形～楕円形。葉の基部は茎を抱く。5月頃、茎頂に白い花を多数つける。

生育状況と存続を脅かす要因：加茂地区では一ヶ所しか生育が確認されていない。比較的低温の保たれる湧水湿地や、その周辺の水の流れる明るい林床下に生育している。周囲の環境変化で湧水が失われたり､湿地が埋め立てられたりして、生育環境が狭められている。

分布：地区内　富加町
県　内　県中部、東部

イワチドリ
Amitostig makeiskei　　ラン科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅰ類
環 境 省：絶滅危惧ⅠＢ類

種の概要：河川の湿潤な岩場に生育する多年草。地中に長さ1 ～ 2cmの細長い球根（塊根）があり、葉は1～ 2枚で長さ3 ～ 5cm前後、4月末ごろから高さ5 ～ 10cmの花茎を1本伸ばし、小さな桃紫色の花を数個付ける。花は1cm前後と小さく、唇弁が三つに裂けて大の字に見える。

生育状況と存続を脅かす要因：飛騨川沿いの岩場にはイワチドリが群生し、花の時期は見事だったと言われているが、今はその姿を見ることが困難である。開発工事等による減少もあるが、愛好家や山野草販売のために人為的に採取され、急激に減少し、絶滅の恐れがある。

分布：地区内　川辺町、七宗町
県　内　美濃地方

エビネ
Calanthe discolor　　ラン科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：かつては美濃加茂の里山にも普通に見られた常緑の多年草で、落葉広葉樹林の林床に生育する。株の中心から1 ～3本の花茎が直立し、10 ～ 30輪ほどの花を穂状に付ける。地下には球状の偽鱗茎が出来、数個つながる。

生育状況と存続を脅かす要因：加茂地区でも里山の比較的明るい樹林下に多く生育していた。里山の荒廃も原因として考えられるが、最大の減少理由は販売目的とした愛好家等による人為的採取によるものである。美濃加茂ではここ数年確認できていない。

分布：地区内　美濃加茂市、川辺町
県　内　全県の広葉樹林帯

クマガイソウ
Cypripedium japonicum　　ラン科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅰ類
環 境 省：絶滅危惧Ⅱ類

種の概要：低山の森林内、特に竹林、杉林などに生育する多年草。草丈は40cm程度、葉は対生するように二枚つき、それぞれ扇型の特徴的な形をしている。5月上旬、花はその間からのびた茎の先につき、花弁は大きく膨らんだ袋状で、白く、紫褐色の模様がある。

生育状況と存続を脅かす要因：適度な湿度と日光が必要であるが、竹林やスギ林の放置によって生育環境が失われている。花も美しく高値で取引されるため、愛好家等により採取され、保護されている場所以外で見ることは希である。

分布：地区内　八百津町、白川町
県　内　県内全域

サギソウ
Pecteilis radiata　　ラン科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅰ類
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：日当たりのよい湿地に生える多年草。親株から走出枝を伸ばして、その先端に翌年の球根をつくる。3 ～ 5枚の細長い葉を根元近くにつけ、まっすぐに茎を伸ばして、7月～ 8月先端に1 ～数個の花を付ける。花は純白で、その形は白鷺を連想させることからサギソウの名が付いた。

生育状況と存続を脅かす要因：開発による湿地の減少や山野草ブームでの乱獲により、急激に減少している。白川町の生息地は絶滅した可能性が高く、生育確認が出来ない。また、湿地等が適切に管理されず植生が変化し生育環境が脅かされている。

分布：地区内　坂祝町、白川町
県　内　県北部、西部、東部の湿地

サクラバハンノキ
Alnus trabeculosa　　カバノキ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：湿地に生えるハンノキの仲間で葉はサクラに似ている。水の染み出る湿地や湿地周辺に生育する。若葉では葉脈が赤紫色になることが多いので、他との区別は容易である。湿地ではあまり高くならないが、周辺部の林では5m以上になる個体もある。雄花序は枝先から垂れ下がり、雌花序は上向きに4～5個つく。果穂は長さ約2cmの卵状楕円形で、堅果には翼がない。

生育状況と存続を脅かす要因：東濃から中濃の湿地に分布が限られている。東濃では貧栄養の湿地が多くサクラバハンノキも多く生育している。加茂地区ではそのような湿地が開発等で失われ、危機的な状況にある。特に白川や八百津においては開発等により消滅の危機にある。

分布：地区内　富加町、坂祝町、八百津町、白川町
県　内　県中部、東部

カワラナデシコ
Dianthus superbus var. *longicalycinus*　　ナデシコ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：陽当たりの良い草原や河原に生育する多年草で、山地の斜面、溜池の堤など定期的に草刈りが行われている場所にも生育する。高さ30 ～ 50cm。茎は根から叢生し、節が膨らむ。葉は対生、披針形で長さ4 ～ 7cm、8 ～ 9月頃、茎の頂端に花を付ける。花の色は淡紅色～白っぽいものまで幅がある。

生育状況と存続を脅かす要因：加茂地区では木曽川の玉石の広がる河原に見かけることが出来るが、近年激減している。河原に帰化植物が侵入してきたことと、ダム等の影響で、浸食堆積が起こらなくなり、背の高い樹木が侵入し、カワラナデシコが好む環境が失われている。

分布：地区内　坂祝町、美濃加茂市
県　内　県内全域

カザグルマ
Clematis patens　　キンポウゲ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：湿潤な林縁に生育する落葉性のつる植物。葉は羽状複葉で、センニンソウによく似ている。花期は5 ～ 6月上旬頃。花は上向きに開くので遠方からでもよく目立つ。花の色は淡紫色または白色である。加茂地区に生育するカザグルマの花の色は白色である。

生育状況と存続を脅かす要因：湿地周辺の湿潤な林床に生育するが、林縁部の陽当たりのよい場所に多く、よく目立ち、テッセンや園芸用クレマチスに似ているため愛好家による盗掘が多い。美濃加茂市や川辺町でも見られたが、開発工事等により絶滅したと思われる。

分布：地区内　富加町
県　内　県北部・中部・東部

ヘビノボラズ
Berberis sieboldii　　メギ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：－

種の概要：小型の落葉低木で幹は高さ80cm 程度。葉はやや革質で、葉の付け根に長く鋭い棘を2～4個持っている。5月頃、短枝の先より垂れ下がる総状花序を出し、数個の黄色い花を付ける。果実は秋に赤色に熟し、霜が降りても残っていることが多い。

生育状況と存続を脅かす要因：当地域では東海丘陵要素植物群が生育する湿地が多く、ヘビノボラズもそのひとつである。湿地の多くは開発の対象となり、生育地の消失が激しく、個体数が減ってきている。坂祝、富加は危機的な状況にある。

分布：地区内　坂祝町、富加町、八百津町、白川町、東白川村
県　内　県中部、東部

トウカイコモウセンゴケ
Drosera tokaiensis　　モウセンゴケ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：東海地方の湿地に生育する食虫植物で、草丈10㎝程度のモウセンゴケに類似した多年草である。春の芽どきは真っ赤で美しく、葉の表面に多数の紅紫色の粘液を出す腺毛を持つ。葉はさじ形で腺毛のない葉柄があり、6月～7月紅色の5弁花を付ける。モウセンゴケは白花で、葉が立ち上がる。コモウセンゴケには葉柄がないので区別できる。

生育状況と存続を脅かす要因：可児市や御嵩町までは多く見られるが、加茂地区では湿地が消失し、生育場所が狭められている。湿地の埋め立てや樹木の侵入による環境変化が種の存続を脅かしている。

分布：地区内　坂祝町
県　内　県中部、東部

シラヒゲソウ
Parnassia foliosa　　ウメバチソウ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：－

種の概要：山際の絶えず水の染み出る湿地に生育する草丈20㎝ほどの多年草。短い根茎があり、数個の花茎を伸ばし、8月頃、先端に直径2cm程度の花を付ける。花の色は白色、花弁の縁が細かく裂けているのが特徴。葉は無柄、ハート型で茎を抱くように付いている。

生育状況と存続を脅かす要因：加茂地区の生育地は山際で、絶えず草刈りが行われている場所である。そのような山間の池沼や湿原は絶えず開発の影響を受けやすい。また、湿原周辺の樹林伐採による土砂流入、水源の枯渇による水温上昇などで生育場所の環境が悪化が懸念される。

（撮影：安江良樹）

分布：地区内　白川町
県　内　県北部、中部、東部

レンゲツツジ
Rhododendron japonicum　　ツツジ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：日当たりのよい高原や湿地に多く自生する落葉低木で、5 ～ 6月に葉がでた後、花径5 ～ 6㎝くらいの大きな漏斗状の花を2輪から8輪程度つける。花は朱赤色で、園芸樹としても使われるぐらい艶やかである。果実は蒴果、長さ2 ～ 3cmの円筒状で、10 ～ 11月に熟すると5裂して小さな種子を飛ばす。

生育状況と存続を脅かす要因：県内の高層湿原などにも広く生育しているが、加茂地区では八百津町と白川町の湿地で確認されているだけである。レンゲツツジが生育する湿地は保護されていない。そのため、湿地を道路が縦断して生育が困難な状況にあったり、開発等により消失の危機にある。

分布：地区内　白川町、八百津町
県　内　県東部、北部

アイナエ
Mitrasacme pygmaea　　マチン科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：－

種の概要：日あたりの良い低湿地に生育する小さな一年草。茎は短く、花茎を除いて 1cm 程度。葉は対生で２～4対つき、卵形または長楕円形、長さ５～15mm、幅３～6mm。花期は８～９月。茎頂や葉腋から高さ２～10cmの花茎を1～３本伸ばし３～15 個の花を散形状に付ける。

生育状況と存続を脅かす要因：開発による陽当たりのよい湿地の減少や、湿地の乾燥化による植生遷移の影響で、個体数は減少している。加茂地区ではアイナエの生育できる湿地はほとんど消滅している。

分布：地区内　坂祝町
県　内　県中部、東部

ホタルカズラ
Lithospermum zollingeri　　ムラサキ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：日当たりのよい山麓の土手などに生育する多年草。茎は細く直立し、高さ5～20 cm。開花後に根元から横に這う長い無花枝を出し、先端から根を出して新しい株を作る。4～5月頃、茎の上部の葉の付け根に青紫色の鮮やかな花をつける。花冠は直径15～18 mm。

生育状況と存続を脅かす要因：加茂地区では標高の低い山地や野原で見ることが出来る。日当たりの良い乾燥地や林中の半日陰の草地に生育するが、草地が放置され樹木が入り込んだり、他の植物に覆われてしまい生育個体数は極めて少なくなってしまった。

分布：地区内　美濃加茂市、坂祝町
県　内　県北部、西部、中部、東部

マツムシソウ
Scabiosa japonica　　マツムシソウ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：山地の高原などに生育する多年草。草丈は高さ50～90 cmで、葉は対生し、羽状に裂ける。8月～9月頃、青紫色の花が咲く。花は長い柄の先端に形成され、多くの花が集まった頭状花を形成する。花序の直径は4ｃｍ程で、中心部の花は筒状で、周辺の花は3つの裂片が大きく外側に伸びる。雄しべは4本で、葯は青い色が濃い。

生育状況と存続を脅かす要因：加茂地区では標高の比較的高い草地に生育しているが、生育個体は少ない。定期的に草地が刈り取られ管理されなければ絶えてしまう。近年草地も放置され植生が変化することによって、生育条件が悪化し危機的状況にある。

分布：地区内　八百津町
県　内　県北部、東部、中部、西部

キキョウ
Platycodon grandiflorus　　キキョウ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：絶滅危惧Ⅱ類

種の概要：山野の草地に生育する多年草。茎は高さ50～100cm。葉は互生、まれに対生・輪生となり、狭卵形で長さ４～7cm、先は尖り、縁には鋭鋸歯がある。花期は7～8月。茎頂近くに径４～5cm の青紫色の花を付ける。園芸品種化され、売られているが、園芸品種は矮性が多い。

生育状況と存続を脅かす要因：以前は耕作地の法面などにもよく見られ、秋の七草としても親しまれたが、草刈などの管理が行われなくなり減少傾向にある。園芸用に採取され庭に植えられることも多い。

分布：地区内　美濃加茂市、八百津町、東白川村
県　内　県北部、中部、東部

カワラハハコ
Anaphalis margaritacea subsp. *yedoensis*　キク科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：河原の砂礫地に生育する多年草。茎は叢生し、中部でもよく分枝し、高さ30～50cm。葉は互生し線形。9～10月頃、茎頂に散房状に花を付ける。頭花は白い花びら状の総苞片に取り囲まれ、その中央に黄色の花を密集してつける。

生育状況と存続を脅かす要因：木曽川の河原の草地にはカワラナデシコとともによく見かけることが出来たが、ダムによって河川敷に砂や礫が堆積しなくなった。河原の植生が変化し、帰化植物が多く侵入している。樹木も生い茂るようになりカワラハハコの生育環境は失われてしまった。河原の河川改修などによっても生育場所を失うことが多くなり個体数は激減している。本種の様な在来種は各地で数を減らしている。

分布：地区内　美濃加茂市、坂祝町
県　内　県北部、西部、中部、東部

センボンギク
Aster microcephalus　キク科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅰ類
環 境 省：－

種の概要：ノコンギクの渓流タイプで、タニガワノコンギクと呼ばれていた。草丈30～40ｃｍの多年草。茎は細く、上部で分枝する。葉は線形で、長さ3.5～６ｃｍ、幅0.4～0.5ｍｍ。先は鋭尖頭で、基部にかけて次第に狭まり、縁は疎らにわずかな膨らみがある。頭花は淡紫色で、径1.5～２ｃｍとやや小さい。総苞は半球形で、総苞片は３列、鈍頭で緑色。

生育状況と存続を脅かす要因：飛騨、木曽川の岩場に見ることができる。定期的に冠水する特殊な環境下に適応した種で、冠水する岩場がなくなれば生育場所を失うことになる。ダムによる冠水条件の変化や河川工事等による生育環境の変化が、渓流植物の減少に影響を及ぼしている。

分布：地区内　坂祝町、七宗町
県　内　県中部

オカオグルマ
Senecio integrifolius　キク科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：－

種の概要：田や畑周辺の畦や日当たりのよい刈り取り草地に生育する多年生の草本で、適度な水分の供給がある場所から、過湿な場所にまで生育する。地表面にロゼット状の根生葉があり、春に高さ30～40cmほどの茎を伸ばし花を咲かせる。サワオグルマとよく似ているが、オカオグルマの根生葉に葉柄がない点で区別できる。

生育状況と存続を脅かす要因：もともと水分の供給されている水田の畦や草地に生育しているが、水田の乾田化や畦や草地の放置によって植生遷移が進み生育環境が失われている。地区内でも生育地は少なく、開発等により地区内での生育個体は危機的な状況にある。

分布：地区内　八百津町
県　内　県南部中部、東部

イトモ
Potamogeton pusillus　ヒルムシロ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：沼やため池、水路などに生育する小形の多年生沈水植物。地下茎が横走し1節おきに水中茎が伸びる。葉は無柄、線形で、長さ2～6cmである。花時期は６～８月頃で、花は長さ４cm前後の穂状になってつく。冬は枯れるが、秋になると枝の先端に長さ２cm前後の越冬芽が形成される。

生育状況と存続を脅かす要因：加茂地域では富加町に確認記録がある。ため池、小水路に広く見られたようであるが、生育環境となる池沼などの減少、埋め立てなどの改変やため池改修などにより生育場が消失している。沈水生の弱々しい植物のため、環境変化に弱く、危機的な状況にある。

分布：地区内　富加町
県　内　県南部、中部

ヒルムシロ
Potamogeton distinctus　　ヒルムシロ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅰ類
環 境 省：－

種の概要：河川脇の水田や水路に自生する多年生の水生植物。地下茎は水底の泥の中を横に這い、先端に越冬芽を作り、各節から根を出し、1 節おきに水中茎を出す。水面上には浮水葉を付ける。沈水葉の葉身は披針形で薄く、浮水葉の葉身は長楕円形で、長さ5 ～10cm、幅2 ～4cm、表面は緑色でつやがある。7～9 月頃、水上に花茎を上げ、先端にこん棒状の穂状花序を出す。

生育状況と存続を脅かす要因：ヒルムシロと言われている種の多くはフトヒルムシロで、ヒルムシロは非常に少ない。かつては田んぼの水路や溜池に多く見られたが、除草剤の影響もありほとんど見られなくなってしまった。

分布：地区内　坂祝町、美濃加茂市、富加町、八百津町
　　県　内　中濃地域

ソクシンラン
Aletris spicata　　ユリ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：－

種の概要：山の麓や道ばたの日当たりのよい草原に生える多年草。根生葉のみであり、ロゼットを形成する。葉は線形、長さ10～30cm。4月頃から花茎をロゼットの中心からのばし、次々と初夏まで開花する。花茎・花には毛が密生している。6枚の花弁の先端は、わずかにピンク色を帯びる。

生育状況と存続を脅かす要因：岐阜県では比較的希であることに加えて、個体数が減少している。暖温帯の林縁や草地に生育するが、加茂地域では河川の岩場に生育している。周辺部の環境が変化すれば絶滅の心配がある。

分布：地区内　川辺町
　　県　内　県中部

キイイトラッキョウ
Allium kiiense　　ユリ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：絶滅危惧Ⅱ類

種の概要：山地帯の日当たりの良い岩場に生育する。高さが15cm程度の多年草。10月～11月頃、紅紫色で、雄しべが花弁より長い花を付ける。葉は根生し長さ10～20cm程度で幅1mm前後の円柱形。花茎には葉がつかない。

生育状況と存続を脅かす要因：本州の限定した地域に分布している種で、県内では木曽川及び飛騨川沿いの岩場にのみ生育が確認されている。特に岩場に長い年月をかけ生育してきた本種は、一度失うと本種の生育するような環境の復元は容易ではない。山野草として愛好されているため、乱獲されてきた。

分布：地区内　坂祝町、川辺町、七宗町
　　県　内　県中部

マツカサススキ
Scirpus mitsukurianus　　カヤツリグサ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：－

種の概要：湿地、休耕田などの日当たりのよい湿った場所に生育するカヤツリグサ科の多年草でアブラガヤによく似ている。茎は直立し丸みのある3稜形、高さ80～180cm、花序は散房形で3 ～ 5個が頂生および側生する。小穂は柄がなく、長さ4～5mm、楕円形、熟すと濃褐色となり、10 ～25個づつ集まって球状の花穂をつくるので、アブラガヤとは区別できる。

生育状況と存続を脅かす要因：主な生育地である湿地や溜池などが埋め立てられたり、改修されたりして、生育場所を失っている。また、湿地植生の変化による乾燥化や他の植物の成長によって消失し、個体数は減少している。

分布：地区内　坂祝町
　　県　内　県北部、西部、中部、東部

キンラン
Cephalanthera falcata　ラン科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：絶滅危惧Ⅱ類

種の概要：山や丘陵地の疎林下に生える草丈30～60cmになる多年草。葉は5～8個が互生し、広披針形、基部は茎を抱く。5～6月、黄色の花を数個、穂状につける。花びらと3枚はともに全開しない。腐生菌や菌根菌、コナラなどの樹木の根と共生し、これらの菌から栄養を一部もらっている。

生育状況と存続を脅かす要因：加茂地区では落葉広葉樹林を中心とした疎林下に広く生育しているが、現在は稀で、手入れが行き届いた林内にわずかに見られるに過ぎない。山草として乱獲されたり、里山の放置により明るい林床がなくなり生育環境が阻害されている。

分布：地域内　美濃加茂市、坂祝町、川辺町、白川町、八百津町
県　内　県北部、西部、中部、東部

（撮影：日江井康隆）

セッコク
Dendrobium moniliforme　ラン科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅰ類
環 境 省：－

種の概要：常緑樹林内の樹上や岩上に多数の根を出し着生する多年草。茎は束生し、高さ5～25cm で多数の節がある。葉は披針形で長さ 4～7cm、互生し光沢がある。花期は5～6月。葉の落ちた節から細い花茎を出し、白色または淡紅色の花を 1～2個付ける。

生育状況と存続を脅かす要因：尾根筋の岩場や大きな樹木に生育している。愛好家などにより乱獲され、手の届く場所のセッコクはほぼ消滅した。人が寄りつけない岩場にわずかに残されている。生育個体数はかなりあり、適切な保護を加えれば回復する。

分布：地区内　美濃加茂市、坂祝町、川辺町、七宗町、八百津町
県　内　県北部、西部、中部、東部

クモラン
Taeniophyllum glandulosum　ラン科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅰ類
環 境 省：－

種の概要：樹木に着生する多年草。茎はごく短縮して、根は茎から放射状に2～3㎝のびる。ほとんど枝分かれせず、樹皮に密着する。やや偏平になっており、根に葉緑体があり白っぽい緑色をしている。葉は全くない。光合成は根が行なっている。花期は6月～7月。ほとんど目立たない。

生育状況と存続を脅かす要因：山際の放置された梅の古木などに着生することもある。加茂地区でも奥まった洞のマツやウメノキに着生しているクモランを見かける。人為的採取は他の着生ランほどではないと見られるが、個体数は減っている。開発工事等により湿潤な生育環境が変化すると影響を受ける。

分布：地区内　美濃加茂市
県　内　県南部

（撮影：多田多恵子）

ブナ
Fagus crenata　ブナ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：高さ30 mほどに達する落葉高木。樹皮は灰白色できめが細かく、よく地衣類などが着いて、独特の模様のように見える。葉は互生し楕円形で、縁は波打っていて、鋸歯というよりは葉脈の所で少しくぼんでいる感じになる。堅果は赤褐色で10～11月に熟す。熟すと殻斗が4裂し、その中に2個の種子が入っている。種子はそのまま食べられる。

生育状況と存続を脅かす要因：本州中部では、ほぼ標高1,000～1,500 mまでの地域がブナ帯となる。七宗国有林にブナの記録はあるが現在は生育していない。1，000m付近にブナ－ミヤコザサ群集としてわずかに残っている。白川町や東白川村ではヒノキの植林のために多くが伐採され姿を消している。

分布：地区内　白川町
県　内　県北部

イチイガシ
Quercus gilva　　ブナ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：樹高は 30m程に達する常緑高木。樹皮は灰黒褐色で皮目が多く、大小不揃いな薄片となって剥げ落ち、波状の紋様ができる。若枝は黄褐色の星状毛を密生するので、他のカシと区別できる。葉の上半分には目立つ鋸歯がある。葉の裏面は黄褐色の星状毛を密生する。花期は4 ～5月。

生育状況と存続を脅かす要因：七宗町飛騨川沿いに天然記念物級の大木が確認されていたが、伐採されてしまった。(標本は県博物館)。加茂地区では生育個体も少なく希少である。イチイガシは飛騨川沿いに北上し、七宗付近がこのあたりの北限となっている。

分布：地区内　川辺町、七宗町
県　内　県中部、東部

サンショウソウ
Pellionia minima　　イラクサ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：－

種の概要：山地の陰湿地に生える。茎は地をはい、分枝して密に短毛がある。葉は互生で長さ0.8～2cm、葉には鈍鋸歯があり、葉の裏面は葉脈に沿って曲がった密毛がある。雌雄異株で花期は3～6月。花は葉柄の基部に付く。

生育状況と存続を脅かす要因：県内では加茂地区を中心に生育分布しているが、個体数はさほど多くない。オオサンショウソウと誤認されることが多い。生育には適度な湿度と光が必要だが、森林の伐採などで生育条件が破壊されると消滅する恐れがある。

分布：地区内　美濃加茂市、川辺町、七宗町、八百津町
県　内　県中部、西南部

カゴノキ
Litsea coreana　　クスノキ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：樹高は 20m 程に達する常緑高木。幹は鹿の子状にまだらに剥げ落ちる。葉は互生し、枝先にやや輪状に集まる。花期は8 ～9 月。雌雄異株。花は黄色、散形につき小花柄は短く長毛がある。果実は倒卵状球形で長さ7 ～ 8mm、幅6 ～ 7mm、翌年の秋に赤熟する。

生育状況と存続を脅かす要因：暖帯性の樹木で、飛騨川沿いの分布北限となっている。飛騨川沿いにシイなどの照葉樹林と共に生育しているが、竹林等の侵入などで、生育環境が悪化している。

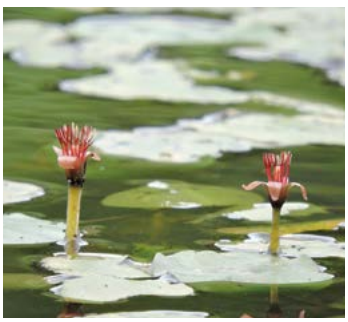
分布：地区内　川辺町
県　内　県中部、東部

ジュンサイ
Brasenia schreberi　　スイレン科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：澄んだ貧栄養の溜池に生育する多年生の浮葉植物。葉は楕円形で、長さ5～12mm、裏面は赤紫色を帯びる。葉柄は裏側の真ん中に着き、葉の裏面や若芽、葉柄は透明な粘液に覆われ、ぬめりがある。花期は6 ～ 7月。茎から水面に伸びた柄の先に紫色を帯びた花を付ける。

生育状況と存続を脅かす要因：県内には広く生育しているが、加茂地区で確認された生育地は二ヶ所のみである。共に山際の溜池である。溜池の富栄養化による水質の悪化や、開発による埋め立てなどでの絶滅が懸念される。



（撮影：多田多恵子）

分布：地区内　坂祝町、富加町
県　内　県東部、西部、中部、北部

ヒメオトギリソウ
Hypericum japonica　　オトギリソウ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：－

種の概要：山麓の湿地や水田に生えるオトギリソウ科の1年草で、茎は直立して高さ15～40cm、無毛で4稜がある。葉には明点があり、基部は茎を抱く。7～8月頃、直径6～8mmの黄色い花を付ける。萼は長さ2.8～5mm、明点及び明線がある。雄しべの数がコケオトギリソウより多いので区別できる。

生育状況と存続を脅かす要因：加茂地区内の湿地は小さく、多くの湿地は保護されていない。湿地に帰化種や樹木が侵入し、ヒメオトギリソウの生育環境が失われている。また、湿地の多くは開発で消失している。

分布：地区内　坂祝町、七宗町
県　内　県中部、東部

モウセンゴケ
Drosera rotundifolia　　モウセンゴケ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：日あたりの良い痩せた酸性湿地に生育する多年草。茎は短く、葉は根生する。葉柄は長さ0.5～7.0cm、葉身は幅0.5～1.8cm、表面に多数の緑～紅紫色で、長さ0.5～5mmの腺毛が分布する。葉には消化腺があり、この消化腺毛で小さな昆虫類を捕え、栄養源とする。花期は6～8月。高さ6～20cmの花茎が出て、数個の白色の花を付ける。

生育状況と存続を脅かす要因：陽当たりのよい酸性湿地の減少や、年間を通して水の染み出る場所が排水の改良工事等により、乾燥化し消滅している。また、定期的な草刈りが行われなくなり、植生が変化し、モウセンゴケの生育環境が維持できなくなっている。

分布：地区内　坂祝町、七宗町、八百津町、白川町
県　内　県内全域

ツメレンゲ
Orostachys japonica　　ベンケイソウ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：日あたりの良い岩上、時には玉石積みの法面などに生育する多年草。多肉で披針形の葉を密集させ顕著なロゼットとなる。花期は10～11月。高さ8～20cmの花茎に多数の白色の花を付ける。冬季、葉は枯れるが、中心部は生きていて新しい芽を出す。

生育状況と存続を脅かす要因：主に園芸用に採取されることが多く、個体数は減少している。美濃加茂や七宗などでは固い岩盤よりコンクリートの吹き付けられた法面や玉石積みの法面に多く生育している。本来の生育場所である岩場等が樹木に覆われ生育環境を失っているものと思われる。

分布：地区内　坂祝町、美濃加茂市、川辺町、七宗町、白川町
県　内　県北部、中部、東部

タヌキマメ
Crotalaria sessiliflora　　マメ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：日あたりの良い草地や田畑の道端に生育する一年草。茎は分枝せず直立する。全体に褐色の長毛があり、背丈は30～60㎝になる。花期は7～9月、萼は大きく花を覆い、その中から旗弁の幅が1㎝程度の青紫色の花を咲かせる。

生育状況と存続を脅かす要因：かつては農道の縁で見かけたが、今は見かけることが少なくなった。陽当たりのよい多少湿潤な草地の減少が原因と思われる。定期的な草刈りが行われなくなり、植生の変化が著しくなってきている。帰化植物などに生育場所を優先され個体数が減少していると考えられる。

分布：地区内　坂祝町
県　内　県中部、東部

イヌハギ
Lespedeza tomentosa　　マメ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：陽当たりのよい草地や堤防などに生育する高さ60～150cmにもなる大型の多年草で茎はやや木化（落葉半定木）している。8～9月頃、枝先に黄白色の花を多数つける。一つの花の大きさは長さ1cm程度。花序の基部付近の葉腋に閉鎖花が多数集まってつく様はマメ科のイメージからはほど遠い。

生育状況と存続を脅かす要因：地区内では坂祝町、美濃加茂市、白川町で確認記録がある。白川町は林道工事の法面で見られ、別の場所から運ばれてきた可能性もある。比較的開けた人里の草地に生育しているが、減少要因として、開発による草地の減少や、他の植物の侵入が挙げられる。

分布：地区内　坂祝町、美濃加茂市、白川町
県　内　県西部、中部

マキエハギ
Lespedeza virgata　　マメ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：丘陵地や低山地の日当たりの良い路傍や岩地などに生える半低木で、高さ40～60cm程度の小型のハギである。小葉は長さ1～2cm、表面は無毛、裏面は短毛がある。花は7月から9月に咲き、白色で淡紅紫色を帯び、長さ4～5mmの花を2～5つける。

生育状況と存続を脅かす要因：里山周辺の農地や草地が放置され、耕作地やその周辺の草地環境が減少したこと。また、放置された草地等の植生遷移により生育環境が失われたことが大きな要因としてあげられる。

分布：地区内　美濃加茂市、坂祝町
県　内　県西部、中部、東部

ミヤマウメモドキ
Ilex nipponica　　モチノキ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：日本海側に生育する日本固有種の落葉低木で、地域によっては絶滅の恐れが高い種となっている。東濃の湿地やその周辺では比較的多く生育している。葉は倒披針形で先は尖り、ウメモドキに比べやや大きく葉身が長い。花は白色で、葉腋に集散花序をつくる。雌雄異株。花期は6月。果実は球形で赤熟する。

生育状況と存続を脅かす要因：加茂地域の湿地にはウメモドキと共に生育している。白川町には保護対象になるような大きなミヤマウメモドキが確認されている。湿地やその周辺に生育するため、湿地開発、土地造成などに伴い減少する恐れがある。

分布：地区内　坂祝町、八百津町、白川町、東白川村
県　内　県中部、東部、北部

ミズユキノシタ
Ludwigia ovalis　　アカバナ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：池や水路などの水辺に生育するやわらかい多年草。時には沈水状態でも生育する。茎の下部は長く這い、上部は斜上・分枝する。花期は7～10月。葉腋に直径 2mm 程度の目立たない花を付けるが花弁は無い。

生育状況と存続を脅かす要因：日がよく当たる泥質の水辺環境が必要である。池の消滅や、PC菅による田畑への給水により小水路（小川）が見られなくなったことや、稲作の変化に伴い水田の乾田化が進み、多くの田は溝を切らなくなったことが、生育環境を阻害している要因と考えられる。

分布：地区内　美濃加茂市、坂祝町
県　内　県西部、中部、東部

トチバニンジン
Panax japonicus　　ウコギ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：山林樹陰地に希に生育する多年生の草本で、葉は小葉が5個の掌状複葉、茎頂に3～5個の葉を輪生し、長柄がある。長い花茎を立ち上げ、球状の散形花序に多数の花をつける。花は直径約3㎜、淡黄緑色、熟すと真っ赤になる。トチバニンジンは、葉の形がトチノキの葉によく似ているところから名付けられた。

生育状況と存続を脅かす要因：生育環境が樹陰地で、生育個体も少ない。薬草として利用されるので、採取される確率が高い。赤い実を付けた姿形が好まれて、山野草として栽培されることも多い。

（撮影：今瀬美根子）

分布：地区内　坂祝町、七宗町
県　内　県中部、東部

ナンカイヒメイワカガミ
Schizocodon ilicifolius var. *nankaiensis*　　イワウメ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：－

種の概要：葉がやや小さく、葉身は卵円形または円形で、長さ2～6cm、幅1.5～5cmになり、鋸歯が3～6対と少ない。花は白色であるが、ときに赤色をおびるものもある葉がやや小さく、葉身は卵円形または円形で、長さ2～6cm、幅1.5～5cmになり、鋸歯が3～6対と少ない。花は白色であるが、ときに赤色を帯びるものもある。

生育状況と存続を脅かす要因：加茂地区では比較的広く分布している。多くは白花であるが希にピンクの花を見ることができる。湿潤な北斜面か東斜面に多い。山足部に多く見られ、スギなどの植林がされれば生育環境が悪化する。

分布：地区内　坂祝町、美濃加茂市、七宗町、八百津町、川辺町
県　内　県中部、東部

サツキ
Rhododendron indicum　　ツツジ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：渓流沿いの岩の上に生育し、増水時に水をかぶっても流されないような低い姿勢で生育している。いわゆる渓流植物の特徴を備えている。高さは1mほどになるが、岩場に生育するサツキは10㎝～30㎝程度の樹高で、岩の隙間に根を下ろし樹形を横に広げている。花期は5月、花は朱赤色で直径4～ 5cm。上弁には濃い色の斑点がある。雄しべは5個。

生育状況と存続を脅かす要因：多くの個体は木曽川や飛騨川の岩場に生育する。ダム等の影響で、水をかぶることが少なくなり、エノキやメリケンカルカヤなどが侵入し生育環境が変化している。また幹線道路の工事や土砂の流入によって個体が消失する恐れが出てきている。

分布：地区内　坂祝町、川辺町、七宗町、白川町
県　内　県西部、中部、東部

アカヤシオ
Rhododendron pentaphyllum var. *nikoense*　　ツツジ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：尾根筋の岩場に生育する高さ3～4mの落葉低木で、中部地方から東に分布する。葉が5枚輪生のように枝先に着く。まだ芽出し前の4月、葉の展開に先立って淡い紅色の花を枝先に1～2個下向きにつける。花柄や雄しべに線毛が密生する。花冠は濃桃色で、広く開き径約5cm、深く5裂する。雄しべは10本ある。

生育状況と存続を脅かす要因：生育条件は陽当たりが良く、夏は適度に日陰になるような岩場であるため、地区内での生育個体は非常に少ない。尾根筋に多く生育するため、林道や登山道の整備による環境の変化や、人の踏み荒らしによる立ち枯れが危惧される。

（撮影：渡辺鉄之）

分布：地区内　七宗町
県　内　県中部、東部、北部

カラタチバナ
Ardisia crispa　　ヤブコウジ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：常緑樹林下に生育する常緑の小低木。高さ 20～100cm、茎は分枝せず、直立する。葉は互生、狭卵形で長さ8～20cm、幅1.5～4cm、光沢があり、葉先はとがり鈍頭。縁には波状歯があり、歯間に内腺点がある。花期は７月。花は白色で径7～ 8mm。果実は球形で径6～7mm、赤く熟す。百両とも呼ばれ、盆栽仕立てにしたり庭に植えられたりする。

生育状況と存続を脅かす要因：照葉樹林下で生育する種で、七宗町あたりが分布の北限となる。河川沿いの温暖な気候帯に生育するため、加茂地区では生育個体も少なく、林縁部の陽地に多く生育しているため、開発等による生育数の減少が危惧される。

分布：地区内　美濃加茂市、八百津町、七宗町
県　内　県中部、東部

クロミノニシゴリ
Symplocos paniculata　　ハイノキ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：山間の湿地やその周辺に生育する落葉低木。樹高は２～8m。葉は互生し倒卵状～楕円状、表面は光沢なくまばらに圧毛があり、裏面脈状に毛がある。縁には細鋸がある。サワフタギと間違えやすいが、サワフタギは葉の両面に毛があり、果実が藍色であるが、クロミノニシゴリは黒くなる。

生育状況と存続を脅かす要因：生育する環境が湿地やその周辺部であり、東海丘陵要素植物の生育北限でもある。湿地が埋め立てられたり、最近では太陽光パネルの設置場所になったりして生育環境が失われている。

分布：地区内　坂祝町、八百津町、白川町
県　内　県中部、東部

ハルリンドウ
Gentiana thunbergii var. *thunbergii*　　リンドウ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：日あたりの良いやや湿った山野に生育する越年草。高さ5～15cm。根出葉はロゼット状につき卵形で長さ1～ 3cm。茎葉は卵状披針形で長さ5～10mm。花期は4月上旬。花は茎頂に1個付く。花冠は青紫色で、長さ2～3cm。

生育状況と存続を脅かす要因：湿地の周辺や湿潤な土手などに普通に見ることができたが、生育個体数が減少している。定期的に草が刈られ、陽当たりの良い環境の維持が必要で、乾燥化や樹木の侵入により生育環境が失われている。

分布：地区内　坂祝町、白川町
県　内　県内全域

スズサイコ
Vincetoxicum pycnostelma　　ガガイモ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：日あたりの良いやや乾いた草地に生育する多年草。茎は細く、直立して高さ40～100cm。花や、実が着かないとなかなか確認しにくい。葉は対生で、長さ6～13cm、幅 4～15mm。花期は7～8 月。黄褐色の花を付ける。袋果は細長い披針形で長さ5～ 8cm になる。

生育状況と存続を脅かす要因：陽当たりの良い斜面の草地に生育しているが、手入れされず放置してあるため、他の植物に移行しスズサイコの生育環境が失われたり、土手等の補修工事で生育個体が少なくなっている。

分布：地区内　美濃加茂市
県　内　県北部、中部、東部

セキヤノアキチョウジ
Isodon effusus　シソ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：－

種の概要：分布域が限られている日本固有種で関東から中部にかけて分布する。草丈が40～90㎝になる多年草で、山地の木陰に生育する。葉は対生し、長楕円形で先が長く尖り、短い葉柄がある。茎頂の総状花序に9月～10月多数の花をつける。花は唇形花で紫色、花柄は長さ10～25㎜と長い。

生育状況と存続を脅かす要因：岐阜県では東濃に分布域があるが、加茂地区はその西限にあたり、白川町や八百津町で生育し報告があるが確認できていない。生育個体は決して多くなく貴重な存在である。林道などの工事に伴う生育場所の消滅が懸念される。

（撮影：今瀬美根子）

分布：地区内　東白川村
県　内　県内東部

シソクサ
Limnophila chinensis subsp. *Aromatica*　ゴマノハグサ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：水田や湿地に生える。シソの香りがある。茎は軟かくて円く、高さ15～20cm、葉は対生で、長さ1.5～3cm、幅3～7mmで軟かく毛はなく、少数の鋸歯がある。葉の裏には油点があり、これがシソの香りを出す。9～10月頃、上部の葉腋から長さ7～15mm の花柄を出し、白色筒型の花を付ける。

生育状況と存続を脅かす要因：水田の乾田化による生育条件の悪化や絶えず一定の水のある湿地の消滅が挙げられるが、水中葉の時は見つけにくく、成長しても小型の植物のため、生育分布についてはまだ調査が不足している。

分布：地区内　美濃加茂市
県　内　県北部、中部、東部

ナンバンギセル
Aeginetia indica　ハマウツボ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：ススキなどのイネ科植物に寄生する、葉緑素を満たない植物で、9月から10月頃地上部に出てきた花が見られる。茎は赤褐色でごく短く、ほとんど地上にでず、挟三角形の鱗片葉が数枚互生する。茎のように見える高さ15～20cmの直立した花柄の先に淡紫色の花を横向きにつける。

生育状況と存続を脅かす要因：普段は地上に現れず、花期になって花が目立つため、なかなか生育確認が出来ないが、確実に個体数は減っている。除草剤の影響もあるが、メリケンカルカヤやシナダレスズメガヤなど他の帰化植物の侵入により、寄生するイネ科植物が変化をしていることも一因かも知れない。

分布：地区内　川辺町
県　内　県中部、東部

ミミカキグサ
Utricularia bifida　タヌキモ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：地中に捕虫嚢を付け、プランクトンなどを捕まえる多年生の食虫植物。小さな葉を水中のドロの上に出し、8月～9月頃、高さ10cm前後の花茎を出して黄色い花を咲かせる。花後、顎が残ってちょうど耳掻きのような形となる。湿原にも生育するが、湖岸・湿った岩上などにも生育する。

生育状況と存続を脅かす要因：湿原だけでなく木曽川飛騨川の岩上にも多く生育している。岩のくぼみにたまった水の周囲に渓流植物群と共に見ることが出来る。比較的強い植物のようだが、湿地の乾燥化や岩上の植生変化により個体数は減少傾向にある。

（撮影：西尾　円）

分布：地区内　坂祝町、七宗町
県　内　県中部、東部

ホザキノミミカキグサ
Utricularia recemosa　タヌキモ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：地中を横に這う茎の所々に小さなへら状の地上葉が集まってつく。地下茎に捕虫嚢をつけるが数は少ない。7～10月頃、花茎の上部に直径約4mmの紅紫色の花を数個つける。下唇は大きく、中央に白いぼかしが入る。距は前方に突き出す。果実は耳かき状にならない

生育状況と存続を脅かす要因：加茂地区では主に河川の岩場に形成された水たまりの周辺に見られる。厳しい環境下にあるため、他の植物が侵入してくると生育できなくなる。最近はヒレタゴボウなど田の植物が入り込んでいる。

分布：地区内　七宗町
県　内　県東部、中部

ヒダアザミ
Cirsium hidaense　キク科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：絶滅危惧Ⅱ類

種の概要：山地帯の落葉広葉樹林の林縁に生育し、高さ20～50cm程度になる多年草。ヒダアザミの根生葉は全縁～羽状に深裂し長い柄がある。頭花は少数で赤紫色。長い柄の先に点頭してうつむき加減に開く。開花時期は9～10月頃。

生育状況と存続を脅かす要因：生育分布が狭く生育個体も多くない。加茂地区では七宗や坂祝町などで生育している。落葉樹林の林縁部に生育しているが、林道の取り付け工事などで生育条件が悪化し、生育個体が消滅している。

分布：地区内　坂祝町、七宗町、白川町
県　内　県中部、東部

フジバカマ
Eupatorium japonicum　キク科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：川の堤防などに生育する多年草。茎は直立し、高さ1～1.5m。大きいものは2mに達する。下部の葉は対生で普通3深裂する。8～10月、茎上部に散房状花序をつくり、頭花を多数つける。秋の七草の一つとしてよく知られているが、最近ではほとんどみかけなくなった。

生育状況と存続を脅かす要因：フジバカマが生育するような平地の自然草地が、開発によってほとんど姿を消してしまったこと。また、河川ではダムのために石などが堆積しなくなり、フジバカマの生育環境が損なわれ急激に少なくなった。

分布：地区内　坂祝町
県　内　県西部、中部

ドロニガナ
Ixeridium dentatum subsp. *kitayamense*　キク科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：絶滅危惧Ⅱ類

種の概要：ドロは泥ではなく灘峡の灘。ここで発見されたことからこの名が付く。本地域でもチャートの切り立った川岸にニガナの渓流タイプが見られ、ドロニガナと同定した。草丈20～30㎝程度、葉は披針形で水の流れに適応している。5月頃茎の先端に黄色の花を分枝してつける。舌状花はこの地区では5～8個である。

生育状況と存続を脅かす要因：木曽川、飛騨川の冠水する岩場に見られる。センボンギクやアオヤギバナと共に見ることが出来る。生育分布する環境が限定されているため、ダムや河川改修で生育環境が変化すると消失する恐れがある。

分布：地区内　坂祝町、川辺町、七宗町
県　内　県中部、東部

アギナシ
Sagittaria aginashi　　オモダカ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：ー
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：水田やそのまわりに生育する多年草。茎は短く葉は根生し、走出枝はない。葉は長さ20～50cmの柄があり、葉の全形は細い矢じり形で先端は尖る。花期は7～10月。花茎は長さ30～80cmで白色の花を付ける。葉柄の基部に大きさ3～6mmほどのムカゴを多数産生する。

生育状況と存続を脅かす要因：生育環境となる湿地や湿田の減少、湿田の乾田化によって生育環境が消失している。また、山間の湿田では長い間耕作が行われないまま放置されて乾燥したやぶ草地に遷移し、個体数が減少している。オモダカはアギナシとよく似ているが、普通に見られる。

分布：地区内　坂祝町、川辺町、八百津町
県　内　県中部、東部

ホッスモ
Najas graminea　　トチカガミ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：ー
環 境 省：ー

種の概要：ため池や水田などに生育する一年草の沈水植物。葉身は線形、長さ1～2.5cm、幅0.2～0.7mm。葉には小さな鋸歯がある。葉の基部の葉鞘の先が耳状に突出することで他と区別できる。触った手触りがこの仲間では最も柔らかい。花期は7～9月。

生育状況と存続を脅かす要因：田に水を流すため切られている溝がなくなってきた。山間部では冷えた水を温めるため残っているところもあるが、農業水路が給水管に置き換わって生育環境が失われてしまった。乾田化も大きく影響している。

分布：地区内　美濃加茂市
県　内　県北部、西部、中部、東部

コオニユリ
Lilium leichtlinii　　ユリ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：ー

種の概要：山地の草地に生育する多年草。茎は直立し、高さ1～2mになる。葉は多数つき、披針形で長さ5～15cm。花期は7～9月。花被片は橙赤色で濃色の斑点がある。オニユリに似るが、葉腋には珠芽（むかご）がないので区別できる。食用として売られているユリ根はコオニユリが多い。

生育状況と存続を脅かす要因：加茂地区では山間部の陽当たりの良い林縁草地に生育するが、草刈などの管理が行われなくなり、遷移が進み、植生が変化し、個体数は減少傾向にある。

分布：地区内　八百津町
県　内　県北部、西部、中部、東部

ユウスゲ
Hemerocallis citrina　　ユリ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：ー

種の概要：比較的高い山地の草原や林縁などに生育する。草丈は100～150cm。7月～8月、花序は軸が細く、長く伸び、円錐花序に似た形で枝を出す。その先に黄色花を上向きに次々と咲かせる。ノカンゾウのように花弁は赤みを帯びない。花は夕方開き、翌日の午前中に閉じる。

生育状況と存続を脅かす要因：加茂地区でも八百津町などの草地に生育している。個体数は少なく、道路工事や山草として採取されれば絶滅する恐れがある。草地の放置は植生の自然遷移を進行させ、生育が困難になる。草地の放置はマツムシソウやコオニユリなどにも共通している。

分布：地区内　八百津町
県　内　県西部、北部、東部

ヒメコヌカグサ
Agrostis valvata　　イネ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：イネ科の多年草。花期は5～6月。湿地を特徴づける種のひとつで、溜池の周辺でも見られる。稈は直立し、高さ40～70cmになる。葉身は長さ7～15cm、幅2～5mm。葉舌は高さ1～3mm。花序は長さ7～15cm、枝は半輪生し斜上、上方で枝を分けまばらに小穂をつける。

生育状況と存続を脅かす要因：東濃から中濃にかけて多く見られる湧水湿地に生育している。加茂地区の湿地は規模も小さく、多くの湿地が開発で失われている。周囲の開発により植生が変化し、ヒメコヌカグサの生育環境は消失する危機にある。

分布：地区内　坂祝町
県　内　県中部、東部

ナガエミクリ
Sparganium japonicum　　ミクリ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：ため池、水路などに生育する多年生の抽水植物。葉は断面が三角状で直立し高さ70～130cm。花期は6～8月。雌性頭花は、3～7個で下側の1～3個は有柄。雄性頭花は4～9個で雌性頭花から離れてつく。

生育状況と存続を脅かす要因：山際のため池や水路に見られるが、生育数は少なく、加茂地区では希少である。畑や水田への導水路がPC菅によって地下に埋められ、池や用水路が不要になり機能しなくなって放置されていることも原因のひとつである。

分布：地区内　坂祝町、美濃加茂市で確認
県　内　西濃、美濃、東濃地方

ウキヤガラ
Bolboschoenus fluviatilis　　カヤツリグサ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：－

種の概要：湿地、休耕田など水湿地に群生する抽水性の多年草。茎は三角形で高さ約1m，下方に幅5～10mmの細長い葉を数個つける。花穂は夏～秋，茎頂に濃褐色の小穂を10個内外つける。花茎は高く伸び上がり、長い黄色の葯でよく目立つ。冬季には枯れて水面に浮く。枯れた茎を矢幹（やがら）に見立てこの名がある。

生育状況と存続を脅かす要因：湿地や池の周辺部、泥質の水辺に生育しているが、池の周囲は護岸工事されたり、埋められたりして生育環境が著しく失われている。湿地植生の変化による乾燥化や他の植物の侵入による消滅もあり、池や湿地等の改修に際しては考慮する必要がある。

分布：地区内　坂祝町
県　内　県東部、南部、中部

ミカズキグサ
Rhynchospora alba　　カヤツリグサ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：北方系の種で、高層湿原や東海地方の貧栄養な湧水湿地に生育する多年草。東海地方では氷河期の遺存種として隔離分布している。茎は直立して高さ10～50cm。葉は糸状で内に巻き、茎よりも短い。7月～8月に茎頂に白色の三日月形の花序をつける。花序は1～3個で、2～6個の小穂からなる。

生育状況と存続を脅かす要因：加茂地区ではミズゴケの生育する湿地で見られる。湿地の減少と、湿地やその周辺の開発により減少している。また、湿地の乾燥化などにより植生遷移が進み、生育環境の悪化が懸念されている。

分布：地区内　八百津町、東白川村
県　内　県東部、北部

シズイ
Scirpus nipponicus　カヤツリグサ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：－

種の概要：湿地、休耕田などに生育する多年草。抽水植物。地下に根茎があり、茎は直立して3稜形で高さ40～80cm、基部には根生葉が付く。花序は仮側生し、花序枝は二又状に分かれ先に長さ8～18mmの小穂をつける。似た環境に生育するカンガレイと比べ、茎は細く、草体は柔らかい。

生育状況と存続を脅かす要因：加茂地区での生育個体は少ない。湿地の埋め立て、改修による生育場所の消失。湿地植生の変化による乾燥化や他の植物の侵入による生育環境の悪化が考えられる。湿地や池の周辺部の環境保全対策が必要である。

分布：地区内　坂祝町
県　内　県南部、中部、東部

マメヅタラン
Bulbophyllum drymoglossum　ラン科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：準絶滅危惧

（撮影：多田多恵子）

種の概要：常緑の多年草。シダ植物のマメヅタによく似ている。根茎は細長く這って1cm程度の楕円形の葉をまばらにつける。花は淡黄色の唇弁形で長さ8mm程度。樹幹や岩上に着生する。花期は5月下旬から6月上旬。

生育状況と存続を脅かす要因：湿潤な空気が絶えず当たる樹林下や岩上が生育環境である。工事等により樹木が伐採されたりして乾燥化すると減少する。手の届く場所に生育しているマメヅタランは人為的採取により激減している。

分布：地区内　坂祝町、美濃加茂市、七宗町
県　内　県南部

ムギラン
Bulbophyllum inconspicuum　ラン科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：常緑広葉樹林内の樹上や岩上に着生する多年草。根茎は細長く這って偽球茎と呼ばれる卵形の茎をまばらにつける。花期は6～7月。偽球茎の基部から花茎を出し、3㎜程度の黄白色の花を 1 個付ける。

生育状況と存続を脅かす要因：加茂地区はムギランの生育環境である常緑広葉樹林の北限でもあり、常緑広葉樹林が群落として残っている地域が減少している。自然度の高い森林や神社等の大木も減少し、本種の生育環境は失われつつある。

分布：地区内　川辺町、七宗町
県　内　県中部

ギンラン
Cephalanthera erecta　ラン科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

（撮影：安江サクエ）

種の概要：山地の明るい樹林下に生育する多年草。茎は直立し、高さ10～20cm。葉は互生し、葉の基部は茎を抱く。花期は5～6月。茎頂の総状花序に白い花を3～10個つける。花は直立し、やや開くか又は開かない。

生育状況と存続を脅かす要因：加茂地区ではキンランより生育個体は減少して、危機的な状況にある。最大の減少理由は販売目的とした愛好家等による人為的採取によるものである。また、里山に人の手が入らなくなり、遷移によって他の植物が地表を覆い、下草の植生が変わってしまった事などが挙げられる。

分布：地区内　美濃加茂市、川辺町、白川町
県　内　県中部、東部、西部

ツチアケビ
Cyrtosia septentrionalis　ラン科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：落葉樹林下に生育する腐生植物で葉緑素を持たない。土の中の菌と共生して成長する。全体に褐色で、根茎は太く横に長く這い、大型の鱗片葉を付ける。地上茎は高さ40～100cm、ランの仲間では草丈が高い。花期は6～7月。黄褐色の花を多数付ける。秋にアケビの実を細くしたような赤い実を付ける。

生育状況と存続を脅かす要因：数年は同じ場所で生育していても消滅してしまうことが多い。コナラ林や竹林の直接光の当たらない林床下に生えるため、あまり目立たない。森林や竹林が伐採されると林床は明るくなり、光合成を行う植物が優占し、ツチアケビは生育環境を失ってしまう。

分布：地区内　七宗町、八百津町
県　内　県北部、中部、東部

イチヨウラン
Dactylostalix ringens　ラン科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：山地の林床や林縁に生育する多年草。草丈は10～20cm。円状広楕円形の葉を1枚茎の基部に付ける。5月～6月頃、花茎が1本出て1個の花が付く。萼片、側花弁は淡緑色で紫色の斑点がある。唇弁は白色で3裂し紫色の斑点がある。

生育状況と存続を脅かす要因：加茂地区では湿地周辺で確認されている。森林の林縁部であるが湿潤で冷温な場所である。生育個体が少ないだけでなく、花の姿が整っているため、愛好家による採集圧が減少の最大原因である。

分布：地区内　八百津町
県　内　県北部、西部、東部の深山、亜高山帯

カキラン
Epipactis thunbergii　ラン科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：湿地に生える多年草。高さ30～70cm。根茎は横にはい、節から根をだす。葉は互生し、脈沿いに著しい縦じわがあり、基部は短い鞘状になって茎を抱く。花期は7月で花は茎の上部に10個ほどつく。

生育状況と存続を脅かす要因：湿地とその周辺の低水路に生育環境が限定されている。開発による湿地の埋め立てや愛好家等による採取により減少しているが、開発による湿地の消失も減少の要因となっている。

分布：地区内　美濃加茂市、東白川村、八百津町
県　内　県北部、西部、東部の湿地

スダジイ
Castanopsis sieboldii　ブナ科

加茂地区：情報不足
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：基本的にはツブラジイと類似している常緑高木。葉の表面は深緑色、初め細かい褐色の隣上毛を散生するが、のち無毛、裏面は灰褐色の隣状毛を密生し、銀白色のちに灰褐色となる。花期は5～6月。類似のツブラジイ（コジイ）は、樹皮がほとんど縦裂しないことで区別できる。

生育状況と存続を脅かす要因：県内の照葉樹林内にはツブラジイが優先し、スダジイは見かけることは少ない。スダジイの多くは太平洋に面した海岸部に生育する。内陸のこの地域では極めて希である。国道沿いに生育しているため排気ガスの影響もあり、樹勢の衰退が懸念される。植栽の可能性もある。

分布：地区内　川辺町
県　内　県中部、東部、南部

コショウノキ
Daphne kiusiana　　ジンチョウゲ科

加茂地区：情報不足
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：－

種の概要：暖地の林内に生育する雌雄別株の常緑小低木。高さ約1mで、茎は直立し上部でよく分枝する。葉は互生し、柔らかい革質で、表面に光沢がある。花期は3～4月、前年に伸びた枝先の頭状花序に芳香ある白い花を数個つける。橙赤色に熟した液果を噛むと非常に辛い。有毒である。

生育状況と存続を脅かす要因：岐阜県での分布域は加茂地区周辺に限定されている。美濃加茂市で記録されているが、生育個体は非常に少なく、今回の調査では確認出来なかった。まさに野生の沈丁花で、採取されることも多く絶滅が危惧される。

分布：地区内　美濃加茂市
県　内　県中南部

アサザ
Nymphoides peltata　　ミツガシワ科

加茂地区：情報不足
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅰ類
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：沼、池などの浅いところに群生する浮葉性の多年草で、葉は濃緑色で光沢があり、丸い心臓形をしている。根茎は水底上を横走し繁殖する。花期は5～10月、3～5cmの黄色～橙黄色の5花弁の花が咲く。冬になると根茎を残し枯れる。

生育状況と存続を脅かす要因：地区内の池にも見られるが移植された可能性が高い。繁殖し、池一面を覆うほどである。アサザの生育できる浅い池や沼の多くは埋め立てられ、従来の水生植物の多くが絶滅の危機に直面している。

分布：地区内　富加町
県　内　県南部、西部

オオヒキヨモギ
Siphonostegia laeta　　ゴマノハグサ科

加茂地区：情報不足
岐 阜 県：情報不足
環 境 省：絶滅危惧Ⅱ類

種の概要：乾いた崖のような林縁に生える一年生の半寄生植物で、茎は斜上し、草丈30～70cmの多年草。8～9月頃、花は葉腋に立ち上がるように1個ずつつき、黄色で長さ3cm程度。全体に開出した腺毛が生える。葉は下部では対生、上部では互生する。

生育状況と存続を脅かす要因：比較的開けた道路の法面などにも生育する。国では絶滅危惧Ⅱ類に指定されているが、愛知県境付近では比較的見ることが出来る。他の植物に寄生するため、除草剤散布や造成工事などにより個体数が減少する恐れがある。加茂地区での情報はほとんどなく、今後の調査を待ちたい。

分布：地区内　七宗町
県　内　県東部

オナモミ
Xanthium strumarium　　キク科

加茂地区：情報不足
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅰ類
環 境 省：絶滅危惧Ⅱ類

種の概要：陽当たりの良い裸地や草地に生育する一年生草本で、草丈は50～100cmになる。葉は広くて大きく、丸っぽい三角形に近く、周囲は不揃いな鋸歯がある。花期は8月頃、雌雄異花で、雄花は枝の先の方につく。果実（見かけ上）は楕円形で、たくさんの棘をもっている。ひっつき虫として服にくっつけて遊ぶ植物でもある。

生育状況と存続を脅かす要因：加茂地区では今では見られなくなってしまった。帰化種でよく似たオオオナモミの侵入と置き換わっていったとされているが、オオオナモミも一時期のような勢いはなく生育場所も限定されている。オナモミが生育していた環境が造成などで改変され、より乾燥に強い種が侵入してきたためと推測される。

写真なし

分布：地区内　美濃加茂市
県　内　生育情報なし（分布していたとされる）

ヒメシャガ
Iris gracilipes　　アヤメ科

加茂地区：情報不足
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：日本にあるアヤメ属では最も小さい。葉も花茎も細く、葉は長さ20～40cm、幅5～15mm。花茎は高さ25～35cm。花期は5～6月。花被は全体的に淡青紫色。外花被片の扁平部上面の中心部に黄色の斑紋があり、その下にやや濃い青紫色の縞模様がある。

生育状況と存続を脅かす要因：湿った岩場に生育するが、加茂地区では北部でわずかに見られるのみである。開発による生育地の破壊もあるが、山草愛好家の採取による生育個体数の減少が大きく影響している。

（撮影：安江良樹）

分布：地区内　白川町
県　内　県北部、中部、西部、東部

オオアオスゲ
Carex lonchophora　　カヤツリグサ科

加茂地区：情報不足
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：－

種の概要：山地の林床や林縁に生育する多年草。叢生し、大株となり匍匐枝はない。稈は高さ40～60cm、葉は稈と同長または稈より長い。花期は4～5月。小穂は先端から8～15cmの間に4～5個つく。側小穂は雌性で円柱形、長い芒があり、果胞には密に毛がある。

生育状況と存続を脅かす要因：加茂地区を中心に生育場所が限定されているようである。林道脇の林床や林縁に生育していることが多く、林道工事や伐採に伴う林床破壊によって個体数の減少が懸念される。

分布：地区内　坂祝町、美濃加茂市、七宗町
県　内　県中部

サイハイラン
Cremastra appendiculata var. *variabilis*　　ラン科

加茂地区：情報不足
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：落葉樹林下の林床に見られる多年草。偽球茎の頂部に長さ15～35cm程度の皮質の葉が伏すように一枚つく。花茎は直立し、高さは30～50cmになる。5～6月頃、淡紫褐色の花を片側に偏って穂状（総状花序）につける。

生育状況と存続を脅かす要因：加茂地区では記録はあるが、確認出来ていない。県内に広く分布しているので、生育している可能性はあり、今後の調査を待ちたい。開発や園芸目的の採取で個体数は減少傾向にある。ラン科植物は菌類との共生が重要な要素となってくる。特に園芸目的で採取されると、人工での増殖も難しく、絶滅させるだけとなる。

分布：地区内　美濃加茂市
県　内　県西部、中部

引用ウェブサイト

環境省（2018）レッドリスト1018．https://www.env.go.jp/nature/kisho/hozen/redlist/index.html

参考文献

角野康郎（1994）日本水草図鑑．文一総合出版．

桑原義晴（1975－1982）日本イネ科植物生態図譜　第1巻－4巻．北陸植物の会．

吉田純幹（1962）日本スゲ属植物図譜．北陸植物の会．

佐竹義輔・大井次三郎・北村志郎（編）（1981）日本の野生植物　草本1－3．平凡社．

佐竹義輔・原　寛（編）（1989）日本の野生植物　木本1－2．平凡社．

執筆：村瀬正成・安藤志郎・安江正和

（2）哺乳類

加茂地域における哺乳類のレッドリストの選定については、「岐阜県レッドリスト改訂版（動物編）」（2010年度）を参考にしたが、哺乳動物についての加茂地域の文献や聞き取りなどによる調査データは、市町村史などに掲載されている種の写真が間違っているなど、同定に疑問があるものが少なくない。今回の調査において得た標本・写真も調査不足でデータがきわめて少なく、定性的な資料である。そこで選定理由を、明らかに個体数の激減している種、生息域の環境悪化（減少・消失）、個体群の孤立性（地域外からの自然移入性の有無）の3点をもとに検討した。

ここでは、準絶滅危惧として３種を選定した。湿地や河川の草地の減少や水稲の刈り取りが機械で行われることにより減少したカヤネズミ、植林のための伐採や神社社叢林の古木・大木の伐採による生息環境の減少が顕著なムササビ、コウベモグラとの種間競争により生息環境が減少したアズマモグラである。地域に古い採集記録はあるが生息の確認がないチチブコウモリとヤマネ、現在の生息が充分に確認されていないホンドモモンガの3種は、情報不足として選定した。

哺乳類選定種一覧

加茂地区カテゴリー	種　名	学　名	岐阜県カテゴリー	環境省カテゴリー
準絶滅危惧	カヤネズミ	*Micromys minutus*	準絶滅危惧	—
	ムササビ	*Petaurista leucogenys*	—	—
	アズマモグラ	*Mogera imaizumii*	—	—
情報不足	チチブコウモリ	*Barbastella leucomelas*	情報不足	絶滅危惧Ⅱ類
	ヤマネ	*Glirulus japonicus*	準絶滅危惧	準絶滅危惧
	ホンドモモンガ	*Pteromys momonga*	準絶滅危惧	—

カヤネズミ
Micromys minutus　　ネズミ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：低地から標高1,200mの草地、水田、休耕地、沼沢から河畔などのイネ科植物、ゴウソなどが認められるところに生息する。冬季は地表の堆積物や地下に穴を掘る。球形の巣をつくり、周辺には作りかけの巣を多く確認できる。草、種子や虫などを食べ、繁殖は春と秋の2回で、秋に巣は多い。仔は2～6頭である。

生息状況と存続を脅かす要因：河畔の草地、放棄された畑の草にある巣を探すことで確認できるが、どの市町でも生息地は1-2ケ所と少ない。河畔が3面コンクリートになり、川幅が狭く川を深く掘られた結果、河畔の草が生えない環境が多くなったためと推測される。

カヤネズミの巣（川辺町）

分布：地区内　坂祝町、富加町、七宗町、川辺町、美濃加茂市
県　内　岐阜市、各務原市、関ヶ原町、大垣市など

ムササビ
Petaurista leucogenys　　リス科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：低地から亜高山帯の天然林やスギ、ブナ林が発達したところに生息し、巣は大木の樹洞につくる。夜行性で、木の芽、葉、茎、花、果実を採食する。神社や寺などの大木を巣として利用し、繁殖は年2回。初夏と冬に通常2仔を産む。

生息状況と存続を脅かす要因：大木が残る神社・寺院等の森を美濃加茂市・加茂郡8市町村で80ケ所あまり調査し、その半分で生息を確認できたが、その後30年経過し、再調査の結果、生息がおよそ3分の1に減少している。大木が枯死し、落枝の危険から伐採が行われた結果、樹洞を奪われたのが要因。

樹洞のムササビ（富加町）

分布：地区内　富加町、美濃加茂市、川辺町
県　内　下呂市、郡上市など

アズマモグラ
Mogera imaizumii　　モグラ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：日本の固有種で、小型で主に東日本に分布する。平地から山地の湿地、水田周辺から畑の草が多いところ、森林内でも落ち葉などが多い所に生息している。奥美濃・飛騨地方・瑞浪市と八百津町の美濃高原の一部に生育している。

生息状況と存続を脅かす要因：八百津町内で標高が低いところにはコウベモグラが生息し、高原の一部にアズマモグラが生息している。

アズマモグラ（左）コウベモグラ

分布：地区内　八百津町
県　内　下呂市、高山市、飛騨市、白川村

チチブコウモリ
Barebastella leucomelas　　ヒナコウモリ科

加茂地区：情報不足
岐 阜 県：情報不足
環 境 省：絶滅危惧Ⅱ類

種の概要：原生林で採集されていることから、樹洞がねぐらと考えられるが、八百津町上飯田の洞穴で35年前に捕獲されている。県内2例目が高山市高根町で捕獲されたのみで種の生態も不明な点がある。体毛は黒色で顔は特徴的なので識別は容易である。

生息状況と存続を脅かす要因：北海道では比較的捕獲されているが、本州での報告は様々な環境での報告で、生息状況は不明である。

チチブコウモリ（野麦峠）

分布：地区内　八百津町
県　内　高山市

ヤマネ
Glirulus japonicus　　ヤマネ科

加茂地区：情報不足
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：亜高山帯から里山で生息が確認されている。樹洞をねぐらにし、七宗町と白川町の文献で報告がある。
小型でなかなか確認ができていない。偶然に発見される可能性があるため、情報不足として今後の調査に期待したい。他種との識別は容易である。

生息状況と存続を脅かす要因：落葉広葉樹のある林、樹洞のある樹木が多いところで生息確認ができている。冬場冬眠するために木材に運ばれて発見される。わずかな生息確認がなされているだけで、推定域を超えていない。

分布：地区内　七宗町、白川町
県　内　高山市、郡上市、白川村

高山市産

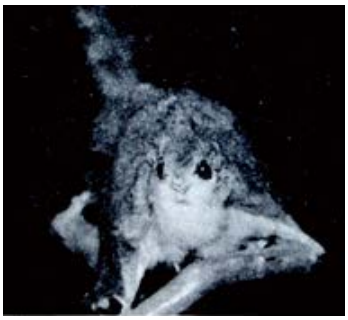
ホンドモモンガ
Pteromys momonga　　リス科

加茂地区：情報不足
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：山地帯から亜高山帯の森林に生息し、夜行性で樹上生活をし木々の間を被膜で滑空することができる。樹上・樹洞に杉皮を裂き細くした巣を作る。ブナ林、杉林の樹洞で時には昼間観察できることもある。

生息状況と存続を脅かす要因：繁殖できる樹洞のある老木がほとんどなくなっている。当地区では絶滅の可能性もあるが、２ケ所でモモンガの糞らしきものを確認しているため、生息している可能性がある。

分布：地区内　七宗町に標本が残されていた。
県　内　白川村、郡上市、高山市、下呂市


七宗町分郷で拾得された標本

執筆：梶浦敬一

（3）鳥類

鳥類の選定種として、加茂地域で記録した在来鳥類199種のうち約9.0％にあたる18種を選定した。選定にあたっては特徴的な鳥類44種を対象に、繁殖の有無、希少性、数の減、営巣場所の減について検討し、選定基準に従ってカテゴリーを分けた。カテゴリー区分別にみると、絶滅はトキの1種、絶滅危惧Ⅰ類はヒクイナ、クマタカ、ヤマセミの 3種、絶滅危惧Ⅱ類はミゾゴイ、タマシギ、フクロウ、アオバズクの4種、準絶滅危惧はヤマドリ、カイツブリ、バン、ヨタカ、ハチクマ、オオタカ、サシバ、オオコノハズク、サンコウチョウ、セッカの10種である。

このうち、バンとセッカは岐阜県のレッドリストに掲載されていないが、加茂地域では生息地及び繁殖地が限られていることから準絶滅危惧に選定した。

鳥類選定種一覧

加茂地区カテゴリー	種　名	学　名	岐阜県カテゴリー	環境省カテゴリー
絶滅	トキ	*Nipponia nippon*	—	絶滅危惧 IA 類
絶滅危惧 I 類	ヒクイナ	*Porzana fusca*	絶滅危惧 II 類	準絶滅危惧
	クマタカ	*Nisaetus nipalensis*	絶滅危惧 II 類	絶滅危惧 IB 類
	ヤマセミ	*Megaceryle lugubris*	準絶滅危惧	—
絶滅危惧 II 類	ミゾゴイ	*Gorsachius goisagi*	絶滅危惧 II 類	絶滅危惧 II 類
	タマシギ	*Rostratula benghalensis*	準絶滅危惧	絶滅危惧 II 類
	フクロウ	*Strix uralensis*	準絶滅危惧	—
	アオバズク	*Ninox scutulata*	準絶滅危惧	—
準絶滅危惧	ヤマドリ	*Syrmaticus soemmerringii*	準絶滅危惧	—
	カイツブリ	*Tachybaptus ruficollis*	準絶滅危惧	—
	バン	*Gallinula chloropus*	—	—
	ヨタカ	*Caprimulgus indicus*	準絶滅危惧	準絶滅危惧
	ハチクマ	*Pernis ptilorhynchus*	準絶滅危惧	準絶滅危惧
	オオタカ	*Accipiter gentilis*	準絶滅危惧	準絶滅危惧
	サシバ	*Butastur indicus*	準絶滅危惧	絶滅危惧 II 類
	オオコノハズク	*Otus lempiji*	情報不足	—
	サンコウチョウ	*Terpsiphone atrocaudata*	準絶滅危惧	—
	セッカ	*Cisticola juncidis*	—	—

トキ
Nipponia nippon　　トキ科

加茂地区：絶滅
岐 阜 県：ー
環 境 省：絶滅危惧 IA 類

種の概要：1918年1月15日に、現在の加茂郡七宗町神渕で採集された記録がある。当時でもとても珍しかったことから、岐阜市の柳原要二氏によって全長、翼長、尾長などが日本鳥学会誌に詳しく報告された（柳原, 1918）。

生息状況と存続を脅かす要因：日本産のトキは2003年に絶滅した。中国産のトキが飼育下で繁殖し、増えた個体が自然界に放鳥されている。

新潟県佐渡市で撮影

分布：地区内　七宗町に採集記録
県　内　七宗町に採集記録

ヒクイナ
Porzana fusca　　クイナ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：局地的な、河川の湿地、水田など水辺に生息して繁殖する。夏鳥として飛来するが、加茂地域では越冬する個体を記録している。はじめはゆっくりと「キョッキョッキョッ」と鳴き次第に早く「キョキョキョキョ…」と鳴く。警戒心が強く危険を感じると素早く草の中に身を隠す。

生息状況と存続を脅かす要因：加茂地域では局地的にヨシ原が残る河川、水田などの水辺に少数が生息して繁殖する。生息場所のヨシ原が、河川の浚渫工事などで減少したり、消滅するなど、生息環境が大きく変化すると個体数が減少する恐れがある。

分布：地区内　富加町
県　内　全域に生息するが局地的

クマタカ
Nisaetus nipalensis　　タカ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：絶滅危惧ⅠB類

種の概要：留鳥として丘陵地から山林地帯に生息して繁殖する。翼を広げた長さはトビと変わらないが、翼の幅はトビより太く後縁に膨らみがあり全体に大きく見える。タカの仲間は渡りをする種類が多いが、クマタカは大きな移動はしない。

生息状況と存続を脅かす要因：人里からはなれた急峻な山林地帯を好んで生息するが、意外に民家の上空にも出現する。一つのつがいが繁殖するには、営巣木となる大木や、餌を捕るための伐採跡地などの開けた場所を含め、数キロメートル四方の山林地帯が必要となる。生息するためには多くの条件が整わなければならないが、加茂地域にこうした場所は少なく、個体数が減少する恐れがある。

分布：地区内　八百津町、白川町、東白川村
県　内　丘陵地から山林地帯

ヤマセミ
Megaceryle lugubris　　カワセミ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：ー

種の概要：留鳥として河川、ため池など水辺に生息して繁殖する。枝などに止まっているときに冠羽を立て尾羽を上げる姿勢をとることがある。飛びながら「キャラキャラ」と鳴き、水面を直線的に飛ぶ。河川、ため池では、一定の場所で上空から水中にダイビングして餌を捕る。警戒心が強く近くで見ることは少ない。

生息状況と存続を脅かす要因：2000年頃には美濃加茂市と坂祝町の河川、溜池にも生息していたが、近年は河川の上流域に少数が生息するのみである。巣は崖や山肌などの土中に穴を掘って作る。近年、崖や山肌がコンクリートで固められ巣穴を掘る場所が少なくなるなど生息環境が大きく変化したことにより個体数が激減している。

分布：地区内　川辺町、八百津町、白川町
県　内　河川の上流域

ミゾゴイ
Gorsachius goisagi　　サギ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：絶滅危惧Ⅱ類

種の概要：夏鳥として飛来し局地的な低山の沢沿いなどに生息して繁殖する。木の横枝に小枝を組んだ粗い巣をつくる。昼間でもうす暗いような水辺や林道などで餌を捕る。危険を感じると首をまっすぐ上に伸ばして動かず、木の枝に見せかけた「擬態」をして身を守る。

生息状況と存続を脅かす要因：よく茂った低山の沢沿いなどに生息しているが数は少ない。加茂地域での生息は局地的である。現存する繁殖地が保全されないと個体数が減少する恐れがある。

（撮影：髙井泰）

分布：地区内　七宗町、八百津町、東白川村
県　内　局地的に飛来

タマシギ
Rostratula benghalensis　　タマシギ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：絶滅危惧Ⅱ類

種の概要：留鳥として夏は水田や湿地に生息して繁殖する。鳥類は雄の方が雌より美しいのが普通であるが、タマシギは雌の方が美しい。雌は繁殖期の夕方になると水田などで「ポォウポォウポォウ」と鳴くことから、その声を聞いて生息を知ることが多い。

生息状況と存続を脅かす要因：加茂地域では、おおよそ300m四方以上のまとまった広さの水田や湿地で繁殖している。このような場所が少ない加茂地域での営巣場所は限られて局地的である。建設事業、宅地開発などによる生息地の分断、狭小が生息環境に影響を与えると、個体数が減少する恐れがある。

分布：地区内　美濃加茂市、八百津町
県　内　南西部の開けた水田など水辺

フクロウ
Strix uralensis　　フクロウ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：留鳥として平地から山林地帯に生息して繁殖する。夜行性で昼間に飛ぶ姿を見ることは少ない。巣は大木の洞を利用してつくることが多いが、地面に近い切株や巣箱なども利用する。夕方暗くなるころや早朝などによく通る声で「ホホゥホッホホホ」と鳴く。ゆっくりした羽ばたきで羽音をたてずに飛ぶ。

生息状況と存続を脅かす要因：平地から山林地帯に生息しているが、加茂地域での生息は局地的で近年は鳴き声を聞くことが少なくなった。神社などの、樹洞がある大木の減少が営巣木の減少に直結するなど個体数は激減している。

（撮影：梶浦敬一）

分布：地区内　川辺町、八百津町、白川町
県　内　平地から山林地帯

アオバズク
Ninox scutulata　　フクロウ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：夏鳥として飛来し平地から山林地帯に生息して繁殖する。夜行性で、昼間は決まった枝にじっとしているが、人が近づくなど危険を感じると素早く近くの枝に移る。夕方暗くなると「ホッホッ　ホッホッ」と2声ずつ繰り返して鳴く。昼間に鳴くこともある。

生息状況と存続を脅かす要因：平地から山林地帯に生息しているが、加茂地域での生息は局地的で近年は鳴き声を聞くことが少なくなった。神社などの、樹洞がある大木の減少が営巣木の減少に直結するなど個体数は激減している。

分布：地区内　川辺町、八百津町
県　内　平地から山林地帯

ヤマドリ
Syrmaticus soemmerringii　キジ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：留鳥として平地から山林地帯に生息して繁殖する。よく茂った山林の中で餌を捕る。繁殖期には、翼を強くバタバタさせて「ドドドドド」と音を出す「ホロウチ」を行う。この音を聞いて生息を知ることがある。

生息状況と存続を脅かす要因：加茂地域では、ほぼ全域に生息しているが数は少ない。暗い林内に生息していて姿を見ることは少ない。本種は日本の固有種でありながら狩猟鳥でもある。生息地の豊かな自然環境が保全されないと個体数が減少する恐れがある。

分布：地区内　美濃加茂市、坂祝町、富加町、白川町
県　内　低山から山林地帯

カイツブリ
Tachybaptus ruficollis　カイツブリ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：留鳥としてため池や河川に生息して繁殖する。巣は水上に水草を積み上げた浮巣をつくり、水位の高低にあわせて上下するようになっている。水かきがついた足は大きく、頻繁に水中に潜って餌を捕る。卵から孵った雛を背中に乗せる姿は愛らしい。

生息状況と存続を脅かす要因：加茂地域での主な繁殖地となる溜池は、おおよそ100m四方以上のまとまった広さの水面を有している。加茂地域にはこのような溜池は少なく営巣場所は限られている。現存する繁殖地が保全されないと個体数が減少する恐れがある。

分布：地区内　美濃加茂市、坂祝町、富加町、川辺町、七宗町、八百津町、白川町
県　内　主に南西部の河川、湖沼

バン
Gallinula chloropus　クイナ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：加茂地域では留鳥として溜池や河川に生息して繁殖する。繁殖期には嘴の基部と額の赤色及びお尻のあたりの白い部分が目立つ。水面や浮草の間を、首を前後に振って泳ぐ。時には浮草の上を歩きながら餌を捕る。

生息状況と存続を脅かす要因：加茂地域での主な繁殖地となる溜池は、おおよそ100m四方以上のまとまった広さの水面を有している。加茂地域にはこのようなため池は少なく営巣場所は限られている。現存する繁殖地が保全されないと個体数が減少する恐れがある。

分布：地区内　美濃加茂市、川辺町
県　内　主に南西部の河川、湖沼

ヨタカ
Caprimulgus indicus　ヨタカ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：準絶滅危惧

（撮影：大塚之稔）

種の概要：夏鳥として飛来し低山から山林地帯で繁殖する。昼間は木の横枝に平行に止まってじっとしている。夜行性で夕方から夜明け前まで活動する。少し開けた場所の地上に直接産卵する。日没後に「キョキョキョキョキョ…」と鳴く声で生息を知ることが多い。

生息状況と存続を脅かす要因：加茂地域での生息は局地的で、近年は鳴き声を聞くことが少なくなった。現存する繁殖地が保全されないと個体数が減少する恐れがある。

分布：地区内　七宗町、八百津町、白川町、東白川村
県　内　低山から山林地帯

ハチクマ
Pernis ptilorhynchus　タカ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：夏鳥として飛来し低山から山林地帯に生息して繁殖する。雛には餌としてハチ類の幼虫を与えるという変わった習性をもっている。個体によって羽根の色が違い、白色型、暗色型、中間型など変化に富んでいる。秋の渡りの季節にはサシバ、ノスリと共に越冬地へ渡っていく。

生息状況と存続を脅かす要因：加茂地域では、ほぼ全域に生息しているが数は少ない。低山から山林地帯にかけての建設事業や開発行為などで、生息地の多様な生態系が崩れると個体数が減少する恐れがある。

分布：地区内　美濃加茂市、富加町、川辺町、七宗町、八百津町、白川町、東白川村
県　内　低山から山林地帯

オオタカ
Accipiter gentilis　タカ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：留鳥として生態系の頂点に立つ里山のシンボル的なタカである。本来は山林地帯で繁殖するが民家に近い場所でも繁殖するようになった。早いものは1月頃から繁殖行動を始める。アカマツに営巣することが多かったが近年はスギなどの針葉樹にも営巣する。

生息状況と存続を脅かす要因：加茂地域では全域の低山から山林地帯に生息して繁殖する。近年姿を見る機会を増しているが民家に近い場所でも繁殖することが関係しており生息数は決して多くない。生息地の豊かな自然環境が保全されないと個体数が減少する恐れがある。

分布：地区内　美濃加茂市、坂祝町、富加町、川辺町、七宗町、八百津町、白川町、東白川村
県　内　低山から山林地帯

サシバ
Butastur indicus　タカ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：絶滅危惧Ⅱ類

種の概要：夏鳥として飛来し低山から山林地帯に生息して繁殖する。繁殖場所に飛来した当初は「ピックイー」と鳴きながら上空を旋回するが、その姿を見ることが少なくなった。水田や伐採跡地など開けた場所で餌を捕る。秋の渡りの季節にはハチクマ、ノスリと共に越冬地へ渡っていく。

生息状況と存続を脅かす要因：生態系の頂点に立つ里山のシンボル的なタカであったが、近年、加茂地域での生息数は激減している。低山から山林地帯にかけての建設事業や開発行為などで、生息地の多様な生態系が崩れると個体数が減少する恐れがある。

分布：地区内　美濃加茂市、川辺町、東白川村
県　内　低山から山林地帯

オオコノハズク
Otus lempiji　フクロウ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：情報不足
環 境 省：　－

種の概要：留鳥として平地から山林地帯に生息して繁殖する。夜行性で樹洞を巣穴とし、昼間に飛ぶ姿を見ることは少ない。民家の近くにも生息し、神社などの大木のある所や藪の中を好む。

生息状況と存続を脅かす要因：平地から山林地帯に生息しているが、加茂地域では死んだ個体や衰弱した個体の採集が数例ある。神社などの、樹洞がある大木の減少が営巣木の減少に直結するなど個体数は減少している。

分布：地区内　美濃加茂市、富加町、七宗町
県　内　平地から山林地帯

サンコウチョウ
Terpsiphone atrocaudata　　カササギヒタキ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：夏鳥として飛来し平地からよく茂った低山に生息して繁殖する。雄は長い尾羽をひらひらさせながら林の中を飛ぶ。雄も雌も「ヒーチョホイ　ホイホイホイ」と美しい声で鳴く。また、雄も雌も目の周りのコバルト色が美しい。

生息状況と存続を脅かす要因：よく茂った暗い林で繁殖するが、加茂地域への飛来は局地的で生息数は少ない。生息地の豊かな自然環境が保全されないと個体数が減少する恐れがある。

分布：地区内　美濃加茂市、白川町、東白川村
県　内　平地から低山地帯

セッカ
Cisticola juncidis　　セッカ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：夏鳥として飛来し水田や河川敷の草地に生息して繁殖する。飛来は局地的で、開けた場所で繁殖する。飛ぶときは「ヒッヒッヒッヒッ」と鳴きながら上昇し「ジャッジャッジャッジャッ」と鳴きながら下降する。稲などの草丈が伸びた真夏の熱い時期に活発に活動する。

生息状況と存続を脅かす要因：加茂地域では、おおよそ300m四方以上のまとまった広さの水田や湿地で繁殖している。このような場所が少ない加茂地域での営巣場所は限られて局地的である。建設事業、宅地開発などによる生息地の分断、狭小が生息環境に影響を与えると、個体数が減少する恐れがある。

分布：地区内　美濃加茂市、富加町、川辺町、八百津町
県　内　南西部の開けた水田、河川敷

引用文献

柳原要二（1918）美濃にて獲られしトキに就て．鳥，2：54.

執筆：荒井　浩

（4）爬虫類

加茂地区における貴重な動植物種として4種を選定した。その中のニホンイシガメは日本固有種であり、他県や県内の他の自治体では外来種のミシシッピアカミミガメの増加によって生息地が減少し、ペット販売を目的とした乱獲やアライグマによる食害も生じていることが知られている。加茂地区においてもアライグマの分布が広がっており、販売用の捕獲の懸念もあるため絶滅危惧II類に選定した。タカチホヘビは森林の表土に潜って生息するヘビであり、アライグマや、在来種ではあるがイノシシが増加することで捕食されることが増加すると想定され、準絶滅危惧とした。ジムグリとシロマダラは、希少であると考えられるものの、生息状況の詳細が不明なために情報不足とした。

爬虫類選定種一覧

加茂地区カテゴリー	種　名	学　名	岐阜県カテゴリー	環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類	ニホンイシガメ	*Mauremys japonica*	準絶滅危惧	準絶滅危惧
準絶滅危惧	タカチホヘビ	*Achalinus spinalis*	—	—
情報不足	ジムグリ	*Euprepiophis conspicillatus*	—	—
	シロマダラ	*Dinodon orientale*	—	—

ニホンイシガメ
Mauremys japonica　　イシガメ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：甲長20cm程度。背甲は茶褐色から黄褐色で、腹甲は黒い、頭部は褐色で、四肢は黒いことが多い。背甲のキールは1本。日本固有種で、本来は山地から平野まで広く分布していたと考えられる。河川上流では、渓流の石の上で日光浴をする姿などがよく見られる。雑食性で動物の死体や果実などを食べる。秋から春に交尾し、夏に地面に穴を掘って産卵する。

生息状況と存続を脅かす要因：平野部では圃場整備等による水路のコンクリート化や外来種のミシシッピアカミミガメと競合することで生息地が著しく減少している。山間地ではアライグマ等による捕食とペット販売を目的とした乱獲が生じており、県内で捕獲された個体が海外に輸出されている事例が報告されている。

分布：地区内　美濃加茂市、富加町、白川町
県　内　主に美濃地方に生息する。

タカチホヘビ
Achalinus spinalis　　タカチホヘビ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：全長30～60cm程度。目は小さく、体色は褐色で背面に一条の黒色線が入ることが多い。鱗には光沢がある。倒木や石の下、落ち葉の溜まった溝などにいることが多く、夜間や降雨時には路上に出てくる（西尾・川瀬，2017）。ミミズなどを食べる。

生息状況と存続を脅かす要因：主に山間部に生息し、陸貝や小型サンショウウオ類の調査において石や倒木の下を探すことで副次的に発見される。イノシシやアライグマの増加による捕食などの影響があると考えられる。

分布：地区内　八百津町、東白川村
県　内　岐阜県内に広く分布すると考えられる。

ジムグリ
Euprepiophis conspicillatus　　ナミヘビ科

加茂地区：情報不足
岐 阜 県：ー
環 境 省：ー

種の概要：全長70～100cm。背面が一様な褐色もしくは赤褐色の場合と、黒い斑紋が入る場合がある。腹面が市松模様になっていることもある。性質は温和で無毒。日中に見られることは少なく、主に小型哺乳類を食べている。

生息状況と存続を脅かす要因：加茂地域での発見例は少なく、希少であることから絶滅のおそれがあると判断されるが、現状についての情報は不足している。イノシシやアライグマの増加による捕食などの影響があると考えられる。

分布：地区内　美濃加茂市、八百津町
県　内　岐阜県内に広く分布すると考えられるが、情報は少ない。

シロマダラ
Dinodon orientale　　ナミヘビ科

加茂地区：情報不足
岐 阜 県：ー
環 境 省：ー

種の概要：全長30～70cm。灰色から薄い褐色の地色に黒い横帯が入る。瞳孔は縦長の楕円形をしている。性質は荒く、人に捕まると噛みつくが無毒である。夜行性で主にトカゲ類や小型のヘビを食べる。

生息状況と存続を脅かす要因：加茂地域での発見例は少なく、希少であることから絶滅のおそれがあると判断されるが、現状についての情報は不足している。イノシシやアライグマの増加による捕食などの影響があると考えられる。

分布：地区内　八百津町
県　内　岐阜県内に広く分布すると考えられるが、情報は少ない。

引用文献（タカチホヘビ解説文）

西尾和久・川瀬基弘（2017）東海地方におけるタカチホヘビ *Achalinus spinalis* の確認記録と生息環境．なごやの生物多様性，4：31-41.

執筆：高木雅紀・向井貴彦

（5）両生類

加茂地区における貴重な動植物種として10種を選定した。その中でもニホンアカガエルは加茂地区に残された生息地が非常に少なく、自然環境基礎調査でも1地点しか記録されていないため、絶滅危惧I類とした。オオサンショウウオは東白川村や美濃加茂市で見られることが多く、特別天然記念物として保護されているものの、河川改修等による巣穴の減少、河川内の移動の阻害などによって個体数が減少していると考えられる。またアズマヒキガエルは、ニホンアカガエル同様に里山環境に依存し、ニホンアカガエルほどではないものの減少している。ナゴヤダルマガエルは、毎年続けて稲作が行われる良好な水田の存在が生息には不可欠で、水田の圃場整備や乾田化、転作、耕作放棄による乾燥化によって全国的に数を減らしている。これらの3種は絶滅危惧II類に選定した。コガタブチサンショウウオ、ヒダサンショウウオ、ナガレヒキガエルは自然度の高い渓流周辺に生息するため、人工林の間伐がおこなわれないことやシカの増加による植生の衰退、沢涸れなどの生息環境の悪化が進んでいると考えられたことで、準絶滅危惧に選定した。アカハライモリも本来は溜池や小河川で普通に見られる種であったが、生息環境が減少しつつあるために準絶滅危惧とした。また、個体数が減少していると考えられるが、情報が不十分なハコネサンショウウオとモリアオガエルは情報不足とした。

両生類選定種一覧

加茂地区カテゴリー	種　名	学　名	岐阜県カテゴリー	環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅰ類	ニホンアカガエル	*Rana japonica*	準絶滅危惧	—
絶滅危惧Ⅱ類	オオサンショウウオ	*Andrias japonicus*	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
	アズマヒキガエル	*Bufo japonicus formosus*	—	—
	ナゴヤダルマガエル	*Pelophylax porosus brevipodus*	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧IB類
準絶滅危惧	コガタブチサンショウウオ	*Hynobius stejnegeri*	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
	ヒダサンショウウオ	*Hynobius kimurae*	準絶滅危惧	準絶滅危惧
	アカハライモリ	*Cynops pyrrhogaster*	—	準絶滅危惧
	ナガレヒキガエル	*Bufo torrenticola*	準絶滅危惧	—
情報不足	ハコネサンショウウオ	*Onychodactylus japonicus*	—	—
	モリアオガエル	*Rhacophorus arboreus*	情報不足	—

ニホンアカガエル
Rana japonica　　アカガエル科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：体長5cm程度。体色は赤褐色で、背中の両脇にある背側線は鼓膜の後ろで曲がらず直線的である。平地や丘陵地の樹林に生息し、1月から3月頃に水田や湿地で産卵する。産卵後の成体は春眠し、4 ～ 5月頃から再度活動を始める。

生息状況と存続を脅かす要因：加茂地域の自然環境基礎調査では1個体が確認されたのみである。圃場整備による乾田化、水路のコンクリート化による移動阻害、耕作放棄による湿地の乾燥化、アライグマやイノシシ等による捕食によって生息地が著しく減少していると考えられる。

（撮影：酒向正美）

分布：地区内　富加町
県　内　主に美濃地方に生息する。

オオサンショウウオ
Andrias japonicus　　オオサンショウウオ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：絶滅危惧Ⅱ類

種の概要：最大1mを超える世界最大の両生類で、体は茶褐色に黒い斑紋がある。頭部などに疣状の突起があり、目は小さい。河川の上中流に生息することが多いが、美濃加茂市周辺の木曽川とその支流にも生息する。魚、サワガニ、カエルなどの小動物を捕食する。産卵期は8月下旬から9月で、河川を遡上して上流部の川岸の横穴などで産卵するとされている。近畿地方では放流されたチュウゴクオオサンショウウオとの交雑が進んで問題となっている。

生息状況と存続を脅かす要因：美濃加茂市周辺の木曽川と東白川村に比較的多く見られる。ダムや堰によって繁殖期の河川内の移動が妨げられることや、河川改修など護岸のコンクリート化によって巣穴となる場所が減少している。

分布：地区内　美濃加茂市、川辺町、東白川村
県　内　長良川流域から木曽川流域

アズマヒキガエル
Bufo japonicus formosus　　ヒキガエル科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：全長10cm程度。皮膚はごつごつとして疣上の隆起がある。体色は茶褐色や赤褐色、黄土色など様々だが、体側に黒い斑紋が入ることが多い。目の後方に耳腺があり、白い毒液を出す。繁殖期は春で、加茂地域では3～6月頃。繁殖期のオスは背面が黄褐色でつるつるになり、森林周辺の水場で産卵に来るメスを待つ。卵は長いひも状のゼリー質でできた卵塊として水中に産み付けられる。

生息状況と存続を脅かす要因：大型で人目につきやすいカエルであるにもかかわらず加茂地域での記録は少ない。森林周辺の開発によって産卵に適した水場が減少している。イノシシやアライグマの増加による捕食などの影響もあると考えられる。

分布：地区内　美濃加茂市、七宗町、白川町。他の町村にも分布すると考えられる。
県　内　岐阜県内の山間地に広く分布すると考えられる。

ナゴヤダルマガエル
Pelophylax porosus brevipodus　　アカガエル科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：絶滅危惧ⅠB類

種の概要：体長は雄3.5～6cm、雌4～7cmでずんぐりした体型。トノサマガエルと比較して足が短く、背中線を欠く個体が多い。背面の黒色の斑紋は丸く独立する。低地の水田とその周辺部に生息し、冬季も水田内及びその周辺で冬眠する。繁殖期は比較的長く、5月～7月にかけて水田やその周辺の止水で行われる。

生息状況と存続を脅かす要因：美濃加茂盆地とその周辺に見られる。本来は平野の水田に多数生息している種であるにもかかわらず、生息地が著しく減少している。水田の改修工事、乾田化、道路やU字溝などによる水田の分断、農薬の散布などが存続を脅かす要因としてあげられる。

分布：地区内　美濃加茂市、富加町、川辺町、八百津町
県　内　美濃地方

コガタブチサンショウウオ
Hynobius stejnegeri　サンショウウオ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：全長8～13cm程度。体色は茶褐色もしくは暗褐色で、銀白色の不規則な大小の斑紋が多数ある。斑紋は腹面にも及ぶ。丘陵地から山地の河川源流部やその枝沢周辺の林床に生息し、成体は樹林の落葉下や腐植土中で生活している。繁殖期は4月から6月で、渓畔の伏流水が流れる地下で産卵し、卵嚢はコイル状である。孵化幼生は変態するまで産卵場所の伏流水中に留まる。

生息状況と存続を脅かす要因：加茂地域での発見例は少なく、生息地が限られている可能性がある。森林の皆伐等による乾燥化で、成体と幼生双方の生息環境が失われる。また林道脇へのU字溝の埋設により、そこに進入した個体が脱出できずに死亡することがある。

分布：地区内　白川町
県　内　美濃地方の山間部から飛騨地方南部

ヒダサンショウウオ
Hynobius kimurae　サンショウウオ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：全長7～18cm程度。紫褐色の体に黄～黄褐色の斑紋があるが個体差が大きい。幼生には黒色の爪がある。卵嚢はバナナ型で、水中では虹色光沢がある。成体は樹林の落葉下や腐植土中に生息し、2～4月頃に源流域や比較的流れの緩やかな枝沢などで産卵する。美濃地方から飛騨地方の山地に生息している。

生息状況と存続を脅かす要因：加茂地域の山間部には比較的広く生息すると考えられるが、森林の皆伐や植林後の放置による下層植生の衰退等によって乾燥化や沢涸れが起こると、成体と幼生双方の生息環境が失われる。また林道脇へのU字溝の埋設により、そこに進入した個体が脱出できずに死亡することがある。

分布：地区内　七宗町、白川町、東白川村
県　内　美濃地方の山間部から飛騨地方南部

アカハライモリ
Cynops pyrrhogaster　イモリ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：全長8～13cm程度。体色は黒褐色で腹面は鮮やかな赤色をしている。溜池や水田周辺の水路、水田内などに生息し、水生昆虫や小型のオタマジャクシなどの小動物を捕食する。春から初夏に産卵する。卵は一粒ずつ水草の葉などで包むようにして産み付ける。幼生は黒褐色で、滋賀県での研究では成体は水田内に生息するが、産卵は水田横の土水路で行い、幼生は水路で成長する（田和ほか，2015）。

生息状況と存続を脅かす要因：加茂地域では比較的広く見られるが、水田の改修工事や乾田化によって生息場所と繁殖場所が減少している。また、道路やU字溝などによる成体の産卵場所への移動阻害などが減少要因としてあげられる。

分布：地区内　美濃加茂市、富加町、七宗町、八百津町、白川町
県　内　美濃地方の中山間地から飛騨地方

ナガレヒキガエル
Bufo torrenticola　ヒキガエル科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：体長は雄7～12cm、雌9～17cmで、アズマヒキガエルに似るが鼓膜が小さく不明瞭である。成体は山地の渓流沿いや渓流付近の林床に生息する。繁殖は4月～5月に渓流で行われ、流れの緩やかな淵などで水中の石や倒木等に紐状の卵塊を絡ませながら紐状の卵塊を産む。幼生は真っ黒で口器が発達し頭が角張って見える。

生息状況と存続を脅かす要因：加茂地域での発見例は少なく、生息域が山地の渓流周辺に限られているため、森林の伐採による乾燥化や、それに伴って沢が干上がることで、成体と幼生双方の生息場所が失われる。

分布：地区内　七宗町
県　内　美濃地方から飛騨地方の山地

ハコネサンショウウオ
Onychodactylus japonicus　　サンショウウオ科

加茂地区：情報不足
岐 阜 県：ー
環 境 省：ー

種の概要：体長13～19cm程度。成体の体は細長く、尾は長い。目が大きく、やや飛び出しているようにみえる。背面に褐色や黄褐色の模様があり、冷涼な山地に生息する。繁殖は山地渓流の岩石の下や伏流水中で産卵する。幼生には黒色の爪がある。変態には2年以上を要する。

生息状況と存続を脅かす要因：加茂地域での発見例は少なく、希少であることから絶滅のおそれがあると判断されるが、現状についての情報は不足している。生息域が山地の渓流周辺に限られており、森林の皆伐による乾燥化や砂防堰堤による水温の上昇によって成体と幼生双方の生息場所が失われることなどが存続を脅かす要因としてあげられる。

分布：地区内　白川町
県　内　美濃地方から飛騨地方の山地

（撮影：酒向正美）

モリアオガエル
Rhacophorus arboreus　　アオガエル科

加茂地区：情報不足
岐 阜 県：情報不足
環 境 省：ー

種の概要：体長は雄4～6cm、雌6～8cm程度。背部は明緑色から暗緑色で、虹彩は赤みがかっている。赤褐色から黒色の斑紋を有する個体もいる。成体は森林で生活しており、繁殖期に溜池などの水面上に張り出した枝や、草などに直径10ｃｍ前後の白っぽい泡状の卵塊を生み付ける。繁殖期は4月～7月頃。低地から亜高山帯まで分布する。

生息状況と存続を脅かす要因：非常に人目に付きやすい卵塊を産むにも関わらず、加茂地域での発見例が少ないことから、絶滅のおそれがあると判断されるが、現状についての情報は不足している。森林の伐採や耕作放棄による湿地の減少、外来種（オオクチバス，ブルーギル，ウシガエル）による幼生の捕食などが存続を脅かす要因としてあげられる。

分布：地区内　美濃加茂市、富加町
県　内　美濃地方から飛騨地方の山地

（撮影：西尾　円）

引用文献（アカハライモリ解説文）

田和康太・中西康介・村上大介・金井亮介・沢田裕一（2015）中山間部の湿田におけるアカハライモリ*Cynops pyrrhogaster*の生息環境選択とその季節的変化．保全生態学研究，20：119–130.

執筆：高木雅紀・向井貴彦

（6）魚類

加茂地区における貴重な動植物種として15種を選定した。選定にあたっては写真や標本等によって分布が確認された在来42種を対象に希少性（生息地の少なさ）、個体群の孤立性（地域外からの自然移入の有無）、遺伝的攪乱の有無、外来種・魚病・河川横断構造物等の影響の有無、生活史に必要な共生種（二枚貝類）の生息状況、海から遡上する種の場合はソース個体群の現状について検討し、選定基準に従ってカテゴリーを分けた。

加茂地区の貴重な動植物に選定した魚類をカテゴリー別に見ると、絶滅危惧I類がニホンウナギ、カワバタモロコ、ミナミメダカ、トウカイヨシノボリの4種となった。ニホンウナギはグアム島沖で産卵し、生まれた仔魚が日本へと来遊するが、IUCNおよび環境省のレッドリストにおける評価で来遊元となる個体群が著しく減少しているとされているために絶滅危惧I類とした。加茂地区での漁獲も大きく減少していると考えられている。カワバタモロコ、ミナミメダカ、トウカイヨシノボリは、いずれも美濃地方の平野部から中山間地に分布し、溜池や水田水路といった流れの緩やかな湿地を好む魚種である。加茂地区では圃場整備によって湿地的な環境が著しく減少しており、これらの魚種は非常に危機的な状況にある。

絶滅危惧II類はカワヒガイ、ヤリタナゴ、アブラボテ、ネコギギの4種である。カワヒガイは飛騨川等で比較的多く生息するが、琵琶湖産亜種のビワヒガイとの交雑が進んでおり、産卵に必要な二枚貝類の生息状況も悪化していると考えられた。ヤリタナゴとアブラボテも同様に産卵に必要な二枚貝類が減少しており、生息地も非常に少ない。ネコギギは河川上流域に生息しており、ダム湖や木曽川本流では琵琶湖産の外来種であるギギに置き換わってしまっている。数十年にわたって生息状況がモニタリングされている河川もあるが、2008年に著しく個体数が減少するなどの変動があり、生息状況が不安定である。

準絶滅危惧はヌマムツ、ホトケドジョウ、アユの3種である。ヌマムツは流れの緩やかな水田地帯の河川に生息するため、加茂地区では生息地が非常に少なくなっているが、隣接する関市に比較的多く生息しており、水系内での自然移入が見込まれると判断した。ホトケドジョウは里山的環境の小水路などに生息し、圃場整備や各種の開発行為によって生息地が減少している。アユは放流によって加茂地区の河川に広く分布しているが、実際に海から遡上して再生産に寄与しているのは木曽川・飛騨川の今渡ダムと川辺ダムより下流に限られると考えられたため準絶滅危惧とした。

情報不足とした4種のうち、イチモンジタナゴとシロヒレタビラは飛騨川や木曽川において多数生息しているが、それらは琵琶湖産の外来個体群であることがmtDNA解析によって示されている（梅村ほか，2012；向井、未発表）。したがって、これら2種は希少ではあるが、在来個体群が残っているかどうかの判断ができず情報不足とした。ドンコは木曽川のワンドで１個体のみ捕獲されており、オオヨシノボリも1967年に白川町で採集された標本があるものの、これら2種は他の採集記録が無くカテゴリーの評価が難しいために情報不足とした。

岐阜県版レッドリストにおける掲載種のうち、スナヤツメ南方種、イトモロコ、アマゴ（サツキマス）の3種については加茂地区の貴重な動植物種に選定しなかった。これら3種は県版レッドリストにおいても絶滅危惧ではなく、生息状況が悪化しつつあるとする準絶滅危惧である。加茂地域

ではこれら3種の生息数が多く、この地域においては現状で絶滅のおそれは少ないと考えられた。

環境省版レッドリスト掲載種のうち、ゼゼラ、ドジョウ、アジメドジョウについても加茂地域のレッドリストに選定しなかった。ゼゼラとドジョウについては、環境省版レッドリストでは遺伝的攪乱も考慮してレッドリストに選定されているが、加茂地域では同種内の遺伝的攪乱については評価が難しいために選定理由としていない。アジメドジョウについては岐阜県の揖斐川と大阪府の安威川での個体数の減少や開発行為を主たる理由として日本における絶滅危惧II類とされているが、実際は岐阜県内には広く生息し、現状では県内の多くの河川に多数生息するために県レッドリストにおいても選定されておらず、加茂地域のアジメドジョウも絶滅のおそれは少ないと考えられた。

魚類選定種一覧

加茂地区カテゴリー	種　名	学　名	岐阜県カテゴリー	環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅰ類	ニホンウナギ	*Anguilla japonica*	—	絶滅危惧 IB 類
	カワバタモロコ	*Hemigrammocypris neglectus*	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧 IB 類
	ミナミメダカ	*Oryzias latipes*	—	絶滅危惧 II 類
	トウカイヨシノボリ	*Rhinogobius telma*	準絶滅危惧	準絶滅危惧
絶滅危惧Ⅱ類	カワヒガイ	*Sarcocheilichthys variegatus variegatus*	—	準絶滅危惧
	ヤリタナゴ	*Tanakia lanceolata*	準絶滅危惧	準絶滅危惧
	アブラボテ	*Tanakia limbata*	準絶滅危惧	準絶滅危惧
	ネコギギ	*Tachysurus ichikawai*	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧 IB 類
準絶滅危惧	ヌマムツ	*Candidia sieboldii*	準絶滅危惧	—
	ホトケドジョウ	*Lefua echigonia*	準絶滅危惧	絶滅危惧 IB 類
	アユ	*Plecoglossus altivelis altivelis*	—	—
情報不足	イチモンジタナゴ	*Acheilognathus cyanostigma*	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧 IA 類
	シロヒレタビラ	*Acheilognathus tabira tabira*	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧 IB 類
	ドンコ	*Odontobutis obscura*	準絶滅危惧	—
	オオヨシノボリ	*Rhinogobius fluviatilis*	情報不足	—

ニホンウナギ
Anguilla japonica　　ウナギ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：ー
環 境 省：絶滅危惧ⅠA類

種の概要：全長60cm程度。成魚は河川上流域から河口域まで広く生息し、成熟すると降海してグアム島近辺まで移動して産卵する。生まれた卵・仔魚は黒潮に乗って日本沿岸に到達、河口域で幼魚期を過ごしたのち河川を遡上して数年間かけて成長する。天然遡上以外にも河口域で遡上を始めた「シラスウナギ」を捕獲して育てた個体が漁業用に放流されている。

生息状況と存続を脅かす要因：日本沿岸への稚魚（シラスウナギ）の来遊が激減しており、河口域の人為的環境改変による幼魚の生育場の消失や、河川改修による成魚の生息環境の減少、乱獲が減少要因と考えられている（海部，2016）。加茂地区では木曽川等の河川に生息し漁獲もされているが、生息数・漁獲量ともに減少している。

富加町産

分布：地区内　美濃加茂市、富加町
（他町村の木曽川・飛騨川等にも分布すると考えられる）
県　内　美濃地方、飛騨地方の河川、溜池（放流による人為分布を含む）

カワバタモロコ
Hemigrammocypris neglectus　　コイ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅰ類
環 境 省：絶滅危惧ⅠA類

種の概要：全長4cm程度。小型のコイ科魚類で、繁殖期の雄は金色を帯びた婚姻色をあらわす。雄より雌の方が大きくなる。ため池や水田周辺の流れの緩やかで抽水植物の多い環境に生息する。繁殖期は初夏で、抽水植物などの茂った場所で産卵し、卵は1～2日で孵化して動物プランクトンを食べて成長する（金川・板井，1998）。

生息状況と存続を脅かす要因：水田水路の環境改変、ため池への外来魚の放流、過剰な池干しが減少要因と考えられる。加茂地区における生息地は非常に限られている。美濃加茂市には放流由来と思われる生息地がある。

富加町産

分布：地区内　美濃加茂市、富加町
県　内　美濃地方の中山間地から平野部の河川、溜池

ミナミメダカ
Oryzias latipes　　メダカ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：ー
環 境 省：絶滅危惧Ⅱ類

種の概要：全長3cm程度。背鰭が体の後方に位置し、臀鰭が幅広く、尾鰭が角ばった形状をしている。オイカワ等のコイ科幼魚が「メダカ」として誤認されていることが多いが、背鰭の位置や臀鰭、尾鰭等の形態が異なる。水田周辺の水路や小河川、溜池に生息する。かつて日本で「メダカ」とされていた種は、現在はミナミメダカ*Oryzias latipes*とキタノメダカ*O. sakaizumii*の2種に分けられており、岐阜県に分布するのはミナミメダカ。

生息状況と存続を脅かす要因：岐阜県・愛知県の濃尾平野には多く生息するが、加茂地区の生息地は非常に少ない。圃場整備による水路の改修や、ため池における外来魚の放流によって多くの生息地が失われたものと考えられる。また市販の観賞用メダカ（ヒメダカ、シロメダカ等）が放流されることも多く、それらによる遺伝的攪乱も在来個体群の存続を脅かしている。

富加町産

分布：地区内　美濃加茂市、富加町、坂祝町
県　内　美濃地方の中山間地から平野部に広く分布する

トウカイヨシノボリ
Rhinogobius telma　　ハゼ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：全長4cm程度。岐阜県・愛知県・三重県の3県にのみ生息する東海地方固有種。溜池や、冬でも水が枯れない水田水路などに生息する。第一背鰭が伸長せず、体に鞍状もしくは不定形の暗色斑がある。水底の石の裏面などに産卵し、雄親が卵を保護する。生まれた仔魚は池内を群れて浮遊しながらプランクトンを食べて成長する。

生息状況と存続を脅かす要因：加茂地区で現在確認されている生息地は一地点のみである。環境省と岐阜県のレッドリストでは準絶滅危惧とされているが、実際は分布域全体でも生息地が少なく、かなり危機的な状況にある。減少要因は圃場整備による水路のコンクリート化、溜池へのブラックバス類の放流、国内の他地域から持ち込まれたヨシノボリ類との交雑である。

富加町産

分布：地区内　富加町
県　内　美濃地方の中山間地から平野部

カワヒガイ
Sarcocheilichthys variegatus variegatus　　コイ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：－
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：全長12cm程度。河川の岩場などに生息し、小動物を食べる。幼魚や若魚は体側に明瞭な黒色縦条があるが、成魚では不明瞭になる。産卵期は5月頃で、雄は頬が桜色、背部が青い婚姻色をあらわす。雌は腹部から1～2cmの産卵管が伸び、二枚貝の外套腔に産卵する。

生息状況と存続を脅かす要因：産卵に必要な二枚貝が減少している。また琵琶湖産亜種であるビワヒガイが移入しているため、交雑によって在来カワヒガイが減少し、雑種と考えられる個体が多くなっている（鈴木ほか，2016）。

富加町産

分布：地区内　川辺町、富加町、坂祝町
県　内　美濃地方南部

ヤリタナゴ
Tanakia lanceolata　　コイ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：全長8cm程度。やや流れのある河川に生息する細長い体形のタナゴ類。産卵期は4月から5月頃で、オスは臀鰭が赤く色づき、体側に緑がかった婚姻色をあらわす。雌は産卵管が伸び、マツカサガイに産卵するとされている。

生息状況と存続を脅かす要因：関市や岐阜市では水田地帯の小河川に多く生息するが、加茂地区では美濃加茂市の木曽川本流でしか確認されていない。生息に適した小河川の環境が圃場整備や河川改修によって変化したことや、産卵に必要な二枚貝類が減少したことで生息環境が減少したと考えられる。

美濃加茂市産

分布：地区内　美濃加茂市
県　内　美濃地方南部

アブラボテ
Tanakia limbata　　コイ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：全長5cm程度。ヤリタナゴに近縁だがやや体高が高くなり、より小規模な水路や河川に生息する。産卵期は4月から5月頃で、オスは臀鰭が黒くなる。タガイやイシガイに産卵するとされている。

生息状況と存続を脅かす要因：加茂地区で生息が確認されている場所は非常に少ない。関市や岐阜市では水田地帯の小河川に多く生息するが、加茂地区では関市からつながる水系でわずかに確認されている。生息に適した小河川の環境が圃場整備や河川改修によって変化したことや、産卵に必要な二枚貝類が減少したことで生息環境が減少していると考えられる。岐阜市では人為的に移殖された九州産アブラボテによる遺伝的攪乱が生じており、美濃加茂市でも放流されたと考えられる個体が採集されたことがある。

富加町産

分布：地区内　富加町
県　内　美濃地方南部

ネコギギ
Tachysurus ichikawai　　ギギ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅰ類
環 境 省：絶滅危惧ⅠB類

種の概要：全長10cm程度。岐阜県・愛知県・三重県の3県にのみ生息する東海地方固有種で、国の天然記念物。河川上流域に生息して水生昆虫などを食べている。産卵期は6～8月とされている。1930年代の犬山の木曽川鵜飼でも捕獲されていることから（丹羽，1967）、本来は加茂地区の木曽川・飛騨川の本流にも広く生息していた可能性がある。

生息状況と存続を脅かす要因：現在は河川上・中流域の支流の流れの緩やかな淵などに生息するが、護岸などによって生息に必要な環境が失われることがある。天然記念物であることから河川改修などの際にはネコギギの生息に配慮されることが多く、残された生息地は比較的保全されているが、原因不明の個体数の急減などが生じることがある（Watanabe, 2009）。木曽川等の大河川では国内外来魚のギギとの競合も考えられる。

美濃加茂市産

分布：地区内　七宗町、美濃加茂市、富加町
県　内　木曽三川上中流域

ヌマムツ
Candidia sieboldii　　コイ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：全長15cm程度。カワムツに類似するが、側線鱗数が多く胸鰭と腹鰭の前縁が朱色を帯びる。カワムツは河川上流域を好むが、本種は流れの緩やかな平野の水路に生息する。昆虫などの小動物を捕食し、夏季が産卵期。

生息状況と存続を脅かす要因：近縁種のカワムツは加茂地区全域に広く生息するが、本種は関市からつながる水系でわずかに確認されている。関市には多く見られるが、加茂地区では生息に適した小河川の環境が圃場整備や河川改修によって変化したことで減少したものと考えられる。

富加町産

分布：地区内　坂祝町、富加町
県　内　美濃地方南部

ホトケドジョウ
Lefua echigonia　　ドジョウ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：絶滅危惧ⅠB類

種の概要：全長5cm程度。ドジョウやシマドジョウ類と比べてずんぐりした体形をしており、鼻孔の近くに1対のひげがある。丘陵地の小河川や水路に生息しており、他の魚が住めないような水量の少ない細流に生息することもある。産卵期は春で、小動物を食べる。

生息状況と存続を脅かす要因：丘陵地の里山的な景観の環境に生息しているが、水田の乾田化と排水路のコンクリート化による水枯れなどによって生息地が減少している。高速道路等の建設の際に生息地が失われることも多い。

美濃加茂市産

分布：地区内　美濃加茂市、坂祝町
県　内　美濃地方の中山間地

アユ
Plecoglossus altivelis altivelis　　アユ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：全長20cm程度。河川中流域に広く生息し、川底の石に付着する藻類を食べて成長する。寿命は約1年で秋に中流域下部で産卵した後に死亡する。川で孵化した仔魚は河口の汽水域から沿岸海域で成長し、春に約5cmの若魚が川へと遡上する。ダム湖で陸封されることは少なく、岐阜県では阿木川ダムで琵琶湖産アユが陸封して定着した事例が知られるのみである。

生息状況と存続を脅かす要因：生活史において海と川を行き来する必要があるため、ダムなどの河川横断構造物の影響を受けやすい。加茂地区の多くの地域では漁業及び遊漁のために放流されているが、再生産が行われている場所は少ないと考えられる。

東白川村産

分布：地区内　東白川村、白川町、七宗町、川辺町、美濃加茂市、富加町、坂祝町（放流による人為分布を含む）
県　内　県全域に広く分布（放流による人為分布を含む）

イチモンジタナゴ
Acheilognathus cyanostigma　　コイ科

加茂地区：情報不足
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅰ類
環 境 省：絶滅危惧ⅠA類

種の概要：全長8cm程度。やや細長いタナゴ類で体側に肩部から尾柄部までつながる明瞭な青緑色の縦線がある。繁殖期は春で、雄は腹部や臀鰭が桃色になる。雌の産卵管は長く伸び、イシガイやドブガイに産卵するとされている。濃尾平野から近畿地方に分布し、かつては琵琶湖に大量に生息していたとされるが、滋賀県ではほぼ絶滅に近い状況のために条例で保護されている。

生息状況と存続を脅かす要因：加茂地区では木曽川のワンド、飛騨川のダム湖や長良川水系の一部の支流に分布するが、mtDNA解析によっていずれも琵琶湖水系や関西地方の水系からの移入であることが確認されている。在来個体群は残っていない可能性がある。

川辺町産

分布：地区内　川辺町、美濃加茂市、坂祝町（放流による人為分布を含む）
県　内　加茂地区、岐阜市（放流による人為分布を含む）

シロヒレタビラ
Acheilognathus tabira tabira　コイ科

加茂地区：情報不足
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅰ類
環 境 省：絶滅危惧ⅠB類

種の概要：全長8cm程度。口ひげは短く、体高はやや高い。肩部に暗青色の斑点がある。繁殖期は春で、オスの婚姻色は主に青緑色で腹部が黒く、臀鰭外縁が白くなる。一般的には水田周辺の水路や、河川下流域、わんどなどに生息する。

生息状況と存続を脅かす要因：加茂地区では飛騨川のダム湖に分布するが、mtDNA解析によって琵琶湖水系からの移入であることが確認されている（梅村ほか, 2012）。加茂地区において在来個体群は残っていない可能性がある。

川辺町産

分布：地区内　川辺町（放流による人為分布を含む）
県　内　川辺町、岐阜市、瑞穂市（放流による人為分布を含む）

ドンコ
Odontobutis obscura　ドンコ科

加茂地区：情報不足
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：全長10cm程度。口が大きく、腹鰭は二つに分かれている。体色は褐色で体側に黒色斑が並ぶ。カジカ類にやや似ているが、カジカ類はウロコが無く、鰓蓋に棘が発達し、胸鰭の軟条が太く発達するのに対して、本種は体に発達した鱗があり、鰓蓋に棘がなく、胸鰭の軟条は細い。産卵期は春。エビや小魚などを捕食する肉食魚で、一般的には抽水植物が茂った砂礫質の河川に多い。

生息状況と存続を脅かす要因：加茂地区では木曽川のワンドで採集されているのみである。本来は平野部の小規模河川に多く生息する種だが、加茂地区では生息に適した小河川の環境が圃場整備や河川改修によって変化したことで減少したと考えられる。

坂祝町産（撮影：伊藤　玄）

分布：地区内　坂祝町
県　内　美濃地方に分布

オオヨシノボリ
Rhinogobius fluviatilis　ハゼ科

加茂地区：情報不足
岐 阜 県：情報不足
環 境 省：－

種の概要：全長10cm程度。頬部に斑紋は無く、胸鰭の付け根に明瞭な黒色斑がある。成魚は全身が黒っぽくなる。仔魚期に海に下り、川に遡上して成長する。中流域の早瀬に生息し、他のヨシノボリ類（ゴクラクハゼは除く）よりも大きくなる。

生息状況と存続を脅かす要因：県内での分布記録が少なく希少な魚類だが、1967年に加茂郡白川町河岐の飛騨川で採集された標本が岐阜県博物館に残されている（標本番号GPM-Z 869）。生活史の中で海と川を行き来する必要があるためにダムなどの河川横断構造物の影響を受けていると考えられる。

白川町産

分布：地区内　白川町
県　内　長良川、土岐川

引用文献

海部健三（2016）ウナギの保全生態学．共立出版，東京．

金川直幸・板井隆彦（1998）カワバタモロコの生息地と河川改修．森　誠一（編）魚から見た水環境，pp61-80，信山社サイテック．

丹羽　彌（1967）木曽川の魚　河川魚相生態学　中下流編．大衆書房．

鈴木美優・北西　滋・淀　太我・向井貴彦（2016）東海地方におけるヒガイ属魚類の遺伝的集団構造と撹乱．魚類学雑誌，63：107–118.

梅村啓太郎・二村　凌・高木雅紀・池谷幸樹・向井貴彦（2012）岐阜県産シロヒレタビラにおける外来ミトコンドリアDNAの分布．日本生物地理学会会報，67：169–174.

Watanabe, K. (2009) Sudden crash of a local population of the endangered bagrid catfish *Pseudobagrus ichikawai*. Ichthyol. Res., 56: 319-321.

執筆：向井貴彦

（7）昆虫類

レッドリストを作成するに当たっては、本来ならば過去からの個体数の増減を検討すべきであるが、昆虫類については、種数が多い上に、過去の量的なデータがほとんどない。そこで今回は、蝶やトンボなど、多少なりとも過去のデータがあるグループ以外では、環境省や岐阜県の位置づけを参考にしながら、加茂地区に限らず一般的な個体数の増減を考慮してレッドリストを作成した。ただ岐阜県のレッドリストは、挙げられている分類群に偏りが大きいため、今回レッドリストに挙げた昆虫も、トンボと蝶に偏っているが、今後さまざまな分類群のデータを積み重ねていくことで、この地域の守るべき自然も見えてくるのではないかと考える。とりわけ昆虫は、環境変化の影響を受けやすく種数も多いため、環境の変化を知るための、たいへん敏感な指標として重要である。

加茂地区における昆虫類のレッドリスト掲載種は表のようになった。データが多いトンボと蝶が中心となっている。コバネアオイトトンボ、マイコアカネ、ホシチャバネセセリ、ウラナミジャノメ、ゴマシジミは、近年の記録がなく、既に絶滅している可能性もあるが、確認のための調査が十分できていないので、ひとまず絶滅危惧Ⅰ類とした。グンバイトンボは、近年ほとんど確認できなかった種で、幸い今回の調査で発見できたが、生息環境の悪化で生息地がきわめて限られる状態となっており、絶滅危惧Ⅰ類とした。ムスジイトトンボは水生植物が多い池沼に生息するが、開発の他、アメリカザリガニの侵入によって、生息に適した環境が破壊される事例も多く、保全のためには外来種対策も重要である。

ガムシは、以前は池沼に普通に見られる甲虫であったが、近年は個体数が激減している。成虫は光に強く引き寄せられ、そのまま水に戻れずに死んでいく事例が見られた。街灯が水銀灯に変えられてから、数年で生息地が消滅していった。また成虫は枯死した水草などを食べているため、アメリカザリガニの関与も疑われる。ヨツボシカミキリは 2，30 年前まではごく普通に見られ、人家の灯りにも飛来し、薪材にも集まる昆虫であったが、いつの間にか見られなくなっている。これも全国的な傾向であり、その原因はまったく不明である。

タガメは、全国的に減少した大型水生半翅類である。県内でもほとんどの地域で記録が途絶えているが、加茂地域では灯火に飛来したものが発見されたり、水田で見つかることもある。一年中水のある環境が必要で、この地域に溜池が多いことが、本種の生息を可能にしているものと思われる。

八百津町においてハッチョウトンボの群棲地が県の天然記念物に指定されているが、ハッチョウトンボの幼虫はごく浅い水域にしか生息できず、このような場所は土砂の流入によって乾燥が進みやすい。今後も保全されることでハッチョウトンボのみならず、希少な水生昆虫の生息地になると考えられる。

ミヤマカラスシジミは美濃加茂市の市街地から記録があるが、本種の生息地としては疑問があり、偶産やデータの誤りの可能性を考慮してひとまず情報不足とした。

従来加茂地域は、一部のものを除いて調査が不十分であったこともあり、今回の調査は、加茂地域の昆虫相の概要把握が中心であった。このため特殊な調査法を必要とするものや発生時期が短いものの調査までは十分にできなかった。調査で調べられた種数も、この地域に生息すると思われる昆虫の半分ほどにしかなっていないので、今後の調査に期待したい。

昆虫類選定種一覧

加茂地区カテゴリー	種　名	学　名	岐阜県カテゴリー	環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅰ類	コバネアオイトトンボ	*Lestes japonicus*	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧IB類
	マダラナニワトンボ	*Sympetrum maculatum*	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧IB類
	グンバイトンボ	*Platycnemis foliacea sasakii*	準絶滅危惧	準絶滅危惧
	ムスジイトトンボ	*Paracercion melanotum*	準絶滅危惧	—
	マイコアカネ	*Sympetrum kunckeli*	準絶滅危惧	—
	ガムシ	*Hydrophilus acuminatus*	—	準絶滅危惧
	ヨツボシカミキリ	*Stenygrinum quadrinotatum*	情報不足	絶滅危惧IB類
	ホシチャバネセセリ	*Aeromachus inachus inachus*	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧IB類
	ウラナミジャノメ	*Ypthima multistriata niphonica*	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧II類
	ゴマシジミ	*Phengaris teleius kazamoto*	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧IA類
絶滅危惧Ⅱ類	タガメ	*Lethocerus deyrolli*	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧II類
	ヒメハルゼミ	*Euterpnosia chibensis chibensis*	準絶滅危惧	—
	ツマグロキチョウ	*Eurema laeta betheseba*	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧IB類
	キマダラルリツバメ	*Spindasis takanonis takanonis*	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
	オオヒカゲ	*Ninguta schrenckii schrenckii*	準絶滅危惧	—
	ミドリシジミ	*Neozephyrus japonicus japonicus*	絶滅危惧Ⅱ類	—
	ギフチョウ	*Luehdorfia japonica*	準絶滅危惧	絶滅危惧II類
	ウラギンスジヒョウモン	*Argyronome laodice japonica*	準絶滅危惧	絶滅危惧II類
	スジグロチャバネセセリ	*Thymelicus leoninus loeoninus*	準絶滅危惧	準絶滅危惧
	トゲアリ	*Polyrhachis lamellidens*	—	絶滅危惧II類
準絶滅危惧	ホンサナエ	*Shaogomphus postocularis*	準絶滅危惧	—
	トラフトンボ	*Epitheca marginata*	準絶滅危惧	—
	ヒメタイコウチ	*Nepa hoffmanni*	絶滅危惧Ⅱ類	—
	アイヌハンミョウ	*Cicindela gemmata aino*	—	準絶滅危惧
	アカマダラコガネ	*Anthracophora rusticola*	準絶滅危惧	—
	シマゲンゴロウ	*Hydaticus bowringii*	—	準絶滅危惧
	キボシツブゲンゴロウ	*Japanolaccophilus niponensis*	—	準絶滅危惧
	トラフカミキリ	*Xylotrechus chinensis kurosawai*	準絶滅危惧	—
	ハマダラハルカ	*Haruka elegans*	—	情報不足
	ギンイチモンジセセリ	*Leptalina unicolor*	準絶滅危惧	準絶滅危惧
	ヘリグロチャバネセセリ	*Thymelicus sylvaticus sylvaticus*	準絶滅危惧	—
	ミヤマチャバネセセリ	*Pelopidas jansonis*	準絶滅危惧	—
	フジミドリシジミ	*Sibataniozephyrus fujisanus fujisanus*	準絶滅危惧	—
	オオムラサキ	*Sasakia charonda charonda*	—	準絶滅危惧
	ヤホシホソマダラ	*Balataea octomaculata*	—	準絶滅危惧
	フタモンクモバチ	*Parabatozonus jankowskii*	—	—
	クロマルハナバチ	*Bombus ignitus*	—	準絶滅危惧
	ヤマトアシナガバチ	*Polistes japonicus*	—	情報不足
	モンスズメバチ	*Vespa crabro flavofasciata*	—	情報不足
情報不足	キイロヤマトンボ	*Macromia daimoji*	準絶滅危惧	準絶滅危惧
	ネアカヨシヤンマ	*Aeschnophlebia anisoptera*	情報不足	準絶滅危惧
	フタスジサナエ	*Trigomphus interruptus*	情報不足	準絶滅危惧
	モートンイトトンボ	*Mortonagrion selenion*	—	準絶滅危惧
	オツネントンボ	*Simpecma paedisca*	—	—
	アオイトトンボ	*Lestes sponsa*	—	—
	ヨツボシトンボ	*Libellula quadrimaculata asahinai*	—	—
	ネグロクサアブ	*Coenomyia basalis*	—	情報不足
	ミヤマカラスシジミ	*Fixsenia mera*	絶滅危惧II類	—

コバネアオイトトンボ
Lestes japonicus　　アオイトトンボ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅰ類
環 境 省：絶滅危惧IB類

種の概要：成熟したオスの複眼は青く、胸部の地色は水色で白粉を生じない。翅を八の字に開いてぶら下がるように止まる。

生息状況と存続を脅かす要因：平地から丘陵地の抽水植物の多い、澄んだ池沼や河川敷の水たまりなどに見られるが、分布は局所的である。水質の悪化や河川敷の改変により生息地が激減している。

県内産（撮影：清水典之）

分布：地区内　2006年以前には富加町で記録があるが、今回の調査では確認できなかった。
県　内　美濃地方各地から記録はあるが、2006年以前に限られている。

マダラナニワトンボ
Sympetrum maculatum　　トンボ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅰ類
環 境 省：絶滅危惧IB類

種の概要：赤くならない赤トンボ。平地から丘陵地の、樹林内にある浅く水草の多い池沼や湿原に生息する。

生息状況と存続を脅かす要因：全国的に局所的な分布を示し、近年、水質悪化等により生息地が減少している。かっての農薬散布でも生息地が失われた。

県内産（撮影：常川　真）

分布：地区内　過去に富加町で記録（2005年）はあるが、今回の調査では確認できなかった。
県　内　東濃地方で確認されている 。

グンバイトンボ
Platycnemis foliacea sasakii　　モノサシトンボ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：オスの中・後脚脛節が花びらのように拡がり、白く目立つ。メスはモノサシトンボに似るが、頭部に後頭条があることなどで区別できる。平地から丘陵地の、林に囲まれた抽水植物の多い河川や細流に生息する。

生息状況と存続を脅かす要因：生息が確認できた範囲は僅か1kmにも満たず、個体数もあまり多くない。河川改修等では、本種の生息に配慮する必要がある。

加茂郡内産

分布：地区内　過去に数ヵ所の確認記録が残るが、今回の調査では1ヵ所のみである。
県　内　恵那市、瑞浪市、土岐市、御嵩町など東濃地方で棲息地が確認されている。

ムスジイトトンボ
Paracercion melanotum　　イトトンボ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：オスは成熟すると斑紋が鮮やかな青色になる。近縁のセスジイトトンボに似るが、本種は複眼の色が青い。肩黒条中にわずかに淡色線の残る個体も多い。

生息状況と存続を脅かす要因：ヨシやガマなどが茂る湿地に生息するが、これらの湿地の埋め立て等により生息地が消失している。

富加町産

分布：地区内　今回の調査では、2ヶ所で確認できたが、いずれも極めて少数であった。（坂祝町・富加町）
県　内　羽島市、海津市、笠松町などで確認されている。

マイコアカネ
Sympetrum kunckeli　　トンボ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：マユタテアカネに似るが、やや小型で顔面が青白く、胸部に小黒斑がある。平地から丘陵地の抽水植物が多い池などで発生する。

生息状況と存続を脅かす要因：加茂地域では三十数年前の記録しかなく、調査が不十分か棲息していないのか不明である。十分な調査の必要がある。

分布：地区内　過去に美濃加茂市加茂野町で記録があるが、今回の調査では確認できなかった。
県　内　岐阜市、海津市、羽島郡などで記録がある。

県外産（撮影：清水 典之）

ガムシ
Hydrophilus acuminatus　　ガムシ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：－
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：水生昆虫だが、泳ぎはあまり得意ではない。幼虫は捕食性で、成虫は雑食性。大型で目立ち、灯りに集まる習性が強い。

生息状況と存続を脅かす要因：以前は各地に普通に見られる昆虫であった。しかし水銀灯の街灯が普及すると、その光に集まった個体が水に戻れなくなって、数年で周辺から見られなくなる。また、アメリカザリガニが侵入すると水草がなくなり、生息できなくなる。現在急速に生息数が減少している。

分布：地区内　白川町，七宗町から記録があるが、以前はその他の市町村にも生息していたと思われる。2000年代以降は記録がない。
県　内　高山市，関市，本巣市から記録があるが、高山市の2004年の記録が最も新しい。極めて危険な状態である。

県内産

ヨツボシカミキリ
Stenygrinum quadrinotatum　　カミキリムシ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：情報不足
環 境 省：絶滅危惧ⅠB類

種の概要：以前は平地でよく見られる昆虫で、人家の灯りにもよく飛来したが、1970年代以降徐々に減少し、近年ではほとんど見られなくなった。

生息状況と存続を脅かす要因：全国的に減少しており、雑木林が伐採されたり、管理放棄されて竹林化したことなどが要因として疑われるが、はっきりしたことはわかっていない。

分布：地区内　富加町から記録があるが、もっと広く分布していたと考えられる。
県　内　美濃地方各地から記録があるが、近年の記録はない。

県外産（撮影：長谷川道明）

ホシチャバネセセリ
Aeromachus inachus inachus　　セセリチョウ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅰ類
環 境 省：絶滅危惧ⅠB類

種の概要：丘陵地～山地の草原や疎林・林縁部に棲息する小型のセセリチョウ。翅裏は、暗い黄土色で中央に白斑があるがやや不明瞭。幼虫の食草はオオアブラススキ（イネ科）

生息状況と存続を脅かす要因：加茂地域では美濃加茂市に記録があるが、里山の放置で環境が悪化したことや、松毛虫（マツカレハの幼虫）防除のための薬剤散布などにより絶滅した可能性がある。

分布：地区内　美濃加茂市で記録はあるが、最近20年ほど確認されていない。
県　内　高山市、美濃加茂市に記録がある。

県内産（撮影：中島和典）

ウラナミジャノメ
Ypthima multistriata niphonica　タテハチョウ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅰ類
環 境 省：絶滅危惧Ⅱ類

種の概要：翅裏の波模様と眼状紋が特徴で、ヒメウラナミジャノメに似るが眼状紋の数で区別できる。幼虫は、ススキ、ヌマガヤ、ショウジョウスゲなどを食草とする。

生息状況と存続を脅かす要因：里山環境の変化にもあるが、本種の希少性による採集圧も加わって激減した。既に絶滅した可能性もある。

美濃加茂市産（撮影：中島和典）

分布：地区内　美濃加茂市で記録があるが、長年確認されていない。
県　内　岐阜市、各務原市、可児市などから記録がある。

ゴマシジミ
Phengaris teleius kazamoto　シジミチョウ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅰ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：絶滅危惧 IA 類

種の概要：7月下旬～8月ごろ発生するシジミチョウ。翅表は青色から黒褐色で、黒い斑点列がある。翅裏は灰白色～茶褐色で、小丸斑が並ぶ。幼虫は、ワレモコウを食べ、終齢になるとシワクシケアリの巣に運ばれ卵や幼虫を食べる。

生息状況と存続を脅かす要因：草地の荒廃による食草のワレモコウの減少が一番の要因である。本種の希少性のため採集圧も強い。

県内産（撮影：中島和典）

分布：地区内　白川町、東白川村、八百津町に記録がある。
県　内　高山市、下呂市、東濃各市などから記録がある。

タガメ
Lethocerus deyrolli　コオイムシ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：絶滅危惧Ⅱ類

種の概要：大型の水生昆虫で脊椎動物でも捕食する。消化液を獲物に注入し、消化した物を吸収するため、うかつに刺されると筋肉等が溶解する。水草が多い溜池などを好んで生息する。一年中水のある環境がないと生息できない。

生息状況と存続を脅かす要因：水草の多い溜池が少なくなり、生息数は減少している。また良好な池があっても、アメリカザリガニが侵入すると数年で水草等がなくなって生息できなくなる。この他明るい街灯が普及すると光に引き寄せられて水に戻れず、いなくなる例も知られている。

坂祝町産

分布：地区内　美濃加茂市，坂祝町，富加町，八百津町
県　内　広域に生息していたが多くの地域で姿を消しており、加茂郡南部は例外的にまだ生息数が多い地域である。

ヒメハルゼミ
Euterpnosia chibensis chibensis　セミ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：ツブラジイなどの多い照葉樹林に生息し、7月頃の少し涼しくなる時間帯に大合唱と呼ばれる多くの個体が同調した鳴き方をする。どこの生息地でも局地的な分布を示し、照葉樹林であればどこでも見られるわけではない。

生息状況と存続を脅かす要因：照葉樹林の伐採により生息地を失いつつある。分布は孤立的でいったん絶滅すると回復が難しい。

県内産（撮影：中島和典）

分布：地区内　白川町，八百津町から記録がある。
県　内　揖斐川町(旧谷汲村)や本巣市(旧根尾村)は昔から知られている生息地があるが、その周囲からは記録がない。郡上市，可児市，美濃市，多治見市からも記録があるが、いずれも生息地は限られている。

ツマグロキチョウ
Eurema laeta betheseba　　シロチョウ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：絶滅危惧ⅠB類

種の概要：小型の黄色いチョウでキタキチョウに似るが、本種の後翅裏には2本の平行した黒条が見られる。幼虫の食草はカワラケツメイだが、近年、外来のアレチケツメイを代用食草として利用し増殖している地域もある。

生息状況と存続を脅かす要因：農地開発や草地の管理放棄などにより食草の減少が顕著である。近年、外来種であるアレチケツメイが増えたところに本種が発生する例もある（多治見市、可児市など）。

坂祝町産

分布：地区内　坂祝町
県　内　美濃地方の低地～丘陵地に記録が多い。

キマダラルリツバメ
Spindasis takanonis takanonis　　シジミチョウ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：翅表は暗褐色で、オスには青紫色の光沢が出る。翅裏は淡黄色、中央に銀色線を持つ黒条斑が複数走り、尾状突起付け根付近に橙色班が目立つ。幼虫は、松や桜の古木に営巣するハリブトシリアゲアリに育てられるという特殊な生態をもつ。

生息状況と存続を脅かす要因：全国的に見ても生息分布が局地的。シリアゲアリ類の営巣する古木の減少や、採集圧による影響が懸念される。

県内産（撮影：中島和典）

分布：地区内　白川町、東白川村に記録がある。
県　内　郡上市、中津川市、養老町に記録がある。

オオヒカゲ
Ninguta schrenckii schrenckii　　タテハチョウ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：ジャノメチョウ類の中では最大級で、林内や林縁部などのやや暗い湿地に多い。昼間は目につきにくいが、夕刻になると活発に活動する。幼虫の食草は、カサスゲ、オニスゲ、ススキ、ツルヨシなど湿地性のカヤツリグサ科、イネ科植物。

生息状況と存続を脅かす要因：生息地が各種開発されたことなどにより各地で減少している。

県外産（撮影：中島和典）

分布：地区内　白川町に記録があるが今回の調査では確認できなかった。
県　内　高山市や郡上市に記録が多いが、局地的で近年は減少している。

ミドリシジミ
Neozephyrus japonicus japonicus　　シジミチョウ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：－

種の概要：オスは、金属光沢のある緑色、メスは、黒褐色に橙色、青緑色の斑紋を持ち、その組み合わせにより4型がある。幼虫は、湿地や長年耕作放棄された谷津田に生えるハンノキを食草とし、葉をたたんでギョウザ状の巣を作り生活する。

生息状況と存続を脅かす要因：開発や宅地造成などにより生息地が減少しているが、山間地の谷津田では、耕作放棄により食草のハンノキが茂る場所もある。

分布：地区内　美濃加茂市、坂祝町、富加町
県　内　ほぼ全域に生息地が知られる。

ギフチョウ
Luehdorfia japonica　　アゲハチョウ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：絶滅危惧Ⅱ類

種の概要：岐阜県の金山町で初めて見つかった種ということで、ギフチョウの名がつけられた。幼虫の食草は、カンアオイ類やウスバサイシンなどで、一生のうち10ヶ月ほどをさなぎの状態で過ごす。

生息状況と存続を脅かす要因：里山の荒廃によって食草の生育地が藪化している。ある公園では、紐による草刈りで食草を根こそぎはぎ取ってしまったために生育できなくなったという例もある。

分布：地区内　各地で見られた時期もあったが、現在は局所的である。
県　内　各地で記録はある。採集圧による減少も見られる。

ウラギンスジヒョウモン
Argyronome laodice japonica　　タテハチョウ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：絶滅危惧Ⅱ類

種の概要：低山～山地に隣接した林縁部や草原に棲息する。幼虫の食草は各種スミレ類。6月中旬ごろに羽化し、盛夏には一旦活動を休止し、気温が下がると戻る。

生息状況と存続を脅かす要因：全国的に減少傾向にある。主な生息地である乾性草原が開発等によって失われたことが原因と考えられる。

県内産（撮影：中島和典）

分布：地区内　美濃加茂市北部で確認できた。
県　内　丘陵地～山地に局所的に点在する。

スジグロチャバネセセリ
Thymelicus leoninus　　セセリチョウ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：成虫の羽の裏面は一様な黄褐色に黒い翅脈が目立つ。幼虫はカモジグサやヒメノガリヤスなどのイネ科植物を食べるため、これらが生える低山地から山地の草原や疎林、林縁に生息する。成虫は花の蜜を吸うほか、路上で吸水することも多い。

生息状況と存続を脅かす要因：里山環境が開発によって宅地化したり、放置されて樹林化するなどして生息地が失われ、存続を脅かしている。

県内産（撮影：中島和典）

分布：地区内　白川町に記録があるが今回の調査では確認できなかった。
県　内　県内の広域から記録はあるが、高山市，郡上市，揖斐川町以外では記録は少ない。近年は個体数の減少が著しい。

トゲアリ
Polyrhachis lamellidens　　アリ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：－
環 境 省：絶滅危惧Ⅱ類

種の概要：クロオオアリやムネアカオオアリに一時的社会寄生し、樹洞などに営巣する。胸部に顕著な棘があり、特に後ろ向きに釣り針状に発達した1対はよく目立つ。似た種がないので、わかりやすい特徴的な種である。近年見る機会がたいへん少なくなった。

生息状況と存続を脅かす要因：樹洞があるようなある程度の大きさの樹木が営巣に必要であることなどから、里山環境の改変により、生息地が減少したと考えられる。

分布：地区内　富加町で確認された。
県　内　高山市や飛騨市に記録がないのは不思議だが、県内の各地から記録されている。ただしどこの市町村でも記録は多くない。

ホンサナエ
Shaogomphus postocularis　　サナエトンボ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：丘陵地の、川底が砂泥質の河川に生息し、幼虫で越冬する。体形はずんぐりとした中型のトンボで、5月ごろに多く見られる。西日本・東日本の個体群に分けられ、岐阜県のものは西日本型に属する。

生息状況と存続を脅かす要因：幼虫は緩やかな流れの砂泥質河床に潜み生活する。羽化後の若い個体は一旦落葉広葉樹林で生活することも知られる。

坂祝町産

分布：地区内　今回の調査で、僅か1頭だけの確認である。（坂祝町）
県　内　岐阜市、多治見市、羽島郡などで確認されている。

トラフトンボ
Epitheca marginata　　エゾトンボ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：腹部に黄色い斑紋があり虎斑（とらふ）と名付けられた。5月ごろ、溜池の内縁部を周回する姿が見られる。産卵は独特で、卵塊を作り水へ投入する。

生息状況と存続を脅かす要因：平地や丘陵地の溜池に産するため、ブラックバスやブルーギル、ウシガエルなどの外来生物に捕食される。溜池の水質悪化や埋め立てなども影響を与えている。

富加町産

分布：地区内　富加町、美濃加茂市で確認できた。
県　内　岐阜市、美濃市、羽島市、海津市、羽島郡で確認されている。

ヒメタイコウチ
Nepa hoffmanni　　タイコウチ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：－

種の概要：水生昆虫であるが、遊泳能力がほとんどなく、泥の表面を水が流れるような場所で落ち葉の下などに隠れて生活している。全国的にも生息地が限られており、東海、近畿、四国といった不連続な分布は、かって広く分布したものが環境の変化によって依存的な分布になったものと考えられる。

生息状況と存続を脅かす要因：人間にとっては使い道のない浅い湿地に住むため、埋め立てなどによって生息地が減少している。またそれぞれの生息地が孤立しているため、一度絶滅した場所では復活できない。加茂地域は全国的にも例外的に生息地に恵まれた地域である。

坂祝町産

分布：地区内　坂祝町、富加町、美濃加茂市で生息が確認された。
県　内　東濃地方に生息地が多く、関市や岐阜市にも少ないながら生息地が知られている。

アイヌハンミョウ
Cicindela gemmata aino　　オサムシ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：上・中流域の河川敷の砂地に生息する。

生息状況と存続を脅かす要因：砂防ダム等の建設で洪水が減少し、河川敷の環境が安定した結果、草地化したり、公園が作られたりして砂地が減少した。

県外産

分布：地区内　白川町から記録がある。
県　内　揖斐川町、関市、可児市から記録があるが、既知産地は少ない

アカマダラコガネ
Anthracophora rusticola　　コガネムシ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：猛禽類の巣の中で幼虫生活を送ることが分かっており、一般のコガネムシ科の多くが腐植を食べているのに対し、肉を食べた方が成長が良いとされる。アカマダラハナムグリと呼ばれることもある。

生息状況と存続を脅かす要因：猛禽類の減少に伴って個体数は減っていると考えられる。

県内産（撮影：中島和典）

分布：地区内　美濃加茂市から記録がある
県　内　各地から記録があるが、散発的である。

シマゲンゴロウ
Hydaticus bowringii　　ゲンゴロウ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：美しい模様をもつ中型のゲンゴロウ。水田やため池などの比較的浅い止水に生息する。幼虫、成虫共に肉食なので、小動物の豊かな環境が必要である。灯火にも飛来する。

生息状況と存続を脅かす要因：放棄水田は本種のよい生息地になるが、埋め立てなどにより生息地は減少傾向にある。生息地へのアメリカザリガニの侵入は重大な絶滅要因となる。

美濃加茂市産

分布：地区内　美濃加茂市から記録された。
県　内　美濃地方の平地から低山地にかけて記録がある。

キボシツブゲンゴロウ
Japanolaccophilus niponensis　　ゲンゴロウ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：河川上流部の岸際の水中で、水生植物や落ち葉の陰に潜んでいる。きれいな水でないと生息できないようである。

生息状況と存続を脅かす要因：ゴミの投棄などによる、河川上流部の水質悪化。

県外産（撮影：松井英司）

分布：地区内　七宗町から記録がある。
県　内　揖斐川町と山県市から記録がある。

トラフカミキリ
Xylotrechus chinensis kurosawai　　カミキリムシ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：蜂に擬態しているとされる代表的な昆虫で、以前は桑の大害虫とされた。しかし養蚕業の衰退に伴って桑畑がなくなり、本種の個体数も激減した。幼虫はヤマグワなどの幹に潜って食害し、成虫は花に来る。

生息状況と存続を脅かす要因：桑畑の減少により激減した。産卵に適した桑の老木の減少は、トラフカミキリの個体数減少に直結している。

美濃加茂市産

分布：地区内　東白川村と七宗町から記録があり、今回の調査では美濃加茂市内にわずかに残った桑畑跡で見つかった。
県　内　広く分布しているが、桑畑がなくなったために野生のヤマグワ等に依存して細々と生存している。

ハマダラハルカ
Haruka elegans　　ハルカ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：(岐阜県初記録)
環 境 省：情報不足

種の概要：春に出現する大型の双翅目昆虫。体が黒く、羽根に特徴的な斑紋がある。似た種がおらず特徴的な種だが、これまで岐阜県からの記録を見ていない。幼虫は立ち枯れや朽ち木の樹皮下で生活していると考えられている。日本固有種でハルカ科としては日本唯一の種。

生息状況と存続を脅かす要因：今回の調査で富加町で1頭確認された。全国的にも情報不足とされており、平地～低山地の雑木林に生息するようで、里山環境の保全が必要と思われる。

富加町産

分布：地区内　富加町で確認された。
県　内　これまで岐阜県からの記録はなかったと思われる。

ギンイチモンジセセリ
Leptalina unicolor　　セセリチョウ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：翅表は黒褐色で無紋、春型は後翅裏に入る銀白条が目立つ。幼虫の食草は、ススキ、チガヤ、オオアブラススキ、ヨシなど。県内では丘陵地から山地にかけて記録が多い。

生息状況と存続を脅かす要因：河川敷の草原や農地周辺の草地に生息するが、全国的に減少している。草刈りが放棄されて樹林化したり、除草剤や防草シート、各種開発なども一因かもしれない。

県内産（撮影：中島和典）

分布：地区内　美濃加茂市、坂祝町、白川町に記録があるが、今回の調査では確認できなかった。
県　内　高山市、郡上市、恵那市、可児市などに記録が多いが、その他の市町村からも記録がある。

ヘリグロチャバネセセリ
Thymelicus sylvaticus　　セセリチョウ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：スジグロチャバネセセリにたいへんよく似るが、翅表の縁の暗色部がより広い。幼虫はスジグロチャバネセセリと同じくカモジグサやヒメノガリヤスなどを食べる。成虫はやはり草原、疎林、林縁で見られる。

生息状況と存続を脅かす要因：里山環境が開発によって宅地化したり、放置されて樹林化するなどして生息地が失われ、存続を脅かしている。

県内産（撮影：中島和典）

分布：地区内　東白川村に記録があるが、今回の調査では確認できなかった。
県　内　各地から記録があり、その多くは山地からのものだが、可児市からも記録がある。近年は減少している。

ミヤマチャバネセセリ
Pelopidas jansonis　　セセリチョウ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：幼虫がススキ、ヨシなどイネ科植物の葉を食べるので、やや山地の河川敷の草原に見られる。花から吸蜜したり、路上で吸水する姿が見られるほか、動物の糞から吸汁することもある。似た種があるが、後翅裏面の付け根よりにはっきりとした白斑があるのが特徴。

生息状況と存続を脅かす要因：草原環境がなくなってきたことが大きな減少要因。

県内産（撮影：中島和典）

分布：地区内　七宗町，白川町，八百津町，美濃加茂市から記録があるが、今回の調査では確認できなかった。
県　内　広く分布するが、近年各地で減少している。

フジミドリシジミ
Sibataniozephyrus fujisanus fujisanus　シジミチョウ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：－

種の概要：雄の羽根は表側が美しい金青色を呈する。ブナ・イヌブナを食樹とし、県内では食樹の自生地で分布が知られるが、個体数は多くない。

生息状況と存続を脅かす要因：食樹であるブナ・イヌブナの伐採。加茂地域ではブナの自生地が限られていることもあり、配慮を必要とする。

県外産

分布：地区内　白川町から記録がある。
県　内　飛騨・美濃を通じて、ブナ林から記録されている。

オオムラサキ
Sasakia charonda charonda　タテハチョウ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：日本の国蝶。大型のチョウで、オスでは基半部が青紫色に輝く。中央に白斑が目立ち、亜外縁部と外中央に黄白色の斑列が並ぶ。幼虫の食草はエノキ、成虫は樹液に来る。

生息状況と存続を脅かす要因：里山の雑木林や河畔林でよく見られるが、開発や植林によって樹林の面積が狭まっている。また一部で成虫や越冬中の幼虫に対する採集圧も高くなっている。

美濃加茂市産

分布：地区内　美濃加茂市、富加町、川辺町などで確認。
県　内　県内各地に分布するが標高の低い地域では少ない。

ヤホシホソマダラ
Balataea octomaculata　マダラガ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：体が瑠璃色で羽根に黄紋があり、小型だが美しい蛾である。幼虫がヨシ等を食べるため水辺で見られるが、少ない。

生息状況と存続を脅かす要因：水辺環境が改変されると姿を消す可能性がある。分布が局限されており、一度いなくなると回復は難しい。

東白川村産

分布：地区内　東白川村で確認している。
県　内　中津川市，瑞浪市から記録がある。

フタモンクモバチ
Parabatozonus jankowskii　クモバチ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：クモバチ科の中でも比較的大型な種で、オニグモなどを狩って幼虫の餌にする狩バチの一種である。県内からの記録は非常に少ない。里山環境に生息する。

生息状況と存続を脅かす要因：発見例が少なく、詳しいことがわからないが、オニグモが生息するような里山環境の改変が脅威となると考えられる。

美濃加茂市産

分布：地区内　美濃加茂市と東白川村で確認された。
県　内　岐阜市で記録があるが、最近の記録はない。

クロマルハナバチ
Bombus ignitus　　ミツバチ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：大型のハナバチで、花粉の媒介者として重要であるが、県内での記録は少ない。近年野生の個体の減少が各地で確認されている。一方で、外来種のセイヨウオオマルハナバチがトマト等の花粉媒介用に使用された結果、野生化して在来種を圧迫している反省から、これに近縁な在来種として本種が花粉媒介用に商品化されている。しかし国内外来種に相当するので、注意が必要である。

生息状況と存続を脅かす要因：よく似たコマルハナバチが市街地でもよく見られるのに対し、里山のような環境に多い。里山の開発が本種を減少させると考えられる。また商品化された個体が野外に逃亡すると、遺伝子攪乱の可能性があり、逃亡を防ぐ適切な使用が必要である。

美濃加茂市産

分布：地区内　坂祝町、富加町、美濃加茂市で確認された。
県　内　山県市、岐阜市から知られているが、記録は少ない。

ヤマトアシナガバチ
Polistes japonicus　　スズメバチ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：情報不足

種の概要：中型のアシナガバチで、葉の裏や細い枝に巣を作るが、大きな巣にはならず、1巣あたりの蜂の数も少ない。巣にいたずらするなどしなければ、ほとんど刺されることはない。

生息状況と存続を脅かす要因：元々産卵数も少なく、アシナガバチの中でも繁殖力が弱い。しかし全国的に個体数が減少している理由はわかっていない。

富加町産

分布：地区内　富加町で確認された。
県　内　美濃地方各地から記録されている。

モンスズメバチ
Vespa crabro flavofasciata　　スズメバチ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：情報不足

種の概要：昆虫、特にセミを好んで捕食するスズメバチで、樹液や花の蜜にも集まる。里山の松林に生息するハルゼミは、5月初旬に現れるが、この季節の本種の幼虫の重要な餌資源である。樹洞や石垣の隙間などの閉鎖的な空間に営巣することが多い。性質はやや荒く、攻撃性が強い。他のスズメバチに比べ、夕方遅くまで活動する。

生息状況と存続を脅かす要因：ハルゼミが生息するような里山の松林が、宅地開発や、放置されて植生の遷移が進んだために消失していることが減少の一因として指摘されている。

美濃加茂市産

分布：地区内　今回の調査で美濃加茂市から記録された。
県　内　記録は多くなく、飛騨、美濃の里山から知られている。

キイロヤマトンボ
Macromia daimoji　　ヤマトンボ科

加茂地区：情報不足
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：コヤマトンボに似るが、黄斑が発達しているためキイロヤマトンボと呼ばれる。周囲に樹林がある砂底の河川中流～下流に産する。分布は局所的である。

生息状況と存続を脅かす要因：河川改修や水質の悪化が考えられる。過去の記録では、木曽川中流域でも確認されており、広い範囲での調査が必要である。

県外産（撮影：常川　真）

分布：地区内　過去に美濃加茂市で記録（1982年）があるが、今回の調査では確認できなかった。
県　内　岐阜市、中津川市、御嵩町などで確認記録がある。

ネアカヨシヤンマ
Aeschnophlebia anisoptera　ヤンマ科

加茂地区：情報不足
岐 阜 県：情報不足
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：平地や丘陵地の樹林に囲まれた抽水植物が多い池や湿地などに生息する。成虫は、早朝や日没後（たそがれ時）に活動する。

生息状況と存続を脅かす要因：平地の池沼は埋め立てられやすく、改修や水質悪化、捕食者の放流などの脅威もある。

県外産（撮影：常川　真）

分布：地区内　美濃加茂市内で飛来個体1頭を確認
県　内　恵那市、笠松町で確認記録がある。

フタスジサナエ
Trigomphus interruptus　サナエトンボ科

加茂地区：情報不足
岐 阜 県：情報不足
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：4月中旬から6月中旬にかけて発生する小型のサナエトンボ。近縁のオグマサナエやコサナエも生息数は少ない。

生息状況と存続を脅かす要因：加茂地域では、過去の記録も少なく局所的である。溜池の改修や、捕食者の放流などに影響を受ける。

県内産（撮影：常川　真）

分布：地区内　坂祝町（2008年）、富加町（1993年）で確認記録があるが、今回の調査では確認できず。
県　内　美濃市、岐阜市など

モートンイトトンボ
Mortonagrion selenion　イトトンボ科

加茂地区：情報不足
岐 阜 県：－
環 境 省：準絶滅危惧

種の概要：平地から丘陵地の泥の深い湿地を好む。小型のイトトンボで、成熟したオスの腹部は鮮やかなオレンジ色になる。メスは、明るい黄緑色をしている。

生息状況と存続を脅かす要因：加茂地域内の産地でも草丈が高い植物が増え、水たまりが減って草原化している。湿地の埋め立てや開発も懸念される。

美濃加茂市産

分布：地区内　富加町から記録があり、今回の調査では2018年に美濃加茂市と坂祝町で確認できた。
県　内　県内各地から記録があるが、近年は生息地が減少している。

オツネントンボ
Simpecma paedisca　アオイトトンボ科

加茂地区：情報不足
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：オツネンとは越年の意味で、成虫越冬する。平地から山地の抽水植物が多い池や沼に生息する。同じように成虫越冬するホソミオツネントンボとよく似ているが、体色や胸部の斑紋などで区別できる。

生息状況と存続を脅かす要因：池沼の水質悪化が主な原因と思われる。

美濃加茂市産

分布：地区内　美濃加茂市北部で計2頭のみ確認できた。
県　内　中濃・東濃地方で確認されているが、1990年代以後は激減している。

アオイトトンボ
Lestes sponsa　　アオイトトンボ科

加茂地区：情報不足
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：本種とオオアオイトトンボ、コバネアオイトトンボはよく似ているが、本種の複眼はぬけるような青で、成熟したオスは胸部と腹端に白粉を生じる。

生息状況と存続を脅かす要因：当地域と隣接する関市では、抽水植物が繁茂する池で生息が確認できた。ため池の改修や水質悪化、捕食者の放流などの影響を受けていると考えられる。

県内産

分布：地区内　美濃加茂市（1975年）、富加町（1988年）で記録はあるが、今回の調査では確認できず。
県　内　各地の丘陵地帯から記録がある。近隣では2018年に笠松町と関市で確認した。

ヨツボシトンボ
Libellula quadrimaculata asahinai　　トンボ科

加茂地区：情報不足
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：平地から山地にかけて、水草の多い池や湿地等に生息する。前翅、後翅の結節部分に褐色斑がある美しいトンボである。

生息状況と存続を脅かす要因：他種同様、水質の悪化や池の埋め立て・改修工事、捕食者の放流による影響が心配される。

富加町

分布：地区内　富加町、七宗町から記録があり、今回の調査でも美濃加茂市、富加町、八百津町で確認できた。
県　内　県内各地から記録がある。

ネグロクサアブ
Coenomyia basalis　　クサアブ科

加茂地区：情報不足
岐 阜 県：－
環 境 省：情報不足

種の概要：やや大型の目立つ昆虫だが、アブといっても人を刺傷することはない。里山の、背景にある程度の規模の樹林があるところで見つかることが多い。また湿地的な環境の周囲で見つかることが多いが、生態はよくわかっていない。幼虫は朽ち木中に生息するという。

生息状況と存続を脅かす要因：今回の調査で、美濃加茂市で確認された。詳しい生態等は不明だが、里山環境に依存するものと推測され、その保全が必要である。

美濃加茂市産

分布：地区内　美濃加茂市で確認された。
県　内　可児市でも記録されている。確認例はたいへん少ない。

ミヤマカラスシジミ
Fixsenia mera　　シジミチョウ科

加茂地区：情報不足
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：－

種の概要：地味な色合いの蝶であるが、日本特産種で、クロウメモドキやクロツバラを食樹とする。一般には山地の渓流の周辺などに分布する。

生息状況と存続を脅かす要因：美濃加茂市の平野部から記録があるが、県内の他の本種の記録が山地であることから、やや異例な分布である。記録地は現在住宅地であり偶産等の可能性が否定できないが、実際に生息していれば、孤立した生息地となり絶滅の危険性は高い。今後の検討を要すると思われ、情報不足とした。

県外産

分布：地区内　美濃加茂市から記録がある。
県　内　飛騨市，高山市，揖斐川町，郡上市，山県市，本巣市の山地部から記録がある。

執筆：髙井　泰・酒向正美

（8）十脚甲殻類

加茂地区における貴重な動植物種としてモクズガニを選定した。加茂地区に分布する十脚甲殻類の種数は少なく、確実な在来種はスジエビ、サワガニ、モクズガニの 3 種のみである。スジエビとサワガニは比較的普通に見られる種であり、スジエビは平野部の河川や溜池に、サワガニは山間地の河川に広く生息することから、現状において絶滅のおそれは無いと判断された。モクズガニは木曽川と長良川水系の川浦川で確認されるが、必ずしも多くはない。モクズガニは河川で成長した後に河口や海域に下って交尾と産卵をおこなうため、河川横断構造物によって移動が阻害されることや、河川改修によって水路がコンクリート化されることで河川内での隠れ家などの生息場所が失われ、全国的に減少傾向にあるとされている（浜野・中田，2011）。加茂地区においても同様の問題があり、少なくとも現在のところ絶滅のおそれはないが、今後さらに生息環境が悪化した場合には絶滅危惧へと移行するものとして、準絶滅危惧と判断された。

十脚甲殻類選定種一覧

加茂地区カテゴリー	種　名	学　名	岐阜県カテゴリー	環境省カテゴリー
準絶滅危惧	モクズガニ	*Eriocheir japonica*	—	—

モクズガニ
Eriocheir japonica　　モクズガニ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：甲長7cm程度。河川に生息する大型のカニで、鋏脚の腕節から掌部に軟毛が密生して房状になる。河川で数年間成長した後に川を下り、海水の混じる河口域で交尾、産卵をおこなう。一度河口に下ったものは上流に戻ることなく、河口域で複数回の産卵をおこなう。孵化した幼生は塩分のある河口域や海域で成長し、稚ガニに変態して川を遡上する。夜行性で昼間は岩の下などに隠れている。

生息状況と存続を脅かす要因：生活史において海と川を行き来する必要があるため、ダムなどの河川横断構造物の影響を受けやすく、河川改修による隠れ場所の減少なども影響する。

美濃加茂市産

分布：地区内　美濃加茂市、富加町
県　内　木曽三川、土岐川

引用文献

浜野龍夫・中田和義（2011）モクズガニの生態と保全．川井唯史・中田和義（編）エビ・カニ・ザリガニ　淡水甲殻類の保全と生態学，pp169-172，生物研究社，東京．

執筆：向井貴彦

（9）淡水貝類

加茂地区における貴重な動植物種としてイシガイ科を中心に５種を選定した。マルタニシやオオタニシは山足部の溜池や水田などに多く見られることから貴重な動植物種には選定しなかったから除外した。ヌマガイなどの二枚貝類は危機的な状況におかれている。ヌマガイの生息する多くの池は管理されず、埋め立てられたり放置されつつある。美濃加茂市の池のいくつかでヌマガイは絶滅し、大きな殻だけが残っている。加茂地区の淡水貝類をカテゴリー別に見ると絶滅危惧Ⅱ類としてマツカサガイ、カタハガイ、イシガイなど３種、準絶滅危惧としてヌマガイ、外来種であるタイワンシジミとの明確な種の分類が出来ていないマシジミを情報不足とした。今後の調査に期待したい。

淡水貝類選定種一覧

加茂地区カテゴリー	種　名	学　名	岐阜県カテゴリー	環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類	マツカサガイ	*Inversidens japanensis*	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
	カタハガイ	*Obovalis omiensis*	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
	イシガイ	*Unio douglasiae douglasiae*	絶滅危惧Ⅱ類	—
準絶滅危惧	ヌマガイ	*Sinanodonta lauta*	—	—
情報不足	マシジミ	*Corbicula leana*	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類

マツカサガイ
Inversidens japanensis　　イシガイ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐　阜　県：絶滅危惧Ⅱ類
環　境　省：準絶滅危惧

種の概要：日本固有種。日本産イシガイ科貝類としては中型で殻長は約5～6cmである。殻長に比べて殻高がやや小さく楕円形で、殻のほぼ全面によく目立つマツカサのような波状の模様がある。緩やかな流れのある小河川や水路の砂泥底に体を半分以上しずめて生活する。繁殖期は4～8月頃で、幼生は魚類のタナゴ類やヨシノボリなどの鰓などに寄生して生活する。

生息状況と存続を脅かす要因：カタハガイより繁殖力は強いように思われるが、生息場所である小河川や用水路などは三面コンクリート化や土地改良事業で改変され生息環境が失われている。またタナゴを飼育する愛好家による採集圧も無視できない。

分布：地区内　美濃加茂市、坂祝町
県　内　美濃、西濃、中濃、東濃の小河川や水路

カタハガイ
Obovalis omiensis　　イシガイ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐　阜　県：絶滅危惧Ⅱ類
環　境　省：絶滅危惧Ⅱ類

種の概要：日本固有種。殻長は最大で8㎝ 前後の長卵形の二枚貝。二枚の殻のつなぎ目が前縁に片寄り、後縁は波うったように見え，分枝状の放射肋が認められる。擬主歯と後側歯のみで前側歯がない。この特徴がカタハガイ（片歯貝）の名の由来である。緩やかな流れのある小河川や用水路の砂泥底に生息している。幼生はコイ科やハゼ科の魚類に寄生し、タナゴ類の産卵母貝になる。

生息状況と存続を脅かす要因：地区内では唯一の生育場所も個体数が激減し危機的状況にある。移動分散能力が低いため、河川改修等による成貝の生息場所の消失が主な要因。また，幼生の寄主となるコイ科、ハゼ科の魚類の減少もカタハガイ減少の大きな要因である。

分布：地区内　坂祝町
県　内　西濃、美濃、中濃の小河川や水路

イシガイ
Unio douglasiae douglasiae　　イシガイ科

加茂地区：絶滅危惧Ⅱ類
岐 阜 県：絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省：－

種の概要：殻の長さ５～６㎝程度の二枚貝。殻は黒色で細長く片側がややとがる楕円形をしている。
緩やかな流れのある河川や用水路、池などの砂泥底に生息する。幼生（グロキディウム）は、タナゴ、ヨシノボリやオイカワなどに寄生し分布を広げる。タナゴ類の産卵母貝である。

生息状況と存続を脅かす要因：加茂地区では川辺ダムと木曽川のワンドで確認されているだけである。川辺ダムでも生息が確認されているが、水深が深く採集が困難で、個体数の把握は出来ていない。河川改修などによる成貝の生息場所の消失、寄主となるタナゴ類等の減少によって個体群の維持が出来なくなっていると思われる。

分布：地区内　美濃加茂市、川辺町
県　内　美濃平野部の河川や小水路

ヌマガイ
Sinanodonta lauta　　イシガイ科

加茂地区：準絶滅危惧
岐 阜 県：－
環 境 省：－

種の概要：川や池の底の泥中に生息する。ドブガイと呼ばれることがある。よく似た貝にタガイやカラスガイがある。タガイは大きくなっても殻長１０㎝程度、ヌマガイは２０㎝以上になる。カラスガイは殻の内面の片側に長いかみ合わせがあるがヌマガイやタガイにはない。タナゴ類、特にタイリクバラタナゴの産卵母貝となっている。

生息状況と存続を脅かす要因：美濃加茂市や川辺町などの多くの溜池に生息していたが、池の改修や外来生物の繁殖などで、池の生態系が変化し、表面が割れた大きな殻だけが多く見られるようになった。開発による埋め立てや溜池の改修などがヌマガイの減少を引き起こす要因となっている。

分布：地区内　美濃加茂市、川辺町
県　内　美濃地方の溜池、河川

マシジミ
Corbicula leana　　イシガイ科

加茂地区：情報不足
岐 阜 県：準絶滅危惧
環 境 省：絶滅危惧Ⅱ類

マシジミの可能性のある個体

種の概要：殻長30mm程度の三角形をした二枚貝である。殻表にやや粗い成長脈がある。殻の表面は黄褐色から黒色である。比較的きれいで流れのある木曽川やその支流、用水路の砂泥底に生息し、木曽川本流ではやや大型化する。近年、明らかにタイワンシジミと思われる個体も多く見られるようになった。

生息状況と存続を脅かす要因：本種が生息するような清流の河川の多くは改修工事により川底に砂泥が堆積する場所が失われている。それに加え、異常ともいえる繁殖力でタイワンシジミが繁殖し、美濃加茂や坂祝の河川で普通に見られるようになった。多くのマシジミの生育場所でタイワンシジミに置き換わっていると考えられる。

分布：地区内　美濃加茂市、坂祝町、富加町、川辺町
県　内　県内各地の河川

執筆：安藤志郎・小栗克彦